www.e-welcom.com
A Group of CIPHER LAB
WELCOM DESIGN

Dr.Suketto
（for TSC）
操　作　ガ　イ　ド

MODEL 80XX Series
MODEL 83XX Series

TSC　TTPシリーズ
TSC　TDPシリーズ

改　訂　記　録		
番号	改訂日	内　容
Rev.1.0	Nov.2005	初版
Rev.1.1	Feb.2006	80xxシリーズ　2MBフラッシュROM用フォント対応 PDT_UP/PDT_DOWNの仕様変更に伴う変更

1. 本書の著作権はウェルコムデザイン株式会社に属します。
2. 本書の内容は、改良のため、将来予告無く変更する場合があります。
3. 本書の全部または一部を無断で複製することはできません。
4. 本書内に記載している製品名等の固有名詞は、弊社または各社の商標または登録商標です。
5. 本書内において、誤り・記載漏れなど、お気付きの点がありましたらご連絡ください。
6. 本プログラムを運用した結果生じる影響について、弊社では一切責任を負いません。
   あらかじめご了承ください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

目　次

1. はじめに 5

1．1　特徴および主な機能 6
1．2　CD収録ファイルについて 7
1．3　本書の表記に関する注意事項 8
1．4　ライセンスについて 8
1．5　ユーザー登録について 8

2. 使用する機器について 9

2．1　機器構成 9
2．2　パーソナルコンピュータ（PC） 10
2．3　プリンタ（PR） 11
2．4　ハンディターミナル（HT） 12
2．5　ハンディターミナル（HT）の準備１－フォントのダウンロード 15
2．6　ハンディターミナル（HT）の準備２－ランタイムのダウンロード 17

3. 概要手順 19

4. 定義ファイルの作成とダウンロード 20

4．1　作成の前に 21
4．2　定義ファイルの作成 23
4．3　定義ファイルのダウンロード 36

5. マスタデータの作成とダウンロード 38

5．1　マスタデータの作成 39
5．2　マスタデータのダウンロード 41

6. ペアリング 43

6．1　ペアリング（スキャン） 44
6．2　ペアリング（検索） 45

7. 処理の実行 47

7．1　処理の実行 47
7．2　実行時のイメージ 48

8. アップロード 49

8．1　データのアップロード 49

9. メニュー 52

9．1　メニュー画面関連図 52

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9. 2 メインメニュー 53
9. 3 処理の実行 53
9. 4 ファイルメニュー 54
9. 5 プリンタメニュー 56
9. 6 設定メニュー 58
9. 7 ユーティリティメニュー 60

10. 定義ファイル仕様 61

10. 1 定義ファイルの形式 61
10. 2 セクション 61
10. 3 コメント 61
10. 4 空白 61
10. 5 コード 61
10. 6 変数 62
10. 7 使用可能なファイル形式 63
10. 8 置き換え 63
10. 9 コマンドや設定の詳細説明について 64

11. 動作環境設定セクション(ENV-SECTION) 66

11. 1 セクション開始宣言($ENV-SECTION) 69
11. 2 使用プリンタ情報指定(PRINTER) 69
11. 3 定義ファイル名称設定(NAME) 69
11. 4 マスタサイズ定義(M1～M6) 70
11. 5 プリンタ接続・初期化設定(AUTOCNCT) 71
11. 6 プリンタ状態チェック設定(STATUSCHK) 71
11. 7 確認メッセージ表示設定(PRINTMSG) 72
11. 8 再印刷メッセージ表示設定(RETRYMSG) 72
11. 9 置き換え・編集開始文字の指定(VARSTART) 73
11. 10 置き換え・編集終了文字の指定(VAREND) 73
11. 11 制御コード自動付加(AUTOCTRL) 74
11. 12 印刷ログ設定(PRINTLOG) 75
11. 13 リーダ設定(SCANMODE) 76
11. 14 読取照合回数設定(VERIFY) 77
11. 15 読取タイムアウト設定(TIMEOUT) 77
11. 16 読取時ENT入力設定(AUTOENT) 77
11. 17 コード39読取設定(CODE39) 78
11. 18 コード93読取設定(CODE93) 78
11. 19 コード128読取設定(CODE128) 78
11. 20 インダストリアル25読取設定(INDUSTRIAL25) 79
11. 21 インターリーブド25読取設定(INTERLV25) 80
11. 22 マトリックス25読取設定(MATRIX25) 81

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 23 NW7読取設定(NW7) ... 82
11. 24 UPCE読取設定(UPCE) ... 83
11. 25 UPCEアドオン2読取設定(UPCE-2) ... 83
11. 26 UPCEアドオン5読取設定(UPCE-5) ... 83
11. 27 EAN8読取設定(EAN8) ... 84
11. 28 EAN8アドオン2読取設定(EAN8-2) ... 84
11. 29 EAN8アドオン5読取設定(EAN8-5) ... 84
11. 30 EAN13&UPCA読取設定(EAN13) ... 85
11. 31 EAN13アドオン2読取設定(EAN13-2) ... 85
11. 32 EAN13アドオン5読取設定(EAN13-5) ... 85
11. 33 MSI読取設定(MSI) ... 86
11. 34 Plessey読取設定(PLESSEY) ... 87
11. 35 Telepen読取設定(TELEPEN) ... 87
11. 36 イタリアンファーマコード読取設定(PHARMA) ... 88
11. 37 CIP39読取設定(CIP39) ... 88
11. 38 RSS14読取設定(RSS14) ... 89
11. 39 RSS14リミテッド読取設定(RSS14LM) ... 89
11. 40 RSS14エクスパンド読取設定(RSS14EX) ... 90
11. 41 ネガバーコード読取設定(NEGACODE) ... 90

12. 変数・コード定義セクション(DEF-SECTION) ... 91

12. 1 セクション開始宣言($DEF-SECTION) ... 92
12. 2 文字型変数定義(STR) ... 92
12. 3 整数型変数定義(INT) ... 92
12. 4 実数型変数定義(REAL) ... 93
12. 5 コード定義(CONST) ... 93

13. 入力画面定義セクション(INPUT-SECTION) ... 94

13. 1 セクション開始宣言($INPUT-SECTION) ... 98
13. 2 画面のクリア(CLS) ... 98
13. 3 行のクリア(CLL) ... 98
13. 4 項目の表示(DISP) ... 99
13. 5 データの入力(INPUT) ... 101
13. 6 選択入力(LIST) ... 107
13. 7 待機(WAIT) ... 109
13. 8 ブザー(BUZZER) ... 109
13. 9 値の設定(=) ... 110
13. 10 マスタ検索(GET) ... 110
13. 11 マスタ出力(PUT) ... 111
13. 12 データ出力(WRITE) ... 112
13. 13 レコードの削除(REMOVE) ... 112

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 14　レコード件数の取得（COUNT）……113
13. 15　ファイルの削除（DELETE）……113
13. 16　ファイルのアップロード（UPLOAD）……114
13. 17　マスタのダウンロード（DOWNLOAD）……114
13. 18　飛び先名の宣言（:）……114
13. 19　条件分岐（IF）……115
13. 20　無条件分岐（GOTO）……115
13. 21　プリンタ設定の実行（PRINTSET）……116
13. 22　印刷の実行（PRINTOUT）……117

14.　プリンタ設定定義セクション（PRSET-SECTION）……118

14. 1　セクション開始宣言（$PRSET-SECTION）……119
14. 2　設定の開始宣言（$START）……119
14. 3　設定の終了宣言（$END）……120
14. 4　ステータス受信（$RECEIVE）……120

15.　ラベル定義セクション（LABEL-SECTION）……121

15. 1　セクション開始宣言（$LABEL-SECTION）……122
15. 2　ラベルの開始宣言（$START）……122
15. 3　ラベルの終了宣言（$END）……123
15. 4　ステータス受信（$RECEIVE）……123

16.　編集方法……124

16. 1　書式指定……125
16. 2　抽出(: -)……127
16. 3　結合(&)……128
16. 4　計算……129
16. 5　日時編集（DATE）……131

17.　画面レイアウトシート……134

17. 1　Model80XXシリーズ……134
17. 2　Model83XXシリーズ……136

18.　システム制限……138

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

1. はじめに

本書は、弊社ハンディターミナル専用アプリケーション「Dr.Suketto」の操作ガイドです。
構成は以下の通りです。

1. はじめに
2. 使用する機器について
   「Dr.Suketto」を使用するために必要な機器やその準備方法などを説明しています。
3. 概要手順 ～ 8. アップロード
   「Dr.Suketto」を業務で使用するための手順について説明しています。
   定義ファイルについては概略説明ですので、作成の入門編としてお読みください。
9. メニュー
   各メニューから実行できる機能を、メニューに沿って説明しています。
10. 定義ファイル仕様 ～ 16. 編集方法
    定義ファイルの各セクションおよび設定・コマンドの詳細説明です。
17. 画面レイアウトシート
    ハンディターミナルの画面レイアウトを作成するためのシートです。
18. システム制限
    変数の値の範囲やコマンドに関する制限などをまとめた資料です。

下記については、本書とは別に説明書がありますので、あわせてご参照ください。

ハンディターミナルの操作 ・・・ 各ハンディターミナルの取扱説明書
本書内で使用するPC用ツール ・・・ 各ツールの取扱説明書
プリンタの操作および言語 ・・・ 使用するプリンタに添付の説明書

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

1.1　特徴および主な機能

「Dr.Suketto」は、ハンディターミナルの操作やプリンタでの印刷をサポートする、ハンディターミナル専用のアプリケーションです。
ハンディターミナルのデータ表示や入力は、簡単なコマンドで自由に設計できるため、難しいプログラミングなしにハンディターミナルでの業務処理を作成することができます。また、「Dr.Suketto」がプリンタとの通信を自動的に行うため、プリンタとの通信プロトコルを意識せずに、プリンタの機能を生かした印刷が可能です。コマンドや印刷レイアウトは、定義ファイル（コマンドファイル）に記入し、ハンディターミナルにダウンロードして使用します。複数の定義ファイルをダウンロードしておけば、業務に応じて切り替えて使用することができます。

- ハンディターミナルの制御
  - 簡単なコマンドを記入した定義ファイルに従って動作
  - 表示・入力項目は位置・入力桁数など、自由に設定
  - 各項目ごとに使用フォントの指定が可能（ラージ/ミディアムまたはミディアム/スモール）
    ※ミディアム／スモールは80XXシリーズのみ
  - 複数の定義ファイルをダウンロードし、選択して実行可能
  - 自動実行やパスワードの設定により、作業時に実行できる機能を制限
  - ハンディターミナルで読取可能なバーコードを簡単設定
  - 計算機能（四則演算・桁位置を指定して四捨五入・切り捨て・切り上げ）
  - 日付計算・編集機能

- 印刷
  - プリンタ言語（プリンタコマンド）を使用するため、プリンタの機能を最大限に活用可能
  - 1つの定義ファイルで、複数の印刷レイアウトの登録が可能
  - ハンディターミナルで入力したデータや、マスタファイルのデータの差込印刷
  - 連番機能（ラベル1枚ごとの番号、通し番号など）
  - 四則演算機能（四則演算・桁位置を指定して四捨五入・切り捨て・切り上げ）
  - 日付計算・編集機能
  - 印刷ログ機能（ログ項目は10個まで自由）

- マスタファイル（インデックスファイル）
  - 最大6個のマスタファイル（インデックスファイル）に対応
  - 1つのマスタにつき10フィールドまで使用可能
  - 参照および登録・更新・削除に対応
  - 指定範囲データの逐次読み出し処理機能
  - PC側で作成したマスタデータのダウンロードに対応
  - ハンディからの入力データを収集し、アップロードすることも可能
  - 収集項目は、10個まで自由に指定

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

- データファイル（ログファイル）
  - 最大3個のデータファイルを使用可能
  - ハンディからの入力データや、印刷したデータのログを収集し、アップロードすることも可能
  - 収集項目は、10個まで自由に指定

- データアップロード機能
  - ハンディターミナルで収集したデータ（マスタファイル・データファイル）をPCにアップロード
  - CSV形式・MDB形式・XLS形式での記録に対応（各機能に対応したPC用ツールを使用）
  - アップロードしたファイルをメールに添付して指定アドレスに送信（CSV形式のみ）

1．2　CD収録ファイルについて

以下のファイルを、CDに収録しています。

機　　能		名　称	使用場所
プログラムダウンロードツール		ProgLoad.exe	PC
ファイルダウンロードツール		Pdt_down.exe	PC
ファイルアップロードツール	（CSV形式）	Pdt_up.exe	PC
	（XLS形式）	Pdt_up_xls.exe	PC
	（MDB形式）	Pdt_up_mdb.exe	PC
HT用ランタイム	（80XXシリーズ）	SK80_TSC.SHX	HT
	（83XXシリーズ）	SK83_TSC.SHX	HT
HT用フォントファイル　※全機種共通	（ﾗｰｼﾞ/ｽﾓｰﾙ）	8xxx-J16.shx	HT
※80XXシリーズ	（ﾐﾃﾞｨｱﾑ/ｽﾓｰﾙ）	8xxx-J12.shx	HT

注）HT用フォントファイルについて

80XXシリーズの場合、実際に使用するフォントファイルは、カーネルのバージョンおよびフラッシュROMのサイズによって異なりますが、本書中では、便宜上、上記表中の名称で説明を行います。

詳細は、「2．5　ハンディターミナル（HT）の準備１－フォントのダウンロード」をご参照ください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

1．3　本書の表記に関する注意事項

・本書に掲載している画面イメージは、特に記載のない限り、PC側はWindowsXP、ハンディターミナル側はModel8061での表示例です。その他の機器をご使用の場合は、表示が異なる場合があります。

・本書内では、下記の略称を使って表記する場合があります。

パーソナルコンピュータ	PC
ハンディターミナル	HT
プリンタ	PR

・半角１文字と記載の場合は1バイト、全角１文字の場合は2バイトとなります。

1．4　ライセンスについて

Dr.Suketto のライセンスは、開発ライセンスとなっております。
ご購入いただいたDr.Suketto のランタイムは、お客様が作成された定義ファイルと同時に配布される場合に限り、再配布可能となっております。再配布時のランタイムライセンスはフリーです。
Dr.Suketto に関連する説明書やファイルの著作権は弊社に帰属しております。
ランタイム以外のファイル（弊社で作成した説明書や定義ファイルなど）は、無断で複製・再配布・改変・販売を行うことはできません。

1．5　ユーザー登録について

Dr.Suketto を購入し、ユーザー登録をいただいたお客様には、Dr.Suketto のバージョンアップやアップグレードのご案内をさせていただきます。
巻末のユーザー登録シートに必要事項をご記入の上、FAXでご連絡ください。
また、弊社WEBサイト（http://www.e-welcom.com/）からも、ご登録いただけます。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 使用する機器について

この章では、「Dr.Suketto」を使用するために必要な機器について説明します。

2. 1 機器構成

基本的な機器の構成は以下の通りです。パーソナルコンピュータ(PC)は、ハンディターミナル(HT)で使用するファイルの作成や、ダウンロード・アップロードに必要です。印刷を行わない場合にはプリンタ(PR)は必要ありません。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 2　パーソナルコンピュータ(PC)

「Dr.Suketto」では、ハンディターミナルで使用するファイル(定義ファイルやマスタのデータ)を作成し、ハンディターミナルにダウンロードするために、また、ハンディターミナルのデータをアップロードするためにパーソナルコンピュータ(PC)が必要です。以下の条件にあうPCをご用意ください。

・PC　　IBM互換PC
・OS　　WINDOWS　98／ME／NT4．0(SP5～)／2000／XP
・メモリ　　128MB以上

PCには、ダウンロード・アップロードに必要なツールをインストールします。各ツールは、添付CDの「PC用ﾂｰﾙ」フォルダに収録しています。

インストール

【プログラムダウンロードツール　－　Progload　－】

1．「ProgLoad.exe」をPCの適当なフォルダにコピーしてください。

【ファイルダウンロードツール　－　Pdt_down　－】

1．「Pdt_down ﾌｧｲﾙﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ(ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ等)」フォルダの「setup.exe」を実行してください。
2．表示されるメッセージに従ってインストールしてください。

【ファイルアップロードツール　－　Pdt_up　－】

1．保存する形式に応じたアップロードツールをインストールします。
　下記のフォルダにあるいずれか(またはすべて)の「setup.exe」を実行してください。
　　CSV形式　　「Pdt_up ﾌｧｲﾙｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ(CSV形式)」フォルダ
　　XLS形式　　「Pdt_up_xls　ﾌｧｲﾙｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ(EXCEL形式)」フォルダ
　　MDB形式　　「Pdt_up_mdb ﾌｧｲﾙｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ(MDB形式)」フォルダ
2．表示されるメッセージに従ってインストールしてください。

アンインストール

【プログラム・フォントダウンロードツール　－　Progload　－】

1．コピーした「ProgLoad.exe」を削除してください。

【その他】

1．「スタート」->「コントロールパネル」->「プログラムの追加と削除」で一覧を表示します。
2．アンインストールするプログラムを選択し、アンインストールを行います。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 3　プリンタ(PR)

ここでは、「Dr.Suketto」で使用するプリンタ(PR)について説明します。

対応プリンタ

印刷を行う場合は、TTP/TDPシリーズのプリンタをご用意ください。

※本書内の説明では、TDP-245の写真を使用していますが、他のプリンタも使用可能です。

シリアル／Bluetooth変換アダプタ

Dr.Suketto を使用して、TTP/TDPシリーズで印刷を行う場合は、シリアル／Bluetooth変換アダプタ(以下、BTアダプタ)が必要です。BTアダプタは、プリンタのシリアルポート(RS232Cポート)に接続して使用します。Bluetooth(SPP)に対応したBTアダプタをご用意ください。

BTアダプタの操作・設定の詳細に関しては、BTアダプタの取扱説明書をご参照ください。

BDアドレスの確認

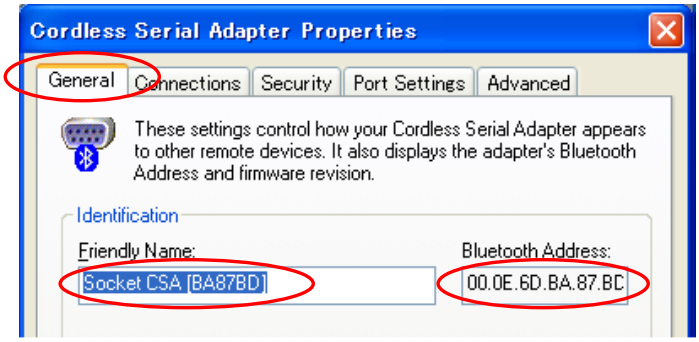
プリンタを使用するためには、ハンディターミナルとBTアダプタをペアリングする必要があります。ペアリングに必要なのが、BDアドレスです。

ペアリング(Pairing)・・・Bluetooth対応機器をお互いに登録すること

BDアドレス(Bluetooth Device Address)・・・Bluetooth機器1台毎に固有の番号

BDアドレスの確認方法は、ご使用のBTアダプタによって異なりますので、BTアダプタの取扱説明書をご参照ください。ここでは、例として、BT-CS0400(Socket Communications, Inc「Cordless Serial Adapter」)を使って説明します。

1. BT-CS0400(Cordless Serial Adapter)のユーティリティを、付属のCDから、PCにインストールします。
2. BT-CS0400を付属のコネクタ(NULL MODEM)に差込み、PCのシリアルポートに接続します。
3. BT-CS0400に電源ケーブルを接続します。
4. インストールしたユーティリティを起動します。
5. ①「COM port」をクリックして、COMポートを選択します。
6. ②「Get from adapter」をクリックして、設定を取得します。
7. ③「Properties...」をクリックして、「General」タブを表示します。



「Bluetooth Address」に表示されている文字から、「.」を除いた12桁の文字がBDアドレスです。この例では、「000E6DBA87BC」となります。また、ペアリング(検索)を行う場合にはプリンタの名称(例ではFriendly Nameに表示)も必要になります。控えておいてください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 4　ハンディターミナル（HT）

ここでは、「Dr.Suketto」を実行するハンディターミナル（HT)について説明します。

対応機種

「Dr.Suketto」が対応しているハンディターミナルは以下の通りです。

・本体　　Model80XXシリーズ／Model83XXシリーズ

※プリンタ使用の場合は、Bluetooth対応機種であること

・ケーブル　使用機種に対応したクレードル・ケーブルなど（RS232C）

本書の表記

1. 本書内では、ハンディターミナルのキーを下記の通り表記します。

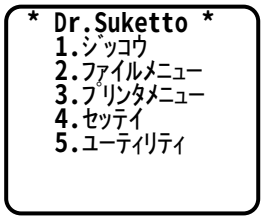
キ　ー	表　記	キ　ー	表　記
電源キー		トリガキー	
エンターキー		エスケープキー	ESC
上矢印キー		下矢印キー	
右矢印キー		左矢印キー	
数字キー	0 ～ 9	バックスペースキー	BS
ファンクションキー	FN	アルファキー	α

※80XXシリーズでは、ファンクションキーとアルファキーは同一のキーです。

2. 2つ以上のキーを「＋」記号でつないでいる場合は、同時に押すことをあらわします。

例）FN ＋ 1　　ファンクションキーと数字キーを同時に押します。

3. 本書中ではハンディターミナルの画面、下記のように記載します。Model80XXシリーズで表示した場合のイメージです。（下記はメインメニューのイメージ）



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

基本的な操作

ハンディターミナルの基本的な操作を以下に記します。詳細は各ハンディターミナルの取扱説明書をご参照ください。

機　能	操 作 方 法
電源をONにする	⏻ を押します。
電源をOFFにする	⏻ をしばらく（1．5秒以上）押します。
メニューから選択・実行する	実行する項目の番号を入力するか、▼ ▲ を押して選択状態（反転表示）にして、↵ を押します。
1つ前のメニュー（または項目）に戻る	ESC を押します。
バーコードをスキャンする	⬭ を押します。（設定モードにより動作は異なります）
文字を入力する	入力する文字のキーを押すと、入力モードに対応した文字が入力できます。モードの切り替えは α キーで行います。現在のモードは画面右にアイコンで表示されます。 表示なし・・・数字・記号の入力 「A」表示・・・英大文字の入力 「a」表示・・・英小文字の入力 「F」表示・・・ファンクション入力 1つのキーに複数の文字が割り付けられている場合は、同じキーを押すたびに割り付けられている文字が順番に表示されます。（「A」または「a」が表示されている状態で入力してください）
1文字削除する	BS を押すと、カーソルの前の文字が削除されます。
入力した項目をクリアする	BS を1秒以上押します。

表示可能な文字について

定義ファイルやマスタデータに機種依存文字が含まれている場合、ハンディターミナルでは文字化けが発生します。 表示が化けた文字であっても、プリンタが対応している文字であれば、印刷は可能です。

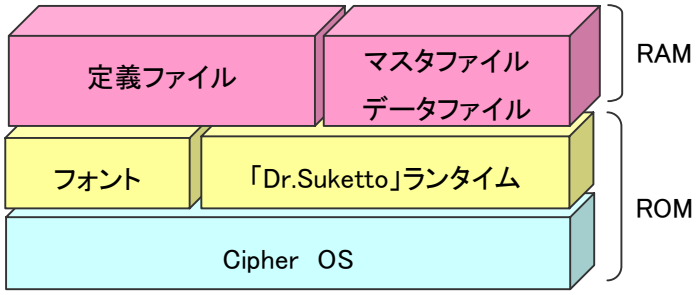
例） PC上では「㈱」と表示される文字が、ハンディターミナルでは「蟹」と表示される。
プリンタでは、「㈱」と印刷される。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

メモリ構成

「Dr.Suketto」実行時のメモリ構成は以下の通りとなります。

ハンディターミナルのメモリにはROMとRAMの２種類があり、ROMにはCipher OS・フォント・ランタイムが、RAMには定義ファイル・マスタファイル・データファイルが保存されます。



【Cipher OS】

弊社ハンディターミナル専用のオペレーティングシステムで、出荷時にインストール済みです。フラッシュメモリをクリアしても、消えることはありません。

【フォント】

日本語フォントファイルです。フォントファイルには16ドットフォントファイルと12ドットフォントファイルがあります。いずれかをハンディターミナルにダウンロードして使用します。

出荷時に、16ドットフォントファイル（ラージ／スモールフォント対応）をインストール済みですので、ミディアムフォントを使用する場合以外は、そのままお使いいただけます。

ダウンロード方法は、「2．5 ハンディターミナル（HT）の準備１－フォントのダウンロード」をご参照ください。

【「Dr.Suketto」ランタイム】

「Dr.Suketto」のランタイム（プログラム）です。

出荷時にインストール済みの場合は、そのままお使いいただけます。

ハンディターミナルに他のプログラムがインストールされている場合や、ランタイムを更新する場合には、ダウンロードする必要があります。

ダウンロード方法は、「2．6 ハンディターミナル（HT）の準備２－ランタイムのダウンロード」をご参照ください。

【定義ファイル】

ハンディターミナルで実行するコマンドや、印刷イメージを記載したファイルです。

業務にあわせて作成し、ハンディターミナルにダウンロードして使用します。

【マスタファイル】

データの検索に使用するファイルです。マスタデータをPCで作成しハンディターミナルにダウンロードして使用するか、定義ファイル実行時に入力したデータを書き込んで作成します。

【データファイル】

定義ファイル実行時に入力したデータを収集するファイルです。検索には使用できません。

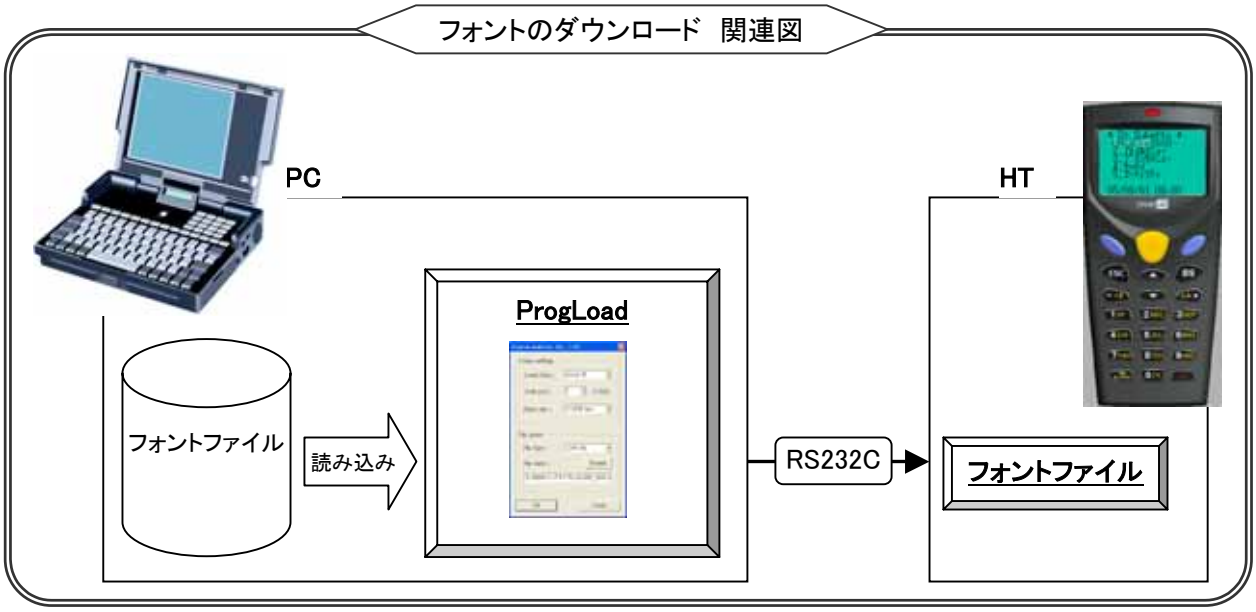
定義ファイルやマスタファイル、データファイルについては3章以降をご参照ください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 5　ハンディターミナル（HT）の準備１－フォントのダウンロード

HTで使用するフォントファイルをダウンロードします。ダウンロードは、ハンディターミナルとPCをRS232Cで接続して行います。

出荷時は16ドットフォントファイル（ラージ／スモールフォント）をインストールしていますので、12ドットフォントファイル（ミディアム／スモールフォント）を使用する場合や、12ドットフォントファイルから16ドットフォントファイルに戻す場合に必要です。　　※12ドットフォントファイルは80XXシリーズのみ対応



使用するフォントファイルは、カーネルのバージョンおよびフラッシュROMのサイズによって異なります。間違ったフォントファイルをダウンロードすると、文字化けが発生します。

・80XXシリーズで、カーネルバージョンがV3.10以降かつフラッシュROMサイズが2MBの場合

ﾗｰｼﾞ/ｽﾓｰﾙ	機種¥ﾌｫﾝﾄ¥2MBFROM¥Font_8x00_Japanese16.shx
ﾐﾃﾞｨｱﾑ/ｽﾓｰﾙ	機種¥ﾌｫﾝﾄ¥2MBFROM¥Font_8x00_Japanese12.shx

・上記以外の場合

ﾗｰｼﾞ/ｽﾓｰﾙ	機種¥ﾌｫﾝﾄ¥8xxx-J16.shx
ﾐﾃﾞｨｱﾑ/ｽﾓｰﾙ	機種¥ﾌｫﾝﾄ¥8xxx-J12.shx　（※80XXのみ）

カーネルのバージョンとフラッシュROMのサイズの確認方法

1. ⏻ をしばらく押して、一旦電源をOFFにし、7 ＋9 ＋⏻ を押して電源を投入すると、「System Menu」が表示されます。
2. 「System Menu」で「1 Information」を選択すると、各種バージョン情報が表示されます。「KNL:8xxxK-X.XX」の「X.XX」がカーネルのバージョンです。
3. 「System Menu」で「4 Memory」->「1 Size Info.」の順に選択すると、メモリーサイズがKB単位で表示されます。「Flash : xxxxKB」の「xxxx」がフラッシュROMのサイズです。2MBフラッシュROMの場合は、「2048KB」と表示されます。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

処理手順は次の通りです。

No		手　順	詳　細
1	PC	プログラムダウンロードツール（ProgLoad.exe）を起動し、必要な設定を行ないます。	下記の通り設定してください。 ・Comm type : ダウンロード時の接続方法を指定 直接接続　・・・「RS232/IrDA 」 クレードルまたはIR-705使用　・・・「Serial IR 」 ・COM port : ダウンロードに使用するポート番号 ・Baud rate : ボーレート（通信速度） 115200bpsを選択 ・File type :「.SHX file」を選択 ・File name :「Browse」をクリックし、ファイルを参照・選択
2	HT	「System Menu」を表示します。	⏻ をしばらく押して、一旦電源をオフにします。 次に、7 ＋9 ＋⏻ で、電源を投入すると、「System Menu」が表示されます。
3	HT	「Load Program」を表示します。	「System Menu」で「6 Load Program」を選択し、「Load Program」画面を表示します。
4	HT	フラッシュメモリをクリアします。	FN ＋ 9 を押します。ブザーがなり、「Erasing Flash Memory...」画面が表示されますので、「*Erase Complete*」が表示されるまで、そのまましばらく待ちます。表示されたら、↵ を押して「Load Program」画面に戻ります。
5	HT	「Load Program」画面で、接続方法を選択します。	直接接続の場合・・・「Direct-RS232」 クレードルおよびIR-705を使用する場合・・・「Cradle-IR」 IrDAインターフェースを使用する場合・・・「IrDA」
6	HT	ボーレートを選択します。	「Baud Rate」選択画面が表示された場合は、「115200」を選択します。選択すると、受信待ち状態になります。
7	―	PCとHTを接続します。	PCとHTをRS232Cで接続します。クレードルを使用する場合はハンディターミナルをクレードルに置いてください。
8	PC	ダウンロードを開始します。	ProgLoadの「OK」ボタンをクリックすると、ダウンロードが始まりますので、そのまましばらく待ちます。
9	PC	ダウンロード完了！	ダウンロードが終了すると「Download Successfully!」と表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。
10	HT	ダウンロード完了！	ダウンロードが終了すると「*** Complete ***」と表示されます。↵を押して「Load Program」画面に戻ります。

※フォントをダウンロードした場合は、「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードも必要です。
　ランタイムのダウンロードの手順4から実行してください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 6　ハンディターミナル（HT）の準備２－ランタイムのダウンロード

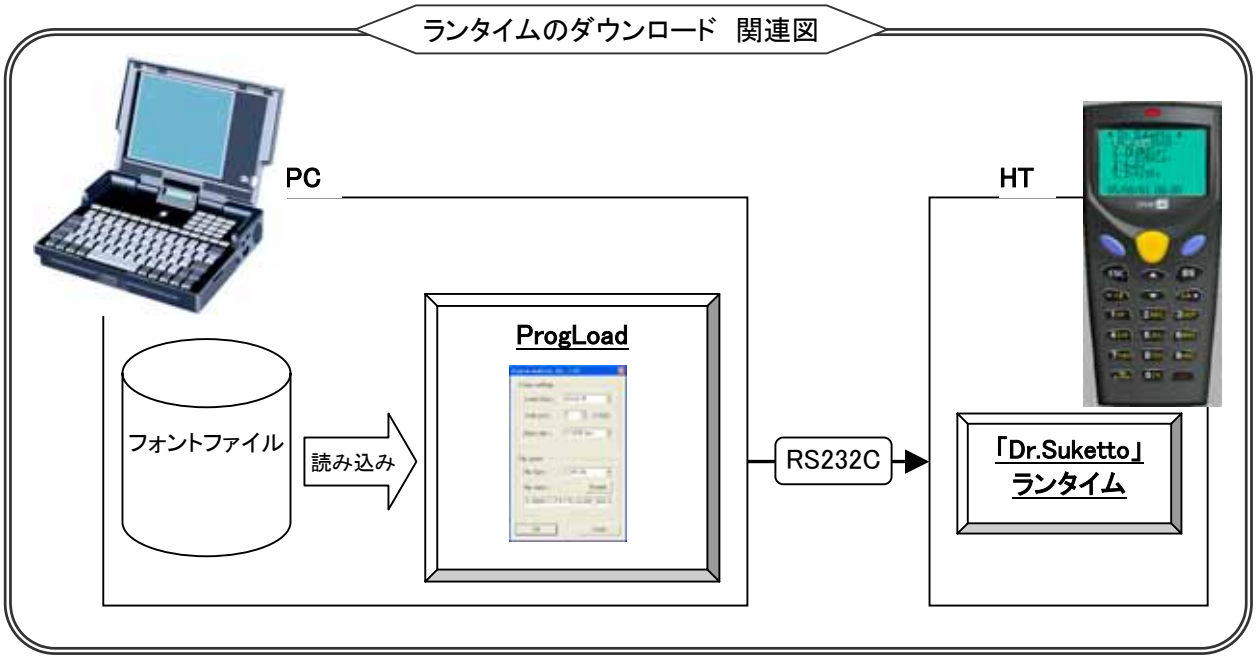
「Dr.Suketto」ランタイムをHTにダウンロードします。ダウンロードは、ハンディターミナルとPCをRS232Cで接続して行います。

下記の場合にランタイムのダウンロードが必要です。

・フォントのダウンロードを行った場合

・HTで「Dr.Suketto」以外のランタイムを使用していた場合

・「Dr.Suketto」のランタイムを更新する場合



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

処理手順は次の通りです。

<table>
<tr><th>No</th><th></th><th>手　順</th><th>詳　細</th></tr>
<tr><td>1</td><td>PC</td><td>プログラムダウンロードツール（ProgLoad.exe）を起動し、必要な設定を行ないます。

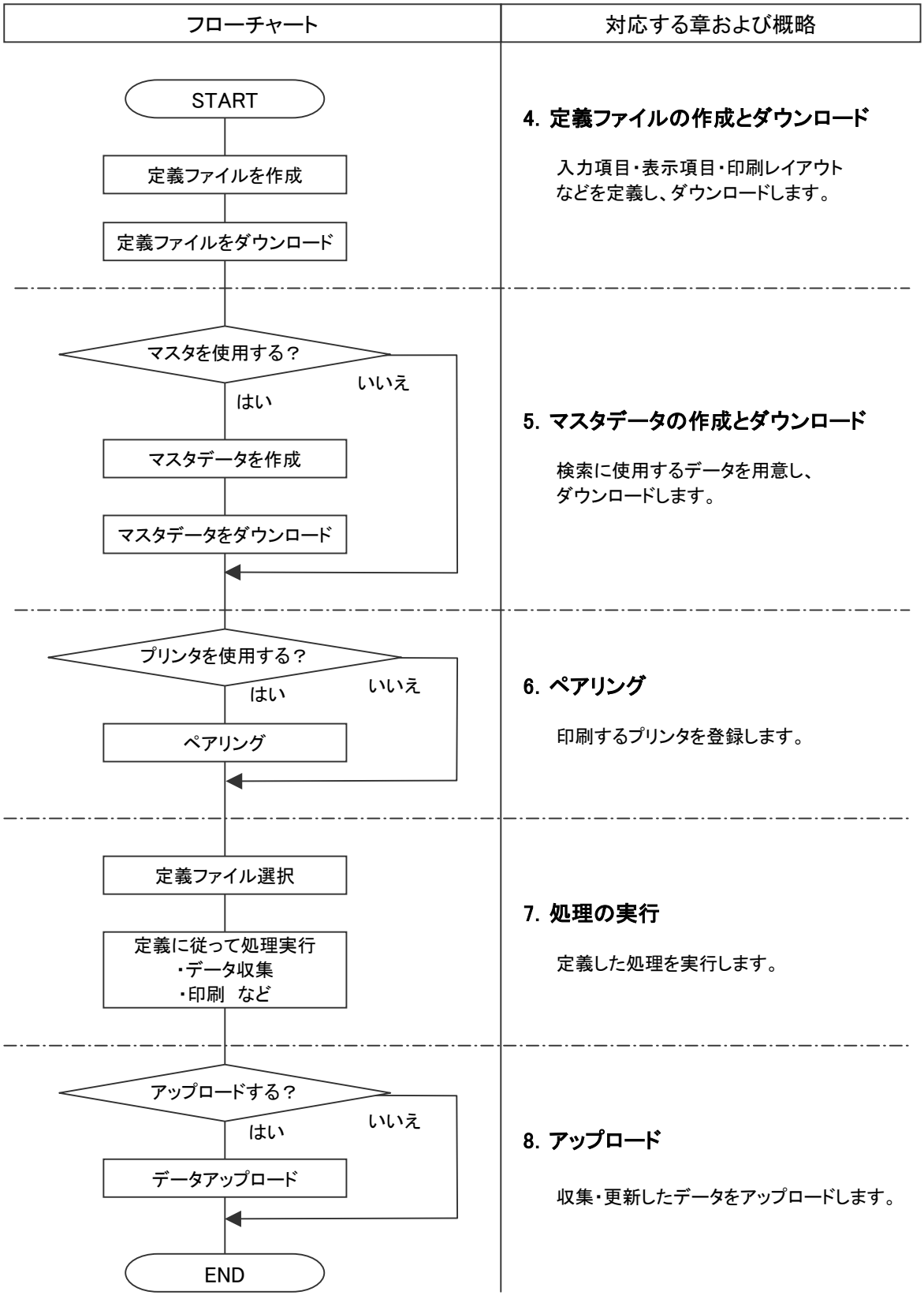
</td><td>下記の通り設定してください。
・Comm type : ダウンロード時の接続方法を指定
直接接続　・・・「RS232/IrDA 」
クレードルまたはIR-705使用　・・・「Serial IR 」
・COM port : ダウンロードに使用するポート番号
・Baud rate : ボーレート（通信速度） 115200bpsを選択
・File type :「.SHX file」を選択
・File name :「Browse」をクリックし、ファイルを参照・選択
<table><tr><td></td><td>Model80XX</td><td>Model83XX</td></tr><tr><td>フォルダ</td><td>80XXｼﾘｰｽﾞ¥ﾗﾝﾀｲﾑ</td><td>83XXｼﾘｰｽﾞ¥ﾗﾝﾀｲﾑ</td></tr><tr><td>ランタイム</td><td>SK80_TSC.SHX</td><td>SK83_TSC.SHX</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>2</td><td>HT</td><td>「System Menu」を表示します。</td><td>⏻ をしばらく押して、一旦電源をオフにします。
次に、7 +9 +⏻ で、電源を投入すると、「System Menu」が表示されます。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>HT</td><td>「Load Program」を表示します。</td><td>「System Menu」で「6 Load Program」を選択し、「Load Program」画面を表示します。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>HT</td><td>「Load Program」画面で、接続方法を選択します。</td><td>直接接続の場合・・・「Direct-RS232」
クレードルおよびIR-705を使用する場合・・・「Cradle-IR」
IrDAインターフェースを使用する場合・・・「IrDA」</td></tr>
<tr><td>5</td><td>HT</td><td>ボーレートを選択します。</td><td>「Baud Rate」選択画面が表示された場合は、「115200」を選択します。選択すると、受信待ち状態になります。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>－</td><td>未接続の場合は、PCとHTを接続します。</td><td>PCとHTをRS232Cで接続します。クレードルを使用する場合はハンディターミナルをクレードルに置いてください。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>PC</td><td>ダウンロードを開始します。</td><td>ProgLoadの「OK」ボタンをクリックすると、ダウンロードが始まりますので、そのまましばらく待ちます。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>PC</td><td>ダウンロード完了！</td><td>ダウンロードが終了すると「Download Successfully!」と表示されますので「OK」ボタンをクリックしてください。次にProgLoadのメイン画面で「Close」ボタンをクリックしてProgLoadを終了してください。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>HT</td><td>ダウンロード完了！</td><td>ダウンロードが終了すると「*** Complete ***」と表示されます。↵を押して「Load Program」画面に戻ります。</td></tr>
<tr><td>10</td><td>HT</td><td>「Dr.Suketto」が起動できることを確認します。</td><td>⏻ をしばらく押して一旦電源をオフにし、再度 ⏻ を押します。ファイルを削除する場合は ESC を押します
「Dr.Suketto」の起動画面が表示され、続いて、「Dr.Suketto」のメインメニューが表示されます。</td></tr>
</table>

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

3. 概要手順

「Dr.Suketto」を業務で使用するための手順を説明します。

左の欄にフローチャート、右の欄に本説明書内の対応する章と簡単な説明を記載しています。

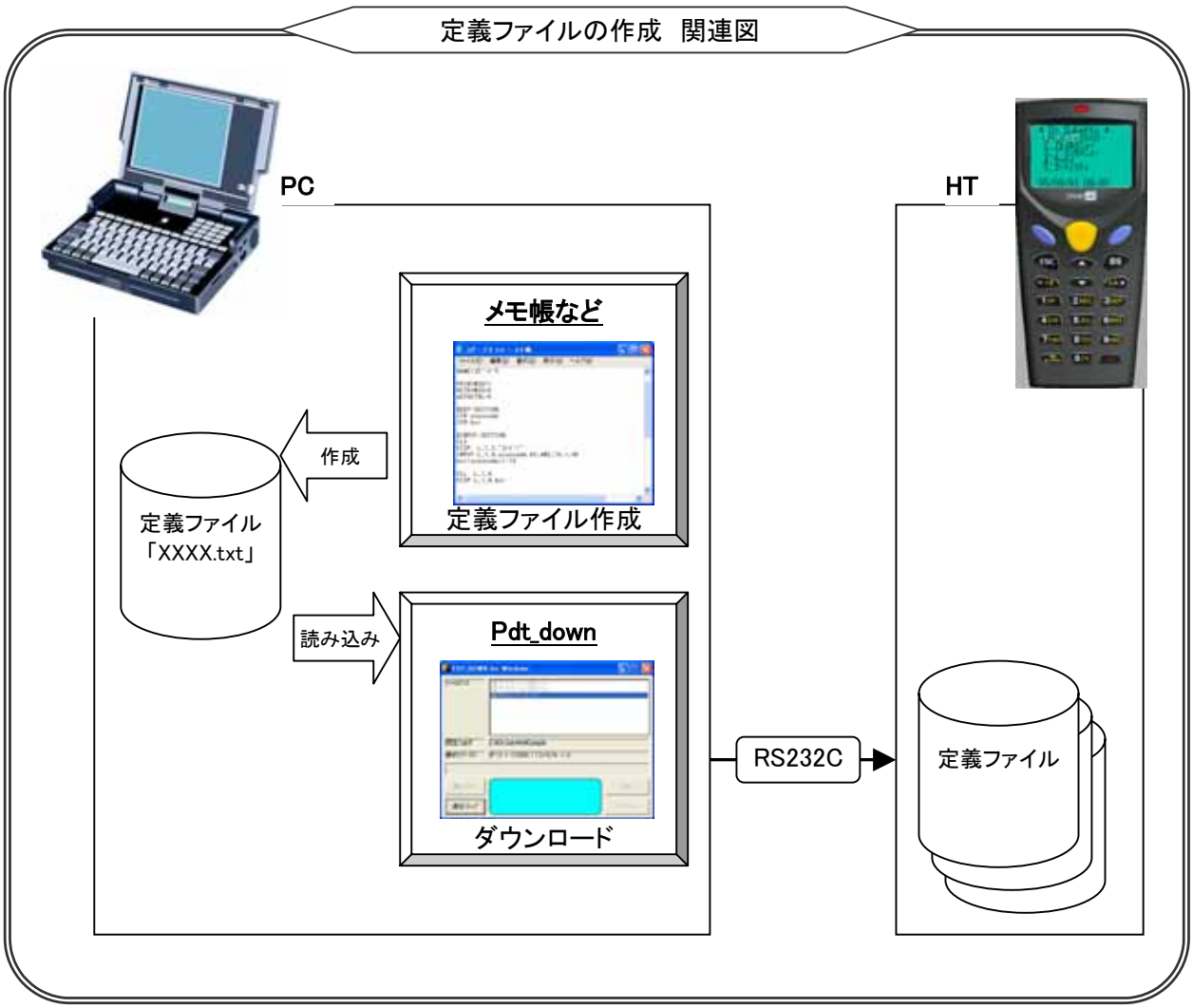


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

4. 定義ファイルの作成とダウンロード

この章では、定義ファイルの作成とダウンロードの方法について説明します。
定義ファイルは、ハンディターミナルの入出力項目や印刷レイアウトを記入した、テキスト形式のファイルです。「Dr.Suketto」は、定義ファイル（コマンドファイル）に記載されている設定やコマンドに従って処理を実行します。業務に必要な処理を実現するためには、非常に重要なファイルです。

定義ファイルは、PCを使って作成し、ハンディターミナルにダウンロードして使用します。ハンディターミナルには複数の定義ファイルを保存できますので、業務に応じて切り替えて使用することが可能です。



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

4. 1　作成の前に

定義ファイルは、業務に必要な処理に応じて作成するものです。作成前に次のことを整理しておくと、作成が容易になります。

1. 処理の概要
2. 必要なデータ（入力項目・表示項目・印刷項目）
3. 画面のレイアウト（表示位置・入力位置・入力桁数など）
4. マスタの使用有無と項目
5. データ書き込みの有無と項目
6. 印刷レイアウト

1. 処理の概要

どのような処理を行うのか、概略を決めます。以下の処理を例として作成することにします。

・80XXを使って、商品コードを入力し、マスタファイルから商品名と価格をとりだす。

・入力したデータをファイルに記録し、ラベルを印刷する。

2. 必要なデータ

どんな項目が必要かを決めます。この例では、下記のような項目が必要です。

入力項目：商品コード・・・バーコードをスキャンする

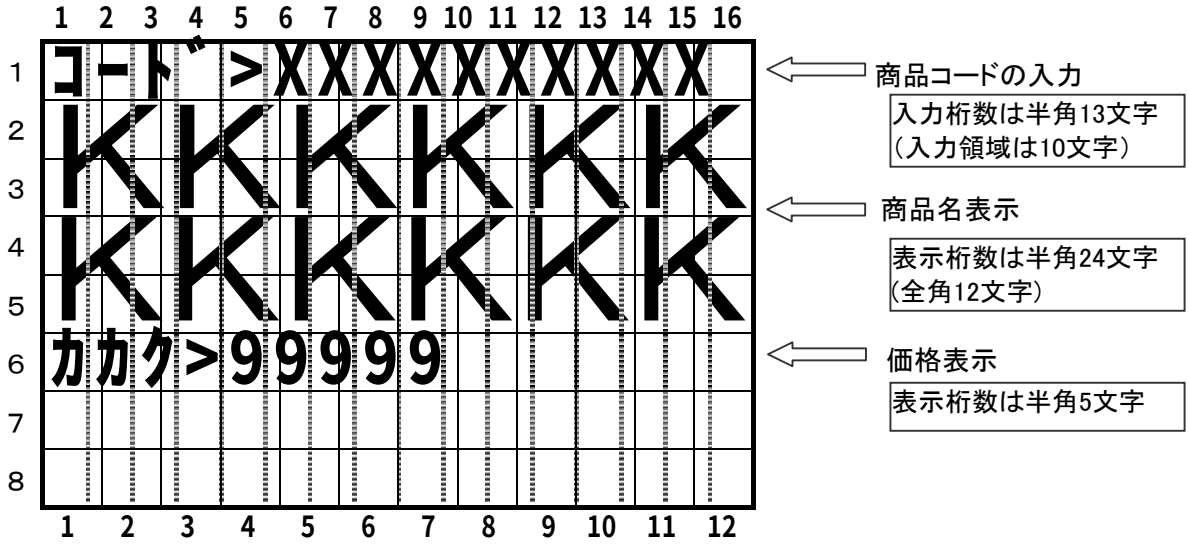
表示項目：商品名、価格・・・マスタから取得し、画面に表示する

印刷項目：商品コード・・・バーコードで印刷する

商品名、価格・・・文字で印刷する

3. 画面のレイアウト

「17. 画面レイアウトシート」を使用して、入力項目・表示項目・各項目のガイダンスの位置や桁数を決めます。フォントによって画面に表示できる文字数が異なります。また全角文字は、スモールフォントでは表示できませんので、注意が必要です。フォントについては、「13. 入力画面定義セクション（INPUT-SECTION）」を参照してください。この例では、下記の画面を作ることにします。



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

4．マスタの使用有無と項目

マスタを使用するかどうか、使用する場合にはどのような項目が必要なのかを決めます。入力されたデータをキーにしてデータを取得したい場合には、マスタを使用する必要があります。

この例では、商品コードを使って商品名と価格を取り出しますので、「商品コード（キー）、商品名、価格」が必要です。必要なマスタは1つだけですので、マスタ1を使用します。

5．データ書き込みの有無と項目

データの書き込みが必要か、どの項目を書き込むのかを決めます。ハンディターミナルで入力したデータや印刷したデータをPCにアップロードして使用したい場合や、マスタのデータを更新したい場合（例えばマスタの数量を変更する場合）は、データの書き込みを行う必要があります。

データを書き込む場合には、以下のことを決めておきます。

（1）いつ書き込むか

印刷実行時に自動的に書き込む方法と、任意の時点で書き込む方法があります。

（2）書き込み先のファイル種別は何か

入力したデータが既に入力済みかをチェックするなど、前に入力したデータを使って処理を行う場合や、マスタのデータを更新したい場合には、ファイル種別はマスタファイル（インデックスファイル）になります。それ以外の場合はデータファイル（ログファイル）です。印刷実行時に書き込む場合、マスタへの書き込みはできません。

（3）どのような項目を書き込むか

最低限必要な項目を書き込むようにします。データはハンディターミナルのメモリ内に記録しますので、データが多くなると、収集できるレコードの件数が少なくなります。

この例では後でチェック等は行わないため、「データファイルに、入力日時と商品コードを記録する」こととします。

6．印刷レイアウト

印刷する場合は、おおまかな印刷レイアウトを決めます。

この例では下の様なラベルを印刷します。

ここで整理したことを元にして定義ファイルの作成を行います。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

4. 2　定義ファイルの作成

定義ファイルは、PCを使って作成します。テキスト形式のファイルですので、Windows標準搭載の「メモ帳」プログラムや他のテキストエディタで作成することができます。作成した定義ファイルは「XXXXXX. txt」という名前で保存します。
定義ファイルで使用する設定やコマンドは数が多いため、ここでは概要の説明を行います。詳細については、「10. 定義ファイル仕様」 ～ 「16. 編集方法」を参照してください。

定義ファイルは、以下の5つのセクションに分かれています。各セクションの最初には、セクション開始宣言を記入し、それに続けて設定やコマンドなどを記入します。各セクション毎に記入する項目は異なります。また、不要なセクションは省略できます。

1. 動作環境設定セクション　－　ENV-SECTION　－
　　定義ファイルの名称や、リーダの設定、読取可能コードの指定を行います。

2. 変数・コード定義セクション　－　DEF-SECTION　－
　　定義ファイル内で使用する変数や、印刷に使用する制御コードを宣言します。

3. 入力画面定義セクション　－　INPUT-SECTION　－
　　表示・入力のためのコマンドを記入し、ハンディターミナルの処理を定義します。

4. プリンタ設定定義セクション　－　PRSET-SECTION　－
　　プリンタコマンドを使用し、印刷開始前に行うプリンタの設定を定義します。

5. ラベル定義セクション　－　LABEL-SECTION　－
　　プリンタコマンドを使用し、印刷レイアウトを定義します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

前項の例を基に作成した定義ファイルのサンプル「商品ラベル.txt」を以下に示します。太字は各セクションの開始宣言です。（定義ファイル作成時には太字にする必要はありません）。

```
$ENV-SECTION
PRINTER=TSC,TDP
NAME=ｼｮｳﾋﾝﾗﾍﾞﾙ
AUTOCTRL=1
$DEF-SECTION
STR scancode
$INPUT-SECTION
CLS
DISP  S,1,1,"ｺｰﾄﾞ>"
INPUT S,6,1,scancode,KS,N,10,13,13,,,,M1
DISP  L,1,3,FIELD1_2,,24
DISP  S,1,6,"ｶｶｸ>"
DISP  S,5,6,FIELD1_3
WRITE D1,[DATE,YYYY/MM/DD HH:mm],scancode
PRINTOUT
$PRSET-SECTION
SPEED 5.0
DENSITY 10
SET PEEL OFF
DIRECTION 0
SIZE 59 mm,30 mm
GAP 4 mm,0.00
OFFSET 0.00
REFERENCE 0,0
$LABEL-SECTION
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

1. 動作環境設定セクション　ー　ENV-SECTION　ー

定義ファイルの名称や、リーダの設定、読取可能コードの指定を行います。このセクションは省略できません。

```
$ENV-SECTION
PRINTER=TSC,TDP
NAME=ｼｮｳﾋﾝﾗﾍﾞﾙ
AUTOCTRL=1
```

（1）セクション開始

$ENV-SECTIONと記入してください。

（2）プリンタ名

ご使用のプリンタに合わせて、PRINTER=TSC,TTPまたはPRINTER=TSC,TDPと記入してください。「Dr.Suketto」には、他のプリンタに対応したランタイムもあります。ランタイムと定義ファイルの組み合わせが間違っていないかをチェックするための定義です。

プリンタを使用しない場合に限り、他のランタイムと共通で使用する定義ファイルを作成することができます。この場合は、定義ファイルに、PRINTER=NONEと記入してください。

（3）定義ファイル名

NAME=と記入し、続けて定義ファイルの名前を記入してください。これは、ハンディターミナルにダウンロードした後に、定義ファイルの表示名として使用されます。複数の定義ファイルをダウンロードして切り替えて使用する場合などに表示される名前ですので、処理内容がわかるような名前にすることをお勧めします。使用できる文字は半角英数カナで、80XXは16文字、83XXは20文字までです。上記の例では**「ｼｮｳﾋﾝﾗﾍﾞﾙ」という名前をつけています。**

（4）制御コード自動付加

プリンタコマンドを記入する際に、制御コードを自動的に付加するかどうかを指定します。

自動付加にすると、最後にCRコード＋LFコードが付加されますので、プリンタコマンドの記入時に、省略できます。

AUTOCNTL=1と記入してください。

上記の（1）～（3）は、必須項目です。省略することはできません。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

「環境設定・スキャナ定義」には他にも以下の設定があります。各々の詳細は「11. 動作環境設定セクション（ENV-SECTION）」をご参照ください。

機　　能	名 称
マスターのサイズを定義する	M1 ～ M6
プリンタとの接続のタイミングを指定する	AUTOCNCT
プリンタのステータスチェックを行う	STATUSCHK
印刷前に確認メッセージを表示する	PRINTMSG
印刷後に再印刷確認メッセージを表示する	RETRYMSG
置き換え･編集開始文字を指定する	VARSTART
置き換え･編集終了文字を指定する	VAREND
印刷ログを記録する	PRINTLOG
リーダの読取モードを指定する	SCANMODE
リーダの読取照合回数を指定する	VERIFY
リーダの読取タイムアウト時間を設定する	TIMEOUT
コードスキャン時、ENTを付加する	AUTOENT
読取コードを設定する	CODE39,CODE128　など

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

2. 変数・コード定義セクション　－　DEF-SECTION　－

定義ファイル内で使用する変数や、印刷に使用する制御コードを定義します。
ここで定義した変数を「ユーザ定義変数」、コードを「ユーザ定義コード」と呼びます。
「Dr.Suketto」には、定義せずに使用できるコード「システム定義コード」と変数「システム定義変数」があります。システム定義コードには「ESC」「CR」「LF」など、システム定義変数にはマスタの各フィールドに対応した変数「FIELD」や現在日付を表す変数「DATE」などがあります。システム定義コードおよびシステム定義変数の詳細については「10. 定義ファイル仕様」を参照してください。

```
$DEF-SECTION
STR scancode
```

（1）セクション開始

$DEF-SECTIONと記入してください。

（2）変数定義

変数は、入力されたデータや編集結果を一時的に保管する入れ物です。定義ファイル内で、システム定義変数以外の変数が必要な場合は、ここで定義します。
変数を宣言するために、以下のことを決める必要があります。

- ・必要な変数　　定義ファイルで使用する変数を洗い出します。
- ・各々の変数の型　　変数には文字型、整数型、実数型があります。詳細は「12. 変数・コード定義セクション（DEF-SECTION）」を参照してください。
- ・各々の変数の名前　　定義ファイル中で使用する変数の名前です。
- ・各々の変数の初期値　　変数に最初に設定する値です。

作成前に整理した「必要なデータ」を見ると、宣言するデータや型を決めることができます。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

前述の例を使って、変数宣言の考え方や記入例を説明します。
例示した「必要なデータ」は以下の通りでした。

入力項目：商品コード・・・バーコードをスキャンする
表示項目：商品名、価格・・・マスタから取得し、画面に表示する
印刷項目：商品コード・・・バーコードで印刷する
　　商品名、価格・・・文字で印刷する

・必要な変数

この中に出ているデータは、「商品コード」「商品名」「価格」の3つです。
「商品コード」は入力されるデータですので、保管する入れ物（変数）が必要ですが、
「商品名」「価格」はマスタから取得してそのまま使用しますので、システム定義変数の
FIELD変数を使います。従って、必要な変数は「商品コード」だけとなります。

・変数の型

それぞれの変数について、使用する文字や用途から型を決めます。
「商品コード」はマスタの検索に使用し、計算に使わないため、文字型にします。

・変数の名前

変数の名前（変数名）はデータの入力・出力や印刷レイアウトの中で使用しますので、用途がわかりやすい名前をつけます。先頭は半角英小文字で、そのあとに半角文字の英小文字・数字とアンダーバー(_)**を使用して、合計８バイトまでの名前をつけることができます。この例ではscancodeという名前をつけます。**

・初期値

初期値は最初にその変数に入れる値がある場合にだけ指定します。
この例では初期値はありません。

これで、必要な変数は「商品コード」、型は「STR」、変数名は「scancode」、初期値は「なし」と決まりましたので、STR scancodeと記入します。
他にも必要な変数がある場合は、同様に次の行に記入します。

（3）コード定義

コードは、印刷時に使用する（システム定義コード以外の）制御コードを定義します。プリンタに制御コードを出力する場合、制御コードの値を10進数や16進数で記入することもできますが、わかりやすくするために名前をつけます。
コードの宣言は、「CONST　コード名,値」という書式で記入します。
コード名のつけ方は変数名と同じです。先頭は半角英小文字で、そのあとに半角文字の英小文字・数字とアンダーバー(_)**を使用して、合計８バイトまでの名前をつけることができます。**
「bel」という名前で、値が「7」のコードを宣言する場合はCONST bel,7と記入します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

3. 入力画面定義セクション　－　INPUT-SECTION　－

「Dr.Suketto」には、ハンディターミナルを制御するためのコマンドが用意されています。
表示・入力やデータ収集のためのコマンドを組み合わせて、ハンディターミナルの処理を定義します。使用できるコマンドは以下の通りです。

種　別	機　　能	名　称
表示	画面をクリアする	CLS
	指定位置以降、行末までをクリアする	CLL
	データを表示する	DISP
入力	データを入力する	INPUT
	リストからデータを選択入力する	LIST
	キー入力または指定秒数の経過を待つ	WAIT
	ブザーを鳴らす	BUZZER
データの操作	変数に値や編集・計算結果を設定する	＝
ファイル操作	マスタファイルからデータを読み出す	GET
	マスタファイルにレコードを書き込む	PUT
	データファイルにレコードを書き込む	WRITE
	マスタファイルのレコードを削除する	REMOVE
	マスタ／データファイルのレコード数を取得する	COUNT
	マスタ／データファイルを削除する	DELETE
	マスタファイルをダウンロードする	DOWNLOAD
	マスタ／データファイルをアップロードする	UPLOAD
分岐	条件が一致した場合に分岐する	IF
	無条件に分岐する	GOTO
	飛び先ラベルを宣言する	:
印刷	プリンタを設定する	PRINTSET
	印刷する	PRINTOUT

各コマンドの詳細は「13. 入力画面定義セクション（INPUT-SECTION）」を参照してください。

```
$INPUT-SECTION
CLS
DISP  S,1,1,"ｺｰﾄﾞ>"
INPUT S,6,1,scancode,KS,N,10,13,13,,,,M1
DISP  L,1,3,FIELD1_2,,24
DISP  S,1,6,"ｶｶｸ>"
DISP  S,5,6,FIELD1_3
WRITE D1,[DATE,YYYY/MM/DD HH:mm],scancode
PRINTOUT
```

（1）セクション開始

$INPUT-SECTIONと記入してください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

（2）表示・入力処理

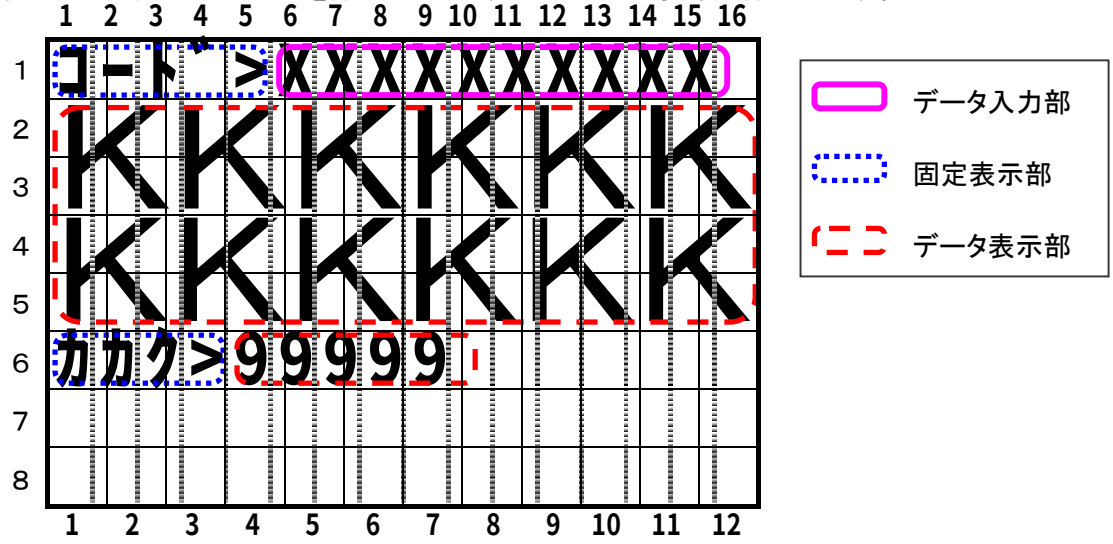
ハンディターミナルの表示・入力部分の定義を行うためには、各コマンドに対応した要素に分けることが必要です。作成した画面レイアウトを以下の区分で、要素に分けます。

・データを入力する箇所（データ入力部）

・いつでも同じ文字を表示する箇所（固定表示部）

・データを表示する箇所（データ表示部）

例示した画面のレイアウトを分けてみると、以下の5つの要素に分かれます。



それぞれの要素について、どのコマンドを使用するかを決めます。

要　素	コマンド	固定項目／使用データ
″ｺｰﾄﾞ＞″の表示	DISP	″ｺｰﾄﾞ＞″
商品コードの入力	INPUT	バーコードをスキャンしてscancodeに保管
商品名の表示	DISP	マスタに登録されている商品名
″ｶｶｸ＞″の表示	DISP	″ｶｶｸ＞″
価格の表示	DISP	マスタに登録されている価格

各要素に対応したコマンドを、定義ファイルの$INPUT-SECTIONの次の行から、記入します。

①最初に「画面のクリア」を行います。これはどの画面でも共通で、CLSと記入します。

②次に「″ｺｰﾄﾞ＞″の表示」を行いますので、DISPコマンドの書式を参照してください。スモールフォントで「1,1」の位置から表示しますので、DISP S,1,1,″ｺｰﾄﾞ＞″と記入します。

③次は「商品コードの入力」です。INPUTコマンドの書式を参照してください。スモールフォントで「6,1」の位置から表示しますので、INPUT S,6,1,scancodeと記入します。それに続けて入力方法や桁数、マスタ検索などの細かな指定を記入します。全て記入すると次のようなコマンドになります。INPUT S,6,1,scancode,KS,N,10,13,13,,,,M1 このコマンドを実行するだけで、商品コードの入力とマスタの検索ができます。

④次に「商品名の表示」を行います。検索したマスタのデータは「FIELD」というシステム定義変数を使って取り出します。マスタ1に「商品コード（キー）、商品名、価格」を登録することにしましたので、商品名はマスタ1の2番目のフィールド、つまり、「FIELD1_2」に入っています。DISP L,1,3,FIELD1_2と記入します。

⑤「″ｶｶｸ＞″の表示」「価格の表示」についても同様に記入します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

（3）データの操作

変数に値を設定したり、抽出・結合した結果や計算結果を保管することができます。

「=」の左側（左辺）に記入した変数に、右側（右辺）に記入した値や処理を行った結果が設定されます。左辺にはユーザ定義変数や一部のシステム定義変数を指定することができます。

（4）マスタ検索処理

「Dr.Suketto」でマスタを検索するには、以下の2つの方法があります。

処　理	コマンド
入力されたデータで検索する	INPUT
任意のデータで検索する	GET

入力されたデータを使ってそのまま検索する場合は、INPUTコマンドでマスタを指定します。一致するデータがなかった場合のエラーメッセージの表示などが自動的に行われます。

入力されたデータの一部や、マスタから取り出したデータを使って別のマスタを検索する場合にはGETコマンドを使用します。GETコマンドでは、エラー処理なども定義する必要があるため処理が複雑になりがちですが、自由にメッセージの表示や処理が行えるという利点もあります。

例ではINPUTコマンドにマスタを指定して、検索を行っています。

（5）データ書き込み処理

「Dr.Suketto」でデータの書き込みを行うには、以下の方法があります。目的に応じた設定・コマンドを選択します。

処　理	コマンド
印刷時にデータファイルに書き込む	（ENV-SECTIONでPRINTLOGを設定）
データファイルに書き込む	WRITE
マスタファイルに書き込む	PUT

例では、「データファイルに、入力日時と商品コードを記録する」ことにしましたので、印刷前にWRITEコマンドで書き込みを行います。WRITEコマンドの書式を参照してください。定義ファイルの次の行に、以下のコマンドを記入します。

```
WRITE D1,[DATE,YYYY/MM/DD HH:mm],scancode
```

（6）ダウンロード／アップロード処理

処理開始前にマスタをダウンロードしたい場合や、一連の処理が終了したときに書き込んだデータをアップロードしたい場合には、DOWNLOAD/UPLOADコマンドを使用します。ファイルのダウンロード／アップロードは「Dr.Suketto」のファイルメニューから行うこともできますので、定義ファイルの実行中にダウンロード／アップロードを行いたい場合にのみ必要です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

（7）分岐処理

入力されたデータに応じて各々の処理を行う場合には、IFコマンドを使用します。例えば、メニュー形式で処理を行う場合や、入力されたデータによって異なるレイアウトで印刷する場合などです。無条件に分岐する場合にはGOTOコマンドを使用します。

どちらも、分岐先は、「飛び先名」で指定します。飛び先名は「:飛び先名」という書式で宣言します。

（9）印刷処理

印刷を実行するためにはPRINTOUTコマンドを使用します。

（印刷するレイアウトはプリンタコマンドを使用してLABEL-SECTIONで定義します。）

PRINTOUTコマンドの書式を参照してください。

例では印刷レイアウトは1つですので、PRINTOUTと記入します。

入力画面定義の説明は以上です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

4. プリンタ設定定義セクション　ー　PRSET-SECTION　ー

印刷開始前に行うプリンタ設定のためのプリンタコマンドを定義します。

このセクションに記入した定義は、特に指定がない場合は、定義ファイルの実行開始時、プリンタの接続後にプリンタに送信されます。

複数の設定を登録して切り替えて使用する場合や任意のタイミングで設定を実行する場合は、$INPUT-SECTIONにPRINTSETコマンドを記入します。

```
$PRSET-SECTION
SPEED 5.0
DENSITY 10
SET PEEL OFF
DIRECTION 0
SIZE 59 mm,30 mm
GAP 4 mm,0.00
OFFSET 0.00
REFERENCE 0,0
```

（1）セクション開始

$PRSET-SECTIONと記入してください。

（2）プリンタ設定の定義

プリンタの設定は、プリンタコマンドを使用して定義します。

変数や制御コードを使用することも可能です。定義方法は次のLABEL-SECTIONと同様ですので、LABEL-SECTIONで簡単に説明します。

（3）複数の設定の登録（$START～$END）

入力されたデータに応じて異なる設定で印刷する場合は、1つの定義ファイルに複数の設定を登録します。

1つの設定は$START 設定名で始まり、$END 設定名で終わります。STARTとENDには同じ設定名を指定します。

複数の設定を登録した場合は、PRINTSETコマンドで設定名を指定して設定を行います。

（4）ステータス受信（$RECEIVE）

プリンタに設定データを送信した場合、送信したデータによっては自動的にプリンタのステータスが返送される場合があります。ステータスの返送・受信後に次の送信を行う必要がある場合は、ステータス受信のための$RECEIVEを記入します。ステータス受信が必要なデータ（プリンタコマンド）については、プリンタの取扱説明書をご参照ください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

5. ラベル定義　－　LABEL-SECTION　－

プリンタコマンドを使用し、印刷レイアウトを定義します。

このセクションに記入した印刷レイアウト（プリンタコマンド）は、INPUT-SECTIONのPRINTOUTコマンドでプリンタに送信されます。1つの定義ファイルに複数の印刷レイアウトを登録することができます。

```
$LABEL-SECTION
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
```

（1）セクション開始

$LABEL-SECTIONと記入してください。

（2）印刷レイアウト

印刷レイアウトは、プリンタコマンドを使用して定義します。

プリンタコマンドは1行ずつプリンタに送信されます。[ ]の中の文字は、送信前に指定のコードや変数の値に置き換えられます。コードや変数の置き換えを示す[ ]は、ENV-SECTIONで設定すれば別の文字に変更することができます。

[ ]の中では、変数を使って抽出や計算・書式設定等の編集もできます。詳細は「16. 編集方法」をしてください。

例では　　の部分に変数を使用します。上から順に商品名、価格、商品コード、商品コードを印刷しますので、[FIELD1_2]、[FIELD1_3]、[scancode]、[scancode]をプリンタコマンドの途中に記入しています。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

（3）複数のレイアウトの登録（$START～$END）

入力されたデータに応じて異なるレイアウトで印刷する場合は、1つの定義ファイルに複数の印刷レイアウトを登録します。

1つのレイアウトは$START ラベル名で始まり、$END ラベル名で終わります。STARTとENDには同じ「名前」を指定します。

複数のレイアウトを登録した場合は、PRINTOUTコマンドで印刷するレイアウトのラベル名を指定して印刷を実行します。

（4）ステータス受信（$RECEIVE）

印刷を行った場合、送信したデータによっては自動的にプリンタのステータスが返送される場合があります。ステータスの返送・受信後に次の送信を行う必要がある場合は、ステータス受信のための$RECEIVEを記入します。ステータス受信が必要なデータ（プリンタコマンド）については、プリンタの取扱説明書をご参照ください。

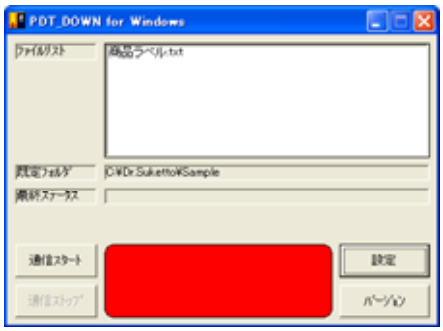
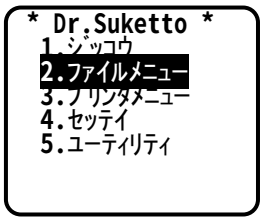
必要なセクションの記入が終了したら、定義ファイルの作成は終了です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

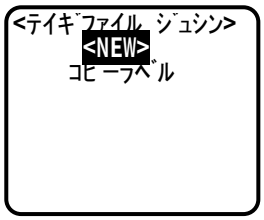
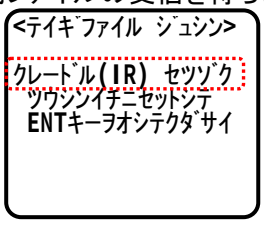
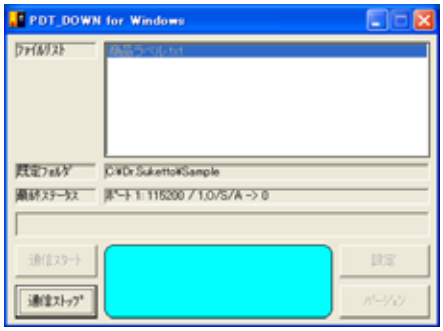
4. 3　定義ファイルのダウンロード

作成した定義ファイルをダウンロードします。ダウンロードは、ハンディターミナルとPCをRS232Cで接続して行います。定義ファイルを作成した場合・変更した場合に、ダウンロードを行います。

処理手順は次の通りです。

No		手　順	詳　細
1	PC	ファイルダウンロードツール（Pdt_down.exe）を起動します。 	Pdt_downを起動すると左のような画面が表示されますので、「設定」ボタンをクリックしてください。「ｵﾌﾟｼｮﾝ設定」画面が表示されます。
2	PC	通信設定を行います。	下記の通り設定し、「OK」をクリックしてください。 ・ﾎﾟｰﾄ：ダウンロードに使用するポート番号 ・ﾓｰﾄﾞ：ダウンロード時の接続方法を指定 直接接続　・・・「RS232C ﾀﾞｲﾚｸﾄ通信 」 クレードルまたはIR-705使用　・・・ 「IR705 光ｱﾀﾞﾌﾟﾀ通信 」 ・ﾎﾞｰﾚｰﾄ：「115.2K bps(最高速)」 ・既定ﾌｫﾙﾀﾞ：「参照」ボタンをクリックし、ダウンロードするファイルのあるフォルダを選択 ・読込ﾓｰﾄﾞ：「1行目-ﾃﾞｰﾀ」 ・ｽﾀｰﾄｻｲｽﾞ：「ﾉｰﾏﾙ」
3	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 	を押して、電源を投入すると「Dr.Suketto」が起動され、メインメニューが表示されます。起動されない場合は「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードを行ってください。

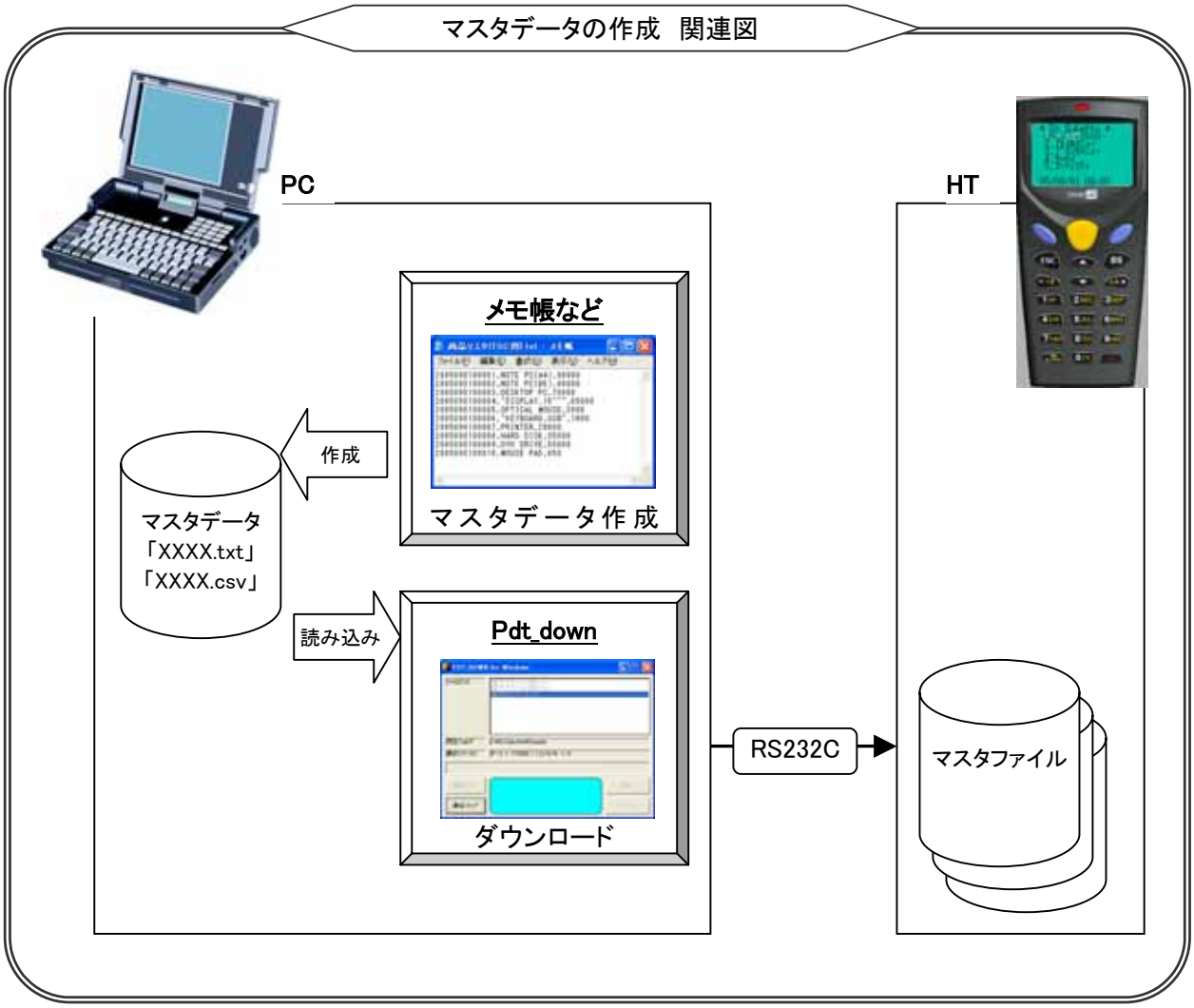
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

No		手　順	詳　細
4	HT	保存する定義ファイルを選択します。 	「Dr.Suketto」のメインメニューから「ファイルメニュー」->「ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙ」->「ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ」の順に選択すると、「ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙｼﾞｭｼﾝ」画面が表示されます。 新しいファイルに保存する場合は<NEW>を、ダウンロード済みのファイルに上書きする場合は、変更するファイルを選択して、 を押してください。
4	HT	定義ファイルの受信を待ちます。 	続けて、左の画面が表示されます。 　部分にPCとの接続方法が表示されますので、間違っている場合は設定を変更してください。（設定変更は「9. 6　設定メニュー」参照） RS232CでPCと接続後、 を押してください。
5	PC	ダウンロードを開始します。 	Pdt_downでダウンロードするファイルをダブルクリックすると、ダウンロードが始まりますので、そのまましばらく待ちます。
6	PC	ダウンロード完了！	ダウンロードが終了すると1の画面に戻ります。 正常に終了しなかった場合は、通信設定やPCとHTとの接続を確認して再度ダウンロードを行ってください。プログラムを終了する場合は、画面右上の「×」ボタンをクリックします。
7	HT	ダウンロード完了！	ダウンロードが終了すると終了メッセージが表示されますので、を押してください。「ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙｼﾞｭｼﾝ」画面に戻ります。続けてダウンロードする場合は、再度ファイルを選択してください。 終了する場合は、ESC キーを押して上位のメニューに戻ってください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

5. マスタデータの作成とダウンロード

この章では、マスタデータの作成とダウンロード方法について説明します。
入力したデータを元にして情報を取得する場合に、マスタを使用します。例えば、スキャンしたバーコードに対応する商品の名称や価格を表示させたい場合です。
マスタを参照しない場合は、マスタデータの作成は不要ですので、次の章に進んでください。
マスタデータは、PC上で、CSV形式でファイルに登録します。作成したファイルは、ハンディターミナルにダウンロードして使用します。



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

5. 1　マスタデータの作成

マスタデータは、CSV形式でファイルに登録します。PCを使って作成します。

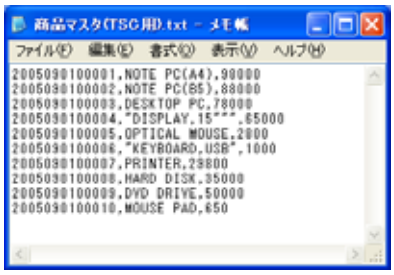
作成方法

ファイルは下記のいずれかの方法で作成します。

1）新規にデータを入力する。

Windows標準搭載の「メモ帳」プログラムや他のテキストエディタを起動して、データを入力します。
「ファイル仕様」（次項参照）にあわせてデータを入力してください。

（「メモ帳」での入力例）



2）既存のデータを使用する

既存のデータ（例えばEXCELなどの表計算プログラムやAccessなどのデータベース管理システムに登録済みのデータ）を使用する場合は、まず、以下のことをご確認ください。

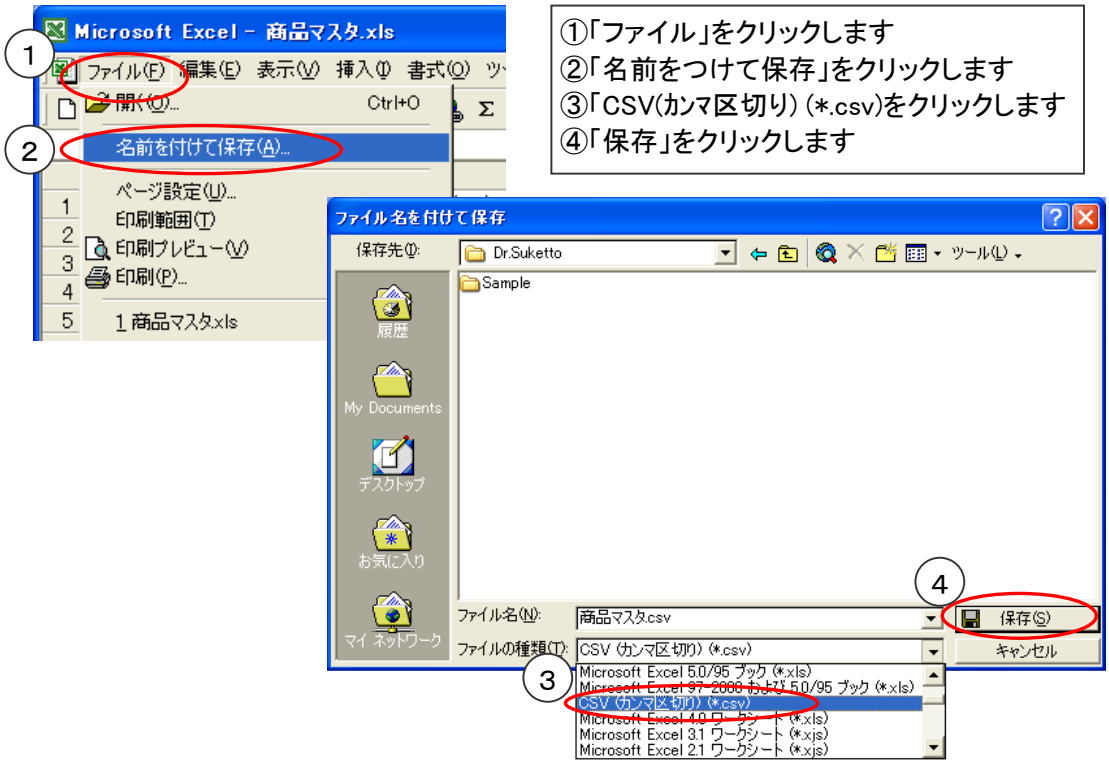
・使用しているプログラムにCSV形式で出力する機能があること

CSV形式での保存、EXPORT、書き出しなどプログラムによって名称が異なります。

・出力したファイルが「ファイル仕様」（次項参照）と一致していること

出力時に各種オプション指定が必要な場合は、一致するように指定してください。

以下は、「EXCEL2000」の例です。他のプログラムの場合は、お使いのプログラムの説明書をご参照ください。



①「ファイル」をクリックします
②「名前をつけて保存」をクリックします
③「CSV(カンマ区切り) (*.csv)をクリックします
④「保存」をクリックします

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

ファイル仕様

マスタデータを登録するファイルには、いくつかの規則（仕様）があります。
仕様と一致しない場合は、ダウンロードできない、ダウンロード後にデータが参照できない、プログラムが誤作動するなどの問題が発生する場合がありますので、必ず仕様に合ったデータを作成してください。ファイルの仕様は以下の通りです。

【ファイル名】

・ファイル名の拡張子は「.txt」または「.csv」です。
　例）「商品マスタ.txt」「取引先コード.csv」

【レコードとフィールド】

・1行が1件のレコードとなります。（先頭の1行はタイトルでも可）
・キーは、1つのマスターにつき1つです。先頭のフィールドがキーとして使用されます。
・1レコードは、キーも含めて10フィールドまでです。
・キーは最大40バイト（半角で40文字）、データ部分は210バイト（半角210文字）です。
　※データ部分の文字数にはフィールド区切り文字も含みます。

【データの書式】

・1行の最後はCR+LFコードです。
　メモ帳等のテキストエディタで作成すると、自動的に付加されます。
　既存データをCSV形式で出力した場合は、作成したファイルがメモ帳等で正常に表示されることを確認してからお使いください。
・各フィールドのデータは、「,」（カンマ）で区切ってください。
・データにカンマを含む場合は、フィールドを「″」（ダブルクォーテーション）で囲んでください。
・データにダブルクォーテーションを含める場合は、2つ続けて書いてください。（″″）

テキストファイルの作成例

【PC側－商品マスタ.txt】

```
2005090100001,NOTE PC(A4),98000
2005090100002,NOTE PC(B5),88000
2005090100003,DESKTOP PC,78000
2005090100004,"DISPLAY,15""",65000
2005090100005,OPTICAL MOUSE,2800
2005090100006,"KEYBOARD,USB",1000
```

ダウンロード
（マスタ1指定）

【HT側－マスタ1】

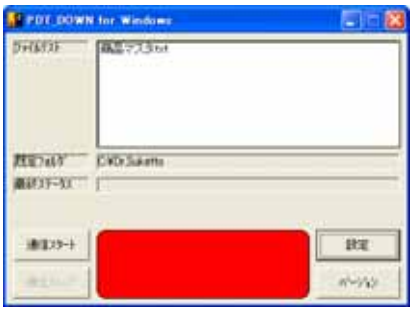
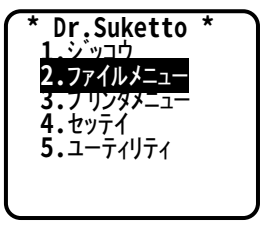
フィールド1（キー）	フィールド2	フィールド3
2005090100001	NOTE PC(A4)	98000
2005090100001	NOTE PC(B5)	88000
2005090100001	DESKTOP PC	78000
2005090100001	DISPLAY,15"	65000
2005090100001	OPTICAL MOUSE	2800
2005090100001	KEYBOARD,USB	1000

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

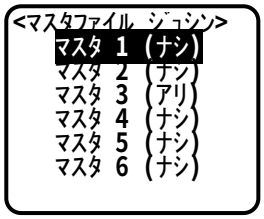
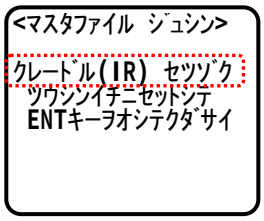
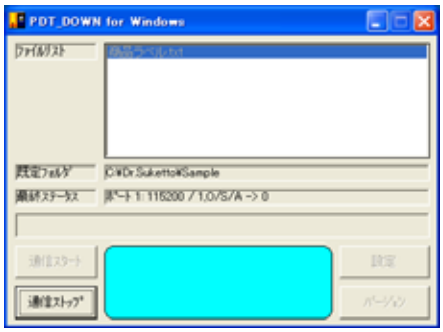
5. 2　マスタデータのダウンロード

作成したマスタデータをダウンロードします。ダウンロードは、ハンディターミナルとPCをRS232Cで接続して行います。データを作成した場合・変更した場合に、ダウンロードを行ってください。

処理手順は次の通りです。

No		手　順	詳　細
1	PC	ファイルダウンロードツール（Pdt_down.exe）を起動します。 	Pdt_downを起動すると左のような画面が表示されますので、「設定」ボタンをクリックしてください。「ｵﾌﾟｼｮﾝ設定」画面が表示されます。
2	PC	通信設定を行います。	下記の通り設定し、「OK」をクリックしてください。 ・ﾎﾟｰﾄ：ダウンロードに使用するポート番号 ・ﾓｰﾄﾞ：ダウンロード時の接続方法を指定 直接接続　・・・「RS232C ﾀﾞｲﾚｸﾄ通信 」 クレードルまたはIR-705使用　・・・ 「IR705 光ｱﾀﾞﾌﾟﾀ通信 」 ・ﾎﾞｰﾚｰﾄ：「115.2K bps(最高速)」 ・既定ﾌｫﾙﾀﾞ：「参照」ボタンをクリックし、ダウンロードするファイルのあるフォルダを選択 ・読込ﾓｰﾄﾞ： 1行目がデータ・・・「1行目-ﾃﾞｰﾀ」 1行目がタイトル・・・「1行目-ﾀｲﾄﾙ」 ・ｽﾀｰﾄｻｲｽﾞ：「ﾉｰﾏﾙ」
3	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 	を押して、電源を投入すると「Dr.Suketto」が起動され、メインメニューが表示されます。起動されない場合は「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードを行ってください。

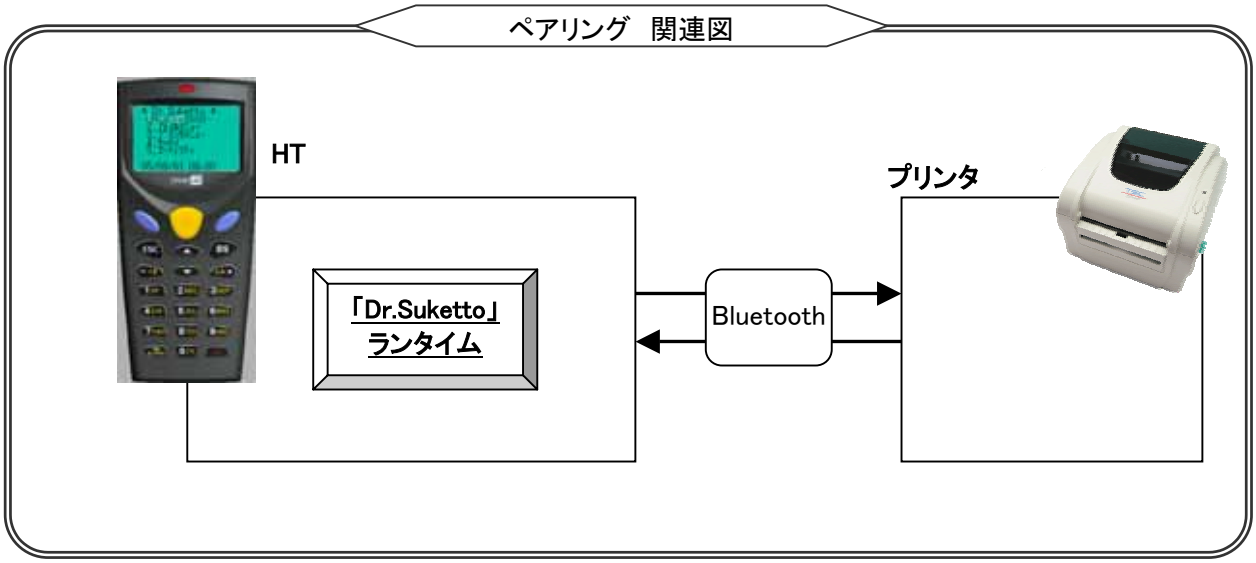
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

No		手　順	詳　細
4	HT	保存するマスタを選択します。 	「Dr.Suketto」のメインメニューから「ファイルメニュー」->「マスタファイル」->「ダウンロード」の順に選択すると、「マスタファイルジュシン」画面が表示されます。 ファイルがない場合はマスタ番号の横に(ナシ)、既存の場合は(アリ)と表示されます。 保存するマスタを選択して、 を押してください。
5	HT	マスタファイルの受信を待ちます。 	続けて、「マスタファイルジュシン」画面が表示されます。 部分にPCとの接続方法が表示されますので、間違っている場合は設定を変更してください。 （設定変更は「9. 6　設定メニュー」参照） RS232CでPCと接続後、 を押してください。
6	PC	ダウンロードを開始します。 	Pdt_downでダウンロードするファイルをダブルクリックすると、ダウンロードが始まりますので、そのまましばらく待ちます。
7	PC	ダウンロード完了！	ダウンロードが終了すると1の画面に戻ります。 正常に終了しなかった場合は、通信設定やPCとHTとの接続を確認して再度ダウンロードを行ってください。プログラムを終了する場合は、画面右上の「×」ボタンをクリックします。
8	HT	ダウンロード完了！	ダウンロードが終了すると終了メッセージが表示されますので、を押してください。「マスタファイルジュシン」画面に戻ります。続けてダウンロードする場合は、マスタを選択してください。終了する場合は、ESC キーを押して上位のメニューに戻ってください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

6. ペアリング

ハンディターミナルとプリンタは無線（Bluetooth　SPP）で通信を行います。このため、プリンタを使用する場合は、まず最初に、プリンタとのペアリング（Pairing）を行います。ペアリングとは「Bluetooth対応機器をお互いに登録すること」で、ペアリングを行った機器とだけ接続（通信）することができます。
ペアリングは、印刷を行うプリンタを最初に使用する前に行います。ペアリングの情報は保存されますので電源をOFFにしても再度ペアリングを行う必要はありません。別のプリンタを使用する場合や、使用していたプリンタとのペアリングが解消された場合には、再度、ペアリングを行う必要があります。



ペアリングを行うには以下の2つの方法があります。

1）ペアリング（スキャン）

プリンタのBDアドレスを使用して、ペアリングします。

2）ペアリング（検索）

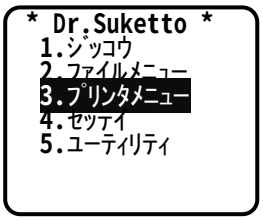
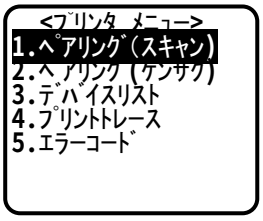
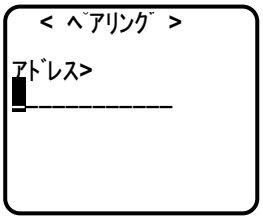
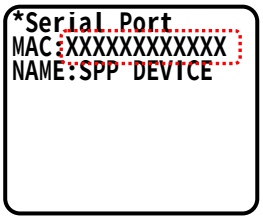
範囲内にあるプリンタを検索して、印刷を行うプリンタを選択します。
検索（Inquiry）を行うと、ハンディターミナルと通信可能な範囲内にあるBluetooth機器の一覧が表示されますので、印刷を行うプリンタを選択してペアリングできます。
PINコードによる認証が必要な場合は、こちらを使用してください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

6. 1　ペアリング（スキャン）

ハンディターミナルにプリンタのBDアドレスを入力（キー又はバーコードスキャン）して、ペアリングします。BDアドレス（Bluetooth Device Address）は、Bluetooth機器１台毎に固有の番号です。

手順は以下の通りです。

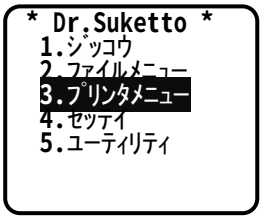
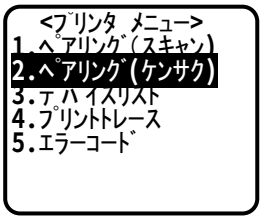
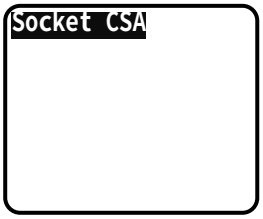
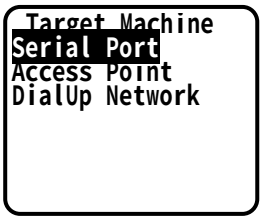
No		手　順	詳　細
1	PR	BDアドレスを確認します。	確認の方法はBTアダプタによって異なりますので、アダプタの説明書をご参照ください。 「2. 3　プリンタ（PR）」に確認方法の一例を記載しています。
2	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 	を押して、電源を投入すると「Dr.Suketto」が起動され、メインメニューが表示されます。起動されない場合は「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードを行ってください。
3	HT	「ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ(ｽｷｬﾝ)」を選択します。 	「Dr.Suketto」のメインメニューから「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」を選択すると、「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」画面が表示されますので、「ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ(ｽｷｬﾝ)」を選択してください。 「ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ」画面が表示されます。
4	PR	電源を投入します。	「POWER」ボタンを押して、電源を投入します。
5	HT	ペアリングを行います。 	BDアドレスの値をキー入力して、 を押します。 ※BDアドレスをバーコードで出力している場合は を押してバーコードをスキャンし、入力することも可能です。 正常終了すると「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」画面に戻ります。エラーの場合はプリンタの電源やBDアドレスを確認し、再度BDアドレスを入力してください。
6	HT	デバイスリストを確認します。 	「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」で「ﾃﾞﾊﾞｲｽﾘｽﾄ」を選択すると、ペアリングできている機器の一覧が表示されます。 「SPP DEVICE」を選択し、表示された「MAC:」の値がBDアドレスと同じであることを確認してください。 「SPP DEVICE」が表示されない場合や、値が違う場合は、再度ペアリングを行ってください。 ESC キーで上位のメニューに戻ります。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

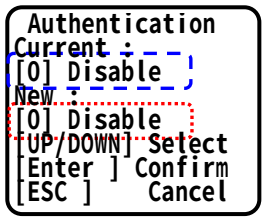
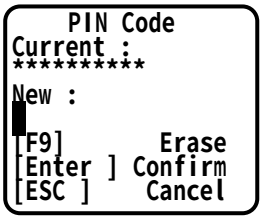
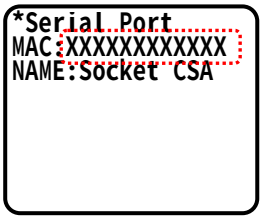
6.2　ペアリング（検索）

検索（Inquiry）を行うと、ハンディターミナルと通信可能な範囲内にあるBluetooth機器の一覧が表示されますので、印刷を行うプリンタを選択してペアリングします。PINｺｰﾄﾞによる認証が必要な場合は、こちらを使用してください。

手順は以下の通りです。

No		手　順	詳　細
1	PR	電源を投入します。	「POWER」ボタンを押して、電源を投入します。
2	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 	[⏻] を押して、電源を投入すると「Dr.Suketto」が起動され、メインメニューが表示されます。起動されない場合は「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードを行ってください。
3	HT	「ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ(ｹﾝｻｸ)」を選択します。 	「Dr.Suketto」のメインメニューから「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」を選択すると、「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」画面が表示されますので、「ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ(ｹﾝｻｸ)」を選択してください。 「Inquiry...Please Wait」という画面が表示されますので、そのまましばらく待ちます。
4	HT	プリンタを選択します。 	検索できた機器の一覧が表示されますので、印刷に使用するプリンタを選択してください。 ここでは例として、「Socket CSA」としていますが、表示される名称はBTアダプタにより異なります。 ※名称に関しては、ご使用になるアダプタの説明書をご参照ください。また、「2. 3 プリンタ（PR）」に確認方法の一例を記載しています。。
5	HT	接続種別を選択します。 	「Target Machine」画面が表示されますので、「Serial Port」を選択してください。 「Security」画面が表示されます。
6	HT	認証方法を設定します。 	「Security」画面は認証方法を設定するためのメニューです。 「1 Authentication」を選択してください

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

No		手　順	詳　細
7	HT	認証を行うかどうかを設定します 	ペアリング時に認証が必要かどうかを設定します。 プリンタにPINコード設定あり・・・「Enable」 プリンタにPINコード設定なし・・・「Disable」 ※PINｺｰﾄﾞを変更していない場合は「Disable」です。 ※PINｺｰﾄﾞはテスト印刷の「PIN code:」という項目に表示されます。0の場合は設定されていません。 現在の設定値が［　］に、変更する値が［　］に表示されます。下記のいずれかを実行してください。 ・変更する場合は、↑または↓を押して［　］位置の値を変更し、↵を押します。 ・変更しない場合はESCを押します。
8	HT	PINコードを設定します。 	手順7で、認証を「Enable」に設定した場合は、PINコードの設定が必要です。 ※「Disable」の場合、この項目は飛ばしてください。 「Security」画面で「2 PIN Code」を選択し、「PIN Code」画面で、下記のいずれかを実行してください。 ・PINコードを設定する場合は、プリンタに設定したPINコードを入力して↵を押します。 ・PINコードを消去する場合はFN＋9を押して消去し、↵を押します。 ・変更しない場合はESCを押します。
9	HT	ペアリングを行います。 	「Security」画面でESCを入力すると「Try to Connect」というメッセージと選択したプリンタ名が表示されます。ペアリング結果が表示されるまで、しばらくお待ちください。エラーの場合は［　］部分に「Connect Fail!!」と表示されますので、プリンタの電源、認証やPINコードを確認し、再度ペアリングを行ってください。 ペアリングできると、左の様な画面が表示されます。 ESC を押して、「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」まで戻ってください。
6	HT	デバイスリストを確認します。 	「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」で「ﾃﾞﾊﾞｲｽﾘｽﾄ」を選択すると、ペアリングできている機器の一覧が表示されますので、プリンタ名を選択し、表示されている「MAC:」とBTアダプタのBDアドレスが一致していることを確認してください。 プリンタ名が表示されない場合や上記が一致していない場合は、再度ペアリングを行ってください。 ESCキーで上位のメニューに戻ります。

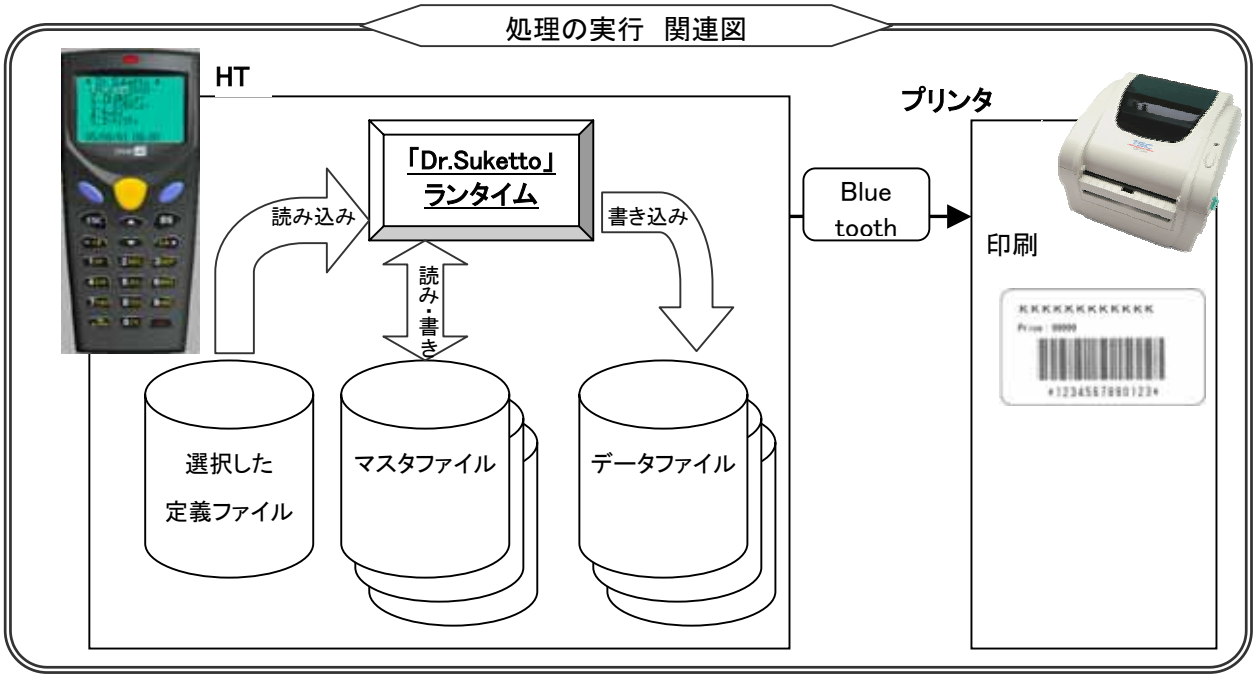
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

7. 処理の実行

この章では、処理の実行について説明します。

7. 1 処理の実行

ダウンロードした定義ファイルを選択して、定義した処理を実行します。



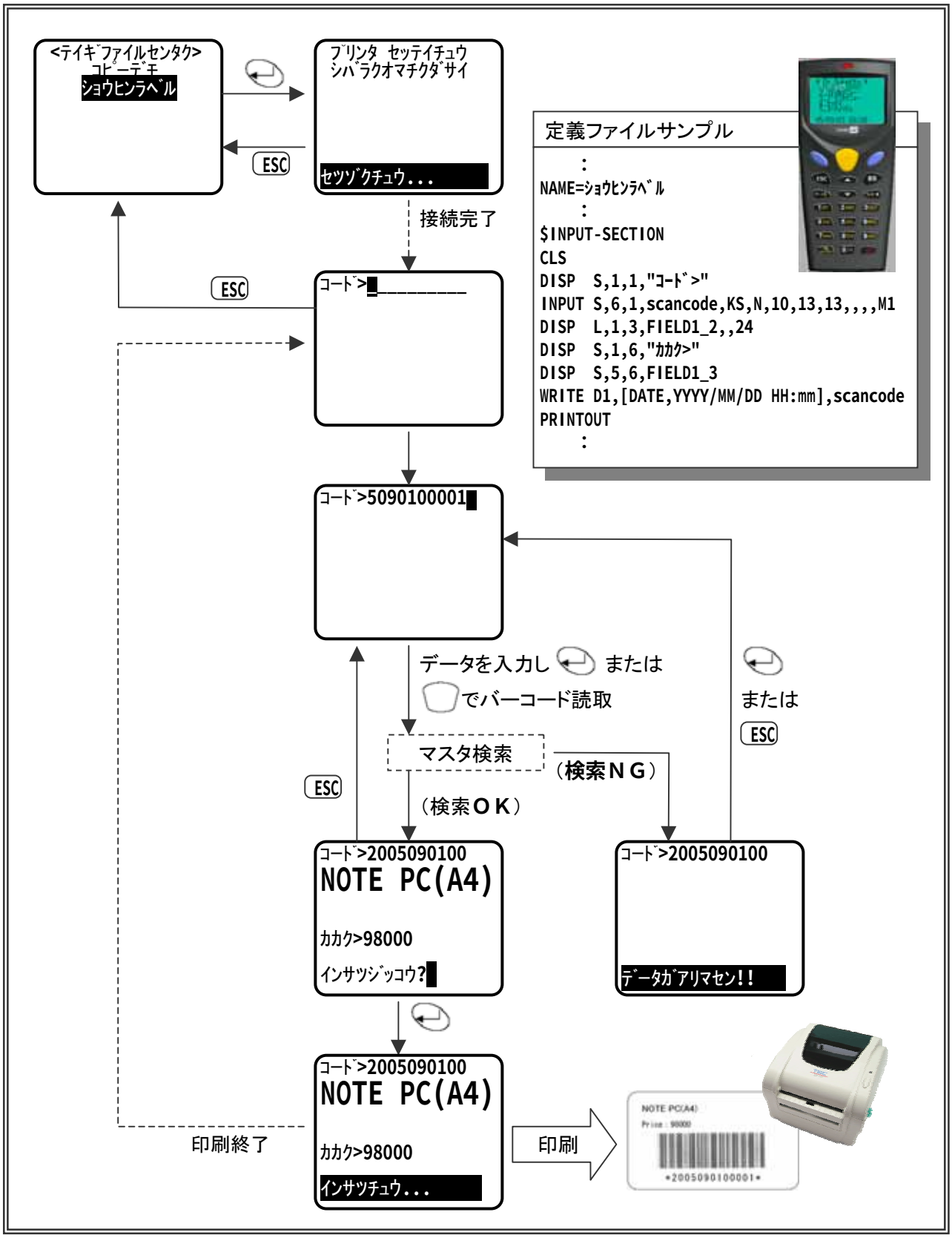
処理手順は次の通りです。

No		手 順	詳 細
1	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 * Dr.Suketto * 1.ｼﾞｯｺｳ 2.ﾌｧｲﾙﾒﾆｭｰ 3.ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ 4.ｾｯﾃｲ 5.ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ	[⏻] を押して、電源を投入すると「Dr.Suketto」が起動され、メインメニューが表示されます。起動されない場合は「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードを行ってください。
2	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 <ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙｾﾝﾀｸ> ｺﾋﾟｰﾃﾞﾓ ｼｮｳﾋﾝﾗﾍﾞﾙ	「Dr.Suketto」のメインメニューから「1.ｼﾞｯｺｳ」を選択してください。ダウンロードされている定義ファイルが1つの場合は、すぐに実行されます。 定義ファイルを複数ダウンロードした場合は、「ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙｾﾝﾀｸ」画面が表示されます。ファイルは「NAME=」で設定した名前で表示され、表示順はその名前の昇順です。実行する定義ファイルを選択してください。選択したファイルが実行されます。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

7. 2　実行時のイメージ

サンプルを例として、定義ファイル実行時のイメージを以下に示します。



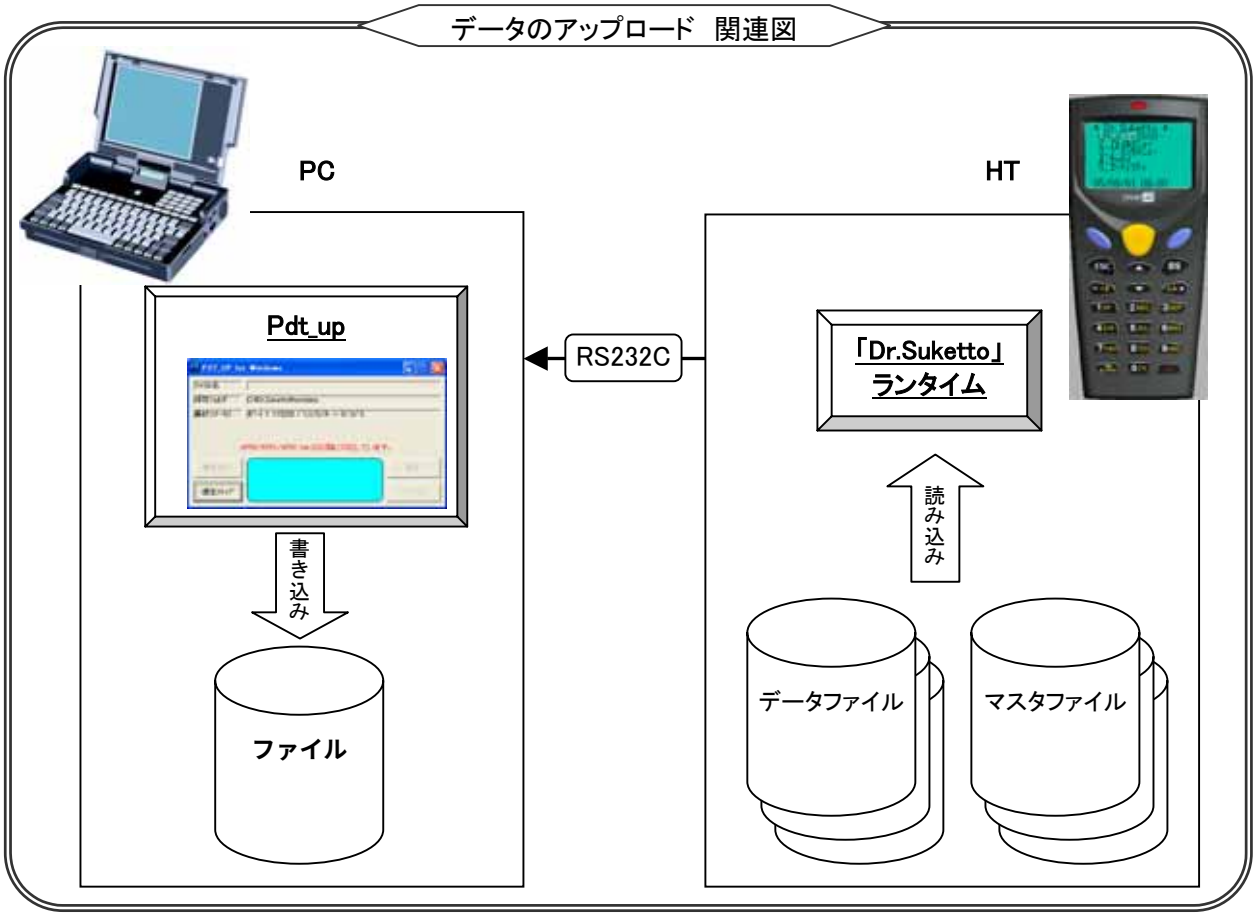
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

8. アップロード

この章では、データのアップロードについて説明します。

8. 1 データのアップロード

ハンディターミナルに書き込んだデータをPCで使用する場合、ハンディターミナルからPCにデータをアップロードします。アップロードできるのはマスタファイルとデータファイルです。データのアップロードは、ハンディターミナルとPCをRS232Cで接続して行います。



データは、下記のいずれかの形式で保存することができます。保存する形式によってアップロードに使用するツールが異なりますので、ご注意ください。（上図はPdt_up.exeを使用した場合の例です）

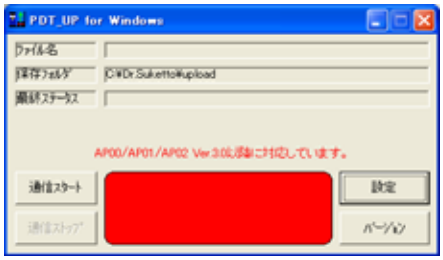
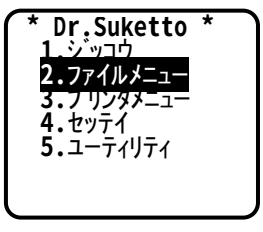
保存形式	使用ツール
テキストファイル（CSV形式）	Pdt_up.exe
XLS形式	Pdt_up_xls.exe
MDB形式	Pdt_up_mdb.exe

カンマを含む項目がある場合は、Pdt_up.exeをご使用ください。また、フィールドを指定して取り込むことはできませんので、「取り込みフィールド」は全ての項目をチェックしてください。

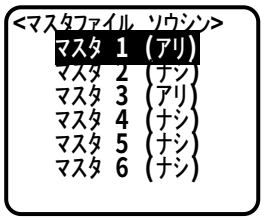
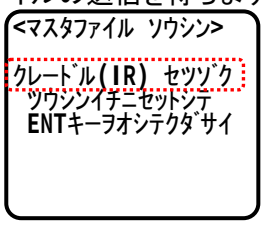
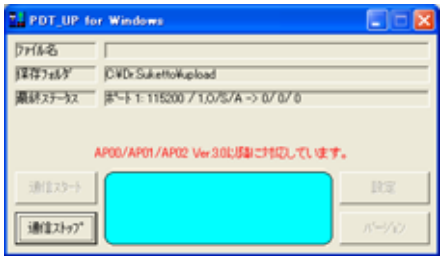
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

処理手順は次の通りです。ここでは、Pdt_up.exeを使用する場合の手順を記載しています。その他のツールの場合も、オプションの設定が若干異なりますが同様の手順です。ハンディターミナル側の手順は同じです。

※ツールの使用方法の詳細については、各々の取扱説明書をご参照ください。

No		手　順	詳　細
1	PC	ファイルアップロードツール（Pdt_up.exe）を起動します。 	Pdt_upを起動すると左のような画面が表示されますので、「設定」ボタンをクリックしてください。「ｵﾌﾟｼｮﾝ設定」画面が表示されます。
2	PC	通信設定を行います。 	下記の通り設定し、「OK」をクリックしてください。 ・ﾎﾟｰﾄ：アップロードに使用するポート番号 ・ﾓｰﾄﾞ：アップロード時の接続方法を指定 直接接続　・・・「RS232C ﾀﾞｲﾚｸﾄ通信 」 クレードルまたはIR-705使用　・・・ 「IR705 光ｱﾀﾞﾌﾟﾀ通信 」 ・ﾎﾞｰﾚｰﾄ：「115.2K bps(最高速)」 ・保存ﾌｫﾙﾀﾞ：「参照」ボタンをクリックし、ファイルを保存するフォルダを選択 ・取り込みフィールド選択： 全ての項目をチェック ☑ ・保存ﾓｰﾄﾞ（ファイルが既存の場合の動作） データを追加する・・・「追加ﾓｰﾄﾞ」 データを破棄する・・・「上書ﾓｰﾄﾞ」 ・ｽﾀｰﾄｻｲｽﾞ：「ﾉｰﾏﾙ」 ・ｵｰﾄｽﾀｰﾄ：「しない」 ・CRCﾀｲﾌﾟ：「ﾀｲﾌﾟ1」 ・ﾌﾟﾛﾄｺﾙ：「専用」 ※Pdt_upの受信時のファイル名は固定です。 マスタ「SKM1～6」 データ「SKD1～3」
3	HT	「Dr.Suketto」を起動します。 	⏻ を押して、電源を投入すると「Dr.Suketto」が起動され、メインメニューが表示されます。起動されない場合は「Dr.Suketto」ランタイムのダウンロードを行ってください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

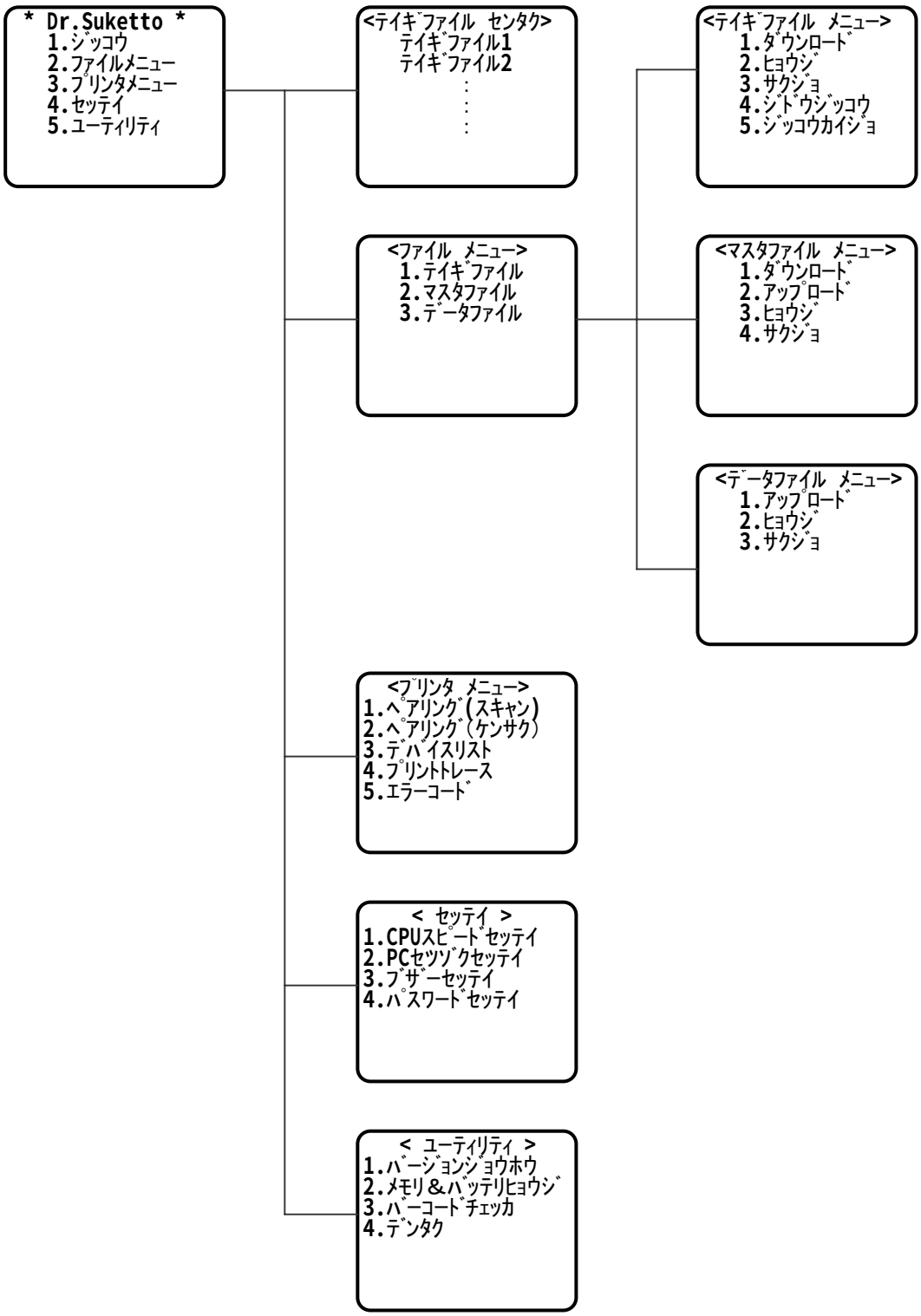
No		手　順	詳　細
4	HT	送信するファイルを選択します。 	「Dr.Suketto」のメインメニューから「ﾌｧｲﾙﾒﾆｭｰ」を選択してください。マスタファイルの場合は、「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ」を、データファイルの場合は「ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ」を選択してください。次に「ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ」を選択すると、ファイル選択画面が表示されます。 ファイルがない場合はファイル番号の横に(ナシ)、既存の場合は(ｱﾘ)と表示されます。 アップロードするファイルを選択して、 を押してください。
5	HT	ファイルの送信を待ちます。 	続けて、「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙｿｳｼﾝ」(または「ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙｿｳｼﾝ」)画面が表示されます。 　部分にPCとの接続方法が表示されますので、間違っている場合は設定を変更してください。 (設定変更は「9. 6　設定メニュー」参照) RS232CでPCと接続後、 を押してください。
6	PC	アップロードを開始します。 	Pdt_upで「通信ｽﾀｰﾄ」をクリックすると、アップロードが始まりますので、そのまましばらく待ちます。
7	PC	アップロード完了！	アップロードが終了すると1の画面に戻ります。 正常に終了しなかった場合は、通信設定やPCとHTとの接続を確認して再度ダウンロードを行ってください。プログラムを終了する場合は、画面右上の「×」ボタンをクリックします。
8	HT	アップロード完了！	アップロードが終了すると終了メッセージが表示されますので、 を押してください。「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙｿｳｼﾝ」(または「ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙｾﾝﾀｸ」)画面に戻ります。続けてアップロードする場合は、ファイルを選択してください。終了する場合は、ESCｷｰを押して上位のメニューに戻ってください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9. メニュー

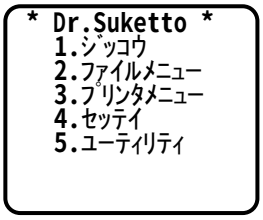
「Dr.Suketto」の機能をメニューに沿って説明します

9.1 メニュー画面関連図



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9．2　メインメニュー



「Dr.Suketto」のメインメニューです。

「1.ｼﾞｯｺｳ」 ― 処理の実行 ―

ダウンロード済みの定義ファイルを実行します。

「2.ﾌｧｲﾙﾒﾆｭｰ」 ― ファイルメニュー

ファイル（定義ファイル／マスタファイル／データファイル）を操作するためのメニューです。

アップロード・ダウンロードなどを行います。

「3.ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」 ― プリンタメニュー ―

プリンタとのペアリングや、トレースの設定などを行います。

「4.ｾｯﾃｲ」 ― 設定メニュー ―

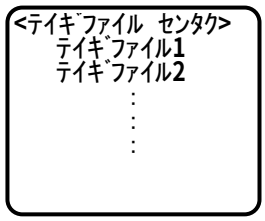
CPUスピードやキークリック音など、設定を行います。

「5.ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ」 ― ユーティリティメニュー

「Dr.Suketto」のバージョン表示やバーコードチェッカなどのユーティリティを実行します。

尚、バージョン情報はこの画面（メインメニュー画面）で [FN]＋[1] を押しても表示できます。

9．3　処理の実行



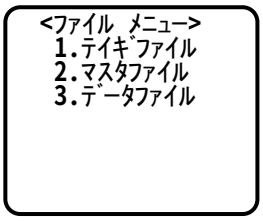
ダウンロード済みの定義ファイルを実行します。

複数の定義ファイルをダウンロードしている場合は、右のような、定義ファイルの選択画面が表示されますので、実行する定義ファイルを選択します。

ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙ1、ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙ2・・・の部分にはダウンロードしているファイルの名称（NAME=で指定した名称）が昇順に表示されます。

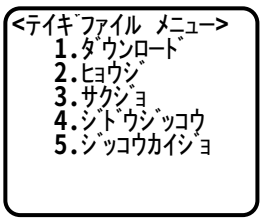
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9. 4　ファイルメニュー



ファイルの操作をするためのメニューです。

「1.ﾃｲｷﾞﾌｧｲﾙ」 ー 定義ファイルメニュー



「1.ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ」 ーダウンロード ー

PCで作成した定義ファイルをハンディターミナルにダウンロードします。手順は「4. 3 定義ファイルのダウンロード」を参照してください。

「2.ﾋｮｳｼﾞ」 ー 表示 ー

定義ファイルの表示を行います。

ダウンロードされている定義ファイルの一覧が表示されますので、表示するファイルを選択してください。

を押すと次ページが表示されます。ESCを押すと表示を終了します。

「3.ｻｸｼﾞｮ」 ー 削除 ー

定義ファイルの削除を行います。

ダウンロードされている定義ファイルの一覧が表示されますので、削除するファイルを選択してください。

「4.ｼﾞﾄﾞｳｼﾞｯｺｳ」 ー 自動実行の設定 ー

自動実行ファイルを設定します。メニューから実行できる機能（定義した処理以外の機能）を作業者に行わせたくない場合などに設定します。

自動実行は、下記の点が通常の実行と異なります。

- ・自動実行に設定すると、すぐに、定義ファイルを実行します。
- ・先頭項目で強制終了キー（FN+O）を入力した場合にのみ、終了することができます。（通常は ESC で終了）。
- ・パスワードを設定していれば、終了時にパスワード入力が必要になります。
- ・一旦処理を終了しても、メインメニューの「1.ｼﾞｯｺｳ」を選択すると、自動実行に設定したファイルが実行されます。

ダウンロードされている定義ファイルの一覧が表示されますので、自動実行するファイルを選択してください。

「5.ｼﾞｯｺｳｶｲｼﾞｮ」 ー 自動実行の解除 ー

自動実行の設定を解除します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

「2.ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ」 ー マスタファイルメニュー

<マスタファイル メニュー>
1.ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ
2.ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ
3.ﾋｮｳｼﾞ
4.ｻｸｼﾞｮ

「1.ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ」 ーダウンロード ー

PCで作成したマスタデータをハンディターミナルにダウンロードします。手順は「5. 2 マスタデータのダウンロード」を参照してください。

「2.ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ」 ー アップロード ー

ハンディターミナルで収集・更新したマスタファイルのデータをPCにアップロードします。
手順は「8. 1 データのアップロード」を参照してください。

「3.ﾋｮｳｼﾞ」 ー 表示 ー

ハンディターミナルに保存されているマスタファイルの表示を行います。
マスタファイルの一覧が表示されますので、表示するファイルを選択してください。
を押すと次ページが表示されます。ESCを押すと表示を終了します。

「4.ｻｸｼﾞｮ」 ー 削除 ー

ハンディターミナルに保存されているマスタファイルの削除を行います。
マスタファイルの一覧が表示されますので、削除するファイルを選択してください。

「3.ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ」 ー データファイルメニュー

<ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ メニュー>
1.ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ
2.ﾋｮｳｼﾞ
3.ｻｸｼﾞｮ

「1.ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ」 ー アップロード ー

ハンディターミナルで収集・更新したデータファイルのデータをPCにアップロードします。
手順は「8. 1 データのアップロード」を参照してください。

「2.ﾋｮｳｼﾞ」 ー 表示 ー

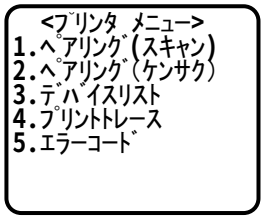
ハンディターミナルに保存されているデータファイルの表示を行います。
データファイルの一覧が表示されますので、表示するファイルを選択してください。
を押すと次ページが表示されます。ESCを押すと表示を終了します。

「3.ｻｸｼﾞｮ」 ー 削除 ー

ハンディターミナルに保存されているデータファイルの削除を行います。
データファイルの一覧が表示されますので、削除するファイルを選択してください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9. 5　プリンタメニュー



プリンタとのペアリングや、トレースの設定などを行います。

「1.ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ(ｽｷｬﾝ)」 ― BDアドレス入力によるペアリング

BDアドレスを入力して、プリンタとペアリングを行います。手順は「6. 1　ペアリング（スキャン）」を参照してください。

「2.ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ(ｹﾝｻｸ)」 ― 検索（Inquery）によるペアリング

範囲内にある接続可能なプリンタを検索してペアリングを行います。手順は「6. 2　ペアリング（検索）」を参照してください。

「3.ﾃﾞﾊﾞｲｽﾘｽﾄ」 ― デバイスリストの表示

ペアリングしている機器を表示します。SPP接続で同時にペアリングできる機器は1つです。

「4.ﾌﾟﾘﾝﾄﾄﾚｰｽ」 ― プリンタ送受信データの表示

プリンタとの間で送受信したデータを画面に表示します。

※トレースは、定義を確認するために使います。通常は設定しないでください。

トレースには以下のモードがありますので、適切なモードを選択してください。また、キー入力待ちを行うと送受信タイムアウトが発生する場合がありますのでご注意ください。

（1）ﾄﾚｰｽ ﾅｼ　　トレースを解除します。

（2）ﾄﾚｰｽ ﾋｮｳｼﾞ　　コードを表示するだけで、キー入力待ちは行いません。
どのコマンドを送信した後に応答がないのかを確認したい場合などに選択してください。

（3）ｿｳｼﾝｺﾞ WAIT　　データの送信後、キー入力を待ちます。
送信コマンドが正しいかをチェックする場合などに選択してください。

（4）ｼﾞｭｼﾝｺﾞ WAIT　　1バイト受信毎に、キー入力を待ちます。
プリンタからの受信データをチェックする場合などに選択してください。

（5）ｿｳｼﾞｭｼﾝｺﾞ WAIT　　データの送信後と1バイト受信毎にキー入力を待ちます。
送受信のデータを詳細にチェックする場合などに選択してください。

（5）ｿｳｼﾝﾏｴ WAIT　　データの送信前にキー入力を待ちます。
送信データとプリンタからの返答の一連の処理を確認したい場合などに選択してください。

キー入力を待っている場合は「>」が表示されます。データの表示形式は下記の通りです。

送信コード　　1回の送信データが[ ]で囲んで表示されます。
半角英数字・記号は文字で、以外は( )で囲んで2桁の16進数で表示されます。

受信コード　　1つのコードが{ }で囲んで表示されます。
半角英数字・記号は文字で、以外は2桁の16進数で表示されます。

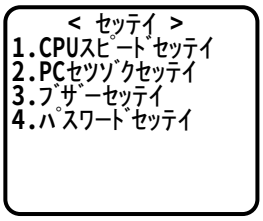
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

「5.ｴﾗｰｺｰﾄﾞ」 ー プリンタのエラーコードの表示 ー

エラー発生時などにプリンタから返されるコードの一覧です。エラーコードはプリンタエラー発生時、エラーメッセージに2桁の16進数で表示されます。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9.6　設定メニュー



CPUスピードやパスワードの設定を行います。

「1.CPUｽﾋﾟｰﾄﾞｾｯﾃｲ」 ― CPUスピードの設定 ―

ハンディターミナルのCPUスピードを設定します。スピードを遅くすると、表示等の処理が遅くなりますが、消費電力を節約できます。スピードを早くすると、処理は早くなりますが、消費電力が多くなります。業務に応じて、適切な設定を行ってください。

選択可能な値は、「1/16」「1/8」「1/4」「1/2」「ﾌﾙｽﾋﾟｰﾄﾞ」で、初期値は「1/2」です。

尚、ファイル送受信など一定のスピードが必要な処理は、設定にかかわらず、「ﾌﾙｽﾋﾟｰﾄﾞ」で実行されます。

「2.PCｾﾂｿﾞｸｾｯﾃｲ」 ― PCとの接続方法の設定 ―

ファイルのダウンロード／アップロード時の接続方法を設定します。

選択可能な値は、「RS232Cﾀﾞｲﾚｸﾄ」（注：83XXシリーズのみ）、「ｸﾚｰﾄﾞﾙ（IR）」、「IrDA」です。

初期値は、80XXシリーズは「ｸﾚｰﾄﾞﾙ（IR）」、83XXシリーズは「RS232Cﾀﾞｲﾚｸﾄ」です。

「3.ﾌﾞｻﾞｰｾｯﾃｲ」 ― ブザーの設定

キー入力時の音や正常／エラー終了時のブザーを設定します。

設定できるのは、下記の6種類です。

1.ｷｰﾆｭｳﾘｮｸ

キー入力時の音を設定します。設定できるのは、Tone1～Tone5とDisable（消音）です。

2.ｷﾄﾞｳｼﾞ

「Dr.Suketto」の起動時の音を設定します。選択できるのは以下の値です。

ｶｲｽｳ> 0～3　　※0は消音設定です。

ﾅｶﾞｻ> SHORT/MIDDLE/LONG （ 短 <--> 長 ）

ﾄｰﾝ> HIGHEST/HIGH/MIDIUM/LOW/LOWEST （ 高 <--> 低 ）

各々の項目毎に ↓ ↑ を押して設定する値を選択し、↵ で決定してください。

1つ前の項目に戻る場合は、ESC を押してください。

「ﾄｰﾝ」入力後、設定したブザー音がなります。

以下の項目も設定方法は同じです。

3.ﾊﾞｰｺｰﾄﾞｽｷｬﾝ

バーコードをスキャンした時の音を設定します。

4.ﾆｭｳﾘｮｸｴﾗｰ

範囲外のデータを入力した場合などの音を設定します。

5.ｾｲｼﾞｮｳｼｭｳﾘｮｳ

ファイルダウンロードやマスタ検索などの処理が正常に終了した時の音を設定します。

6.ｴﾗｰｼｭｳﾘｮｳ

ファイルダウンロードやマスタ検索などの処理でエラーになった時の音を設定します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

「4.ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞｾｯﾃｲ」 ー パスワードの設定 ー

ハンディターミナルで使用するパスワードを設定します。

パスワードを設定すると、以下の場合にパスワードの入力が必要になります。

・「ﾌｧｲﾙﾒﾆｭｰ」「ﾌﾟﾘﾝﾀﾒﾆｭｰ」「ｾｯﾃｲ」を選択する場合

・自動実行を終了する場合

・「System Menu」を表示する場合

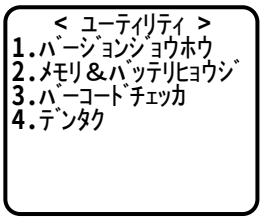
（System Menuはフォントやランタイムのダウンロードに使用します）

パスワードは8文字までの半角英数字で指定してください。入力ミスを防ぐために、「1>」に入力したパスワードと同じパスワードを「2>」にも入力してください。パスワードを削除する場合は、文字を入力せず、 を押します。

設定したパスワードを確認する方法はありません。忘れないようにご注意ください。 万一、パスワードが判らなくなった場合には、弊社までご連絡ください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

9.7　ユーティリティメニュー



「Dr.Suketto」のバージョン表示やバーコードチェッカなどのユーティリティを実行します。

「1.ﾊﾞｰｼﾞｮﾝｼﾞｮｳﾎｳ」 ― 「Dr.Suketto」のバージョン表示 ―

ハンディターミナルにインストールされている「Dr.Suketto」のバージョンを表示します。
バージョン情報はメインメニュー画面で FN ＋ 1 を押しても表示できます。

「2.ﾒﾓﾘ&ﾊﾞｯﾃﾘﾋｮｳｼﾞ」 ― メモリとバッテリの表示 ―

ハンディターミナルのメモリとバッテリ残量を表示します。

「3.ﾊﾞｰｺｰﾄﾞﾁｪｯｶ」 ― バーコードチェッカ ―

バーコードをスキャンし、読取ったバーコードの種類とデータを表示します。
読み取り可能なバーコードの種類と読み取りモードは、最後に使用した定義ファイルの設定になります。これを使って、定義ファイルのスキャナ設定をチェックしてください。
また、バーコードチェッカの画面で以下の機能キーを入力すると、デフォルトの設定や、他の定義ファイルを確認することができます。

FN ＋ 7　現在の設定を表示します。
FN ＋ 8　初期状態（デフォルト）に設定します。
FN ＋ 9　定義ファイルを読み込みます。
　　定義ファイルの一覧が表示されますので、バーコードチェッカで使用する定義ファイルを選択してください。

「4.ﾃﾞﾝﾀｸ」 ― 電卓 ―

加減乗除の計算ができます。
1.「1:」に数値を入力して ↵ を押してください。
2. 計算方法を入力してください。
　1 足し算　2 引き算　3 掛け算　4 割り算
3.「2:」に数値を入力して ↵ を押してください。
「=」の横に計算結果が表示されます。（小数点以下2桁までの表示）

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

10. 定義ファイル仕様

ここからは、定義ファイルの仕様や、定義ファイルに記入する設定／コマンド等について説明します。
この章では、定義ファイルの全般的な仕様について、次章以降で、設定やコマンドの詳細（リファレンス）を説明します。

10. 1　定義ファイルの形式

・定義ファイルはテキストファイル形式で作成し、ファイルの拡張子を「.txt」にしてください。
　※テキストファイル形式・・・文字と改行・タブなどのコードだけで記述されたファイル。
・1行の終了にはCR+LFコードを付加してください。
　※メモ帳やテキストエディタで作成すると、通常は自動的に付加されます。
・1行に記入できるのは250バイト（半角250文字）までです。

10. 2　セクション

定義ファイルには5つのセクションがあります。
ENV-SECTION、DEF-SECTION、INPUT-SECTION、PRSET-SECTION、LABEL-SECTIONです。
各セクションごとに定義する内容・使用可能なコマンド等が決まっています。使用しないセクションを省略することはできますが、定義するセクションの順番を変えることはできません。

10. 3　コメント

「$ 」（$と半角空白1文字）で始まる行は、コメント行です。実行時には無視されます。

10. 4　空白

各設定およびコマンドの、引数の前の空白は無視されます。また、空行も無視されます。

10. 5　コード

「Dr.Suketto」では、印刷に使用する制御コードに名前をつけたものを「コード」と呼びます。
これには、「Dr.Suketto」で用意されているシステム定義コードと、$DEF-SECTIONで自由に定義することができるユーザ定義コードがあります。

【システム定義コード一覧】

コード名	ESC	CR	LF	GS	NUL
10進数	27	13	10	29	0
16進数	1B	0D	0A	1D	0

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

10. 6　変数

変数は、代入や計算や編集などによって値が変わるもので、入力されたデータや計算・編集などの処理を行った結果を保管する入れ物です。これには、「Dr.Suketto」で用意されているシステム定義変数と、$DEF-SECTIONで自由に定義することができるユーザ定義変数があります。
変数には型があり、型によって扱えるデータが異なりますので、注意が必要です。

【システム定義変数一覧】

変数	型	説　明	備考
FIELD1_1 ～ FIELD6_10	文字型	マスタから読み出したデータを参照するための変数です。 各FIELD変数には、マスタから読み込んだレコードの各フィールドの値を持ちます。 「FIELD」の次の数字がマスター番号(1～6)です。 「_」の後の数字がフィールド番号（1～10）です。 最初のフィールド（キー）が1、次のフィールドからは連番です。	参照のみ
DATE	日付型	ハンディターミナルに設定されている日時を参照するための変数です。	参照のみ
LBLNAME	文字型	定義ファイルの名称（環境設定定義セクションの「NAME=」で設定した名前）を参照するための変数です。	参照のみ
PRTCNT	整数型	印刷回数を設定します。1回のPRINTOUTコマンドで、複数印刷する場合に設定してください。	初期値=1
LBLNO	整数型	PRINTOUTコマンドを実行する度に、カウントアップされます。 ラベルに出力して、ラベル番号として使用できます。 再印刷の場合はカウントされません。	初期値=1
LBLSEQ	整数型	PRTCNTで複数回印刷を指定した場合に、印刷1回毎にカウントアップされます。また、印刷終了時にPRINTOUTコマンド発行前の値に戻ります。 ラベルに出力して、同一ラベル内の連番として使用できます。 再印刷の場合はカウントされません。	初期値=1
ALLSEQ	整数型	PRTCNTで複数回印刷を指定した場合に、印刷1回毎にカウントアップされます。 ラベルに出力して、全ラベルの通し番号として使用できます。 再印刷の場合はカウントされません。	初期値=1

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

10. 7　使用可能なファイル形式

「Dr.Suketto」で使用できるファイル形式は以下の2種類です。ファイルは各々の定義ファイルごとに独立しているものではなく、全定義ファイルで共通で使用できます。

マスタファイル（インデックスファイル）

キーを使用して、登録されたデータを検索することができるファイルです。1つのファイルに対してキーは1つで、6ファイルまで使用可能です。レコードの長さは固定で、主にマスタとして使用します。本書中では「マスタ」または「マスタファイル」と記載しています。

データファイル（ログファイル）

データを登録するためのファイルで、検索はできません。3ファイルまで使用可能です。1レコードの長さは可変で、書き込むデータによって異なります。本書中では「データファイル」または「ログファイル」と記載しています。

10. 8　置き換え

プリンタ設定定義・ラベル定義セクションで、プリンタコマンドの一部を変数・定数の値に置き換えたい場合は、置き換え・編集の開始文字と終了文字で囲んで記入してください。

置き換え・編集開始文字と置き換え・編集終了文字について

開始文字　　デフォルトは「[」です。動作環境設定セクションで変更可能です
プリンタコマンド中に開始文字を出力する場合、置き換え開始～終了以外の箇所では、開始文字を二つ続けて記入してください。 例) [[

終了文字　　デフォルトは「] 」です。動作環境設定セクションで変更可能です
プリンタコマンド中に終了文字を出力する場合、置き換え開始～終了の間は、終了文字を二つ続けて記入してください。 例)]]

置き換えの記入方法について

※置き換え・編集開始文字と終了文字はデフォルトのままで記載しています。
動作環境設定で変更した場合は、[と] を変更後の文字に変えてください。

10進数　・・・書式は、[999]です。999には、0～255を記入します。
16進数　・・・書式は、[X99]です。99には、00～FFを記入します。
コード名　・・・書式は、[コード名]です。
コード名には、システム定義コード名またはユーザ定義コード名を記入します。
変数名　・・・書式は、[変数名]です。
変数名には、システム定義変数名またはユーザ定義変数名を記入します。
編集方法　・・・書式は、[編集方法]です。編集方法は、「16. 編集方法」を参照してください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

10. 9　コマンドや設定の詳細説明について

コマンドや設定については、各々【機能】【書式】【引数】【説明】【制限】【省略値】【記入例】を記載しています。

【機能】　　コマンドや設定の機能概要です。

【書式】　　定義ファイルに記入する際の書き方です。

・複数行で記載している場合がありますが、定義ファイルには1行（250バイト）以内で記入してください。
・太字は固定部分です。そのまま記入してください。
・太字以外の項目は引数と呼びます。下に記載している例では、例1の「定義ファイル名」、例2の「フォント」「カラム」などです。不要な引数については省略できる場合があります。
・各項目の間の「 」（空白）、「=」、「,」は必ず記入してください。但し、引数を省略した場合、記入した最後の引数よりも後ろのカンマは省略することができます。

例1）「**NAME**=定義ファイル名」の場合

```
NAME=ﾊﾞｰｺｰﾄﾞｺﾋﾟｰ
```

例2）「**DISP** フォント,カラム,ライン,表示項目,書式,表示領域桁数,表示方法」で、
引数の「書式」と「表示方法」を省略する場合

```
DISP S,1,3,FIELD1_2,,24
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【引数】　【書式】に記載された各引数ごとに、指定できる値（文字など）について説明します。
引数が不要な場合は、この項目はありません。

・各引数には「フォント」のように下線をつけています。
・引数に続く（　）の中には、その引数を省略した場合の値（デフォルト値）を記載しています。デフォルト値の記載がない引数は省略できません。
・引数の後に、「*複数指定可能*」と記載されている場合は、複数の値を記入することが出来ます。この場合は、指定したい値を続けて書きます。

例1）　引数「フォント」の場合

フォント（S）
S・・・スモールフォント
M・・・ミディアムフォント
L・・・ラージフォント

引数を省略した場合は、「S」を指定したことになります。
複数指定可能ではないので、S、M、Lのいずれかを記入してください。

例2）　INPUTコマンドの引数「入力方法」の場合

入力方法（K）　*複数指定可能*
K・・・キー入力
S・・・バーコードスキャン

引数を省略した場合は「K」を指定したことになります。
複数の指定が可能ですので、キー入力とスキャンの両方を指定する場合は「KS」と記入してください。

【説明】　コマンドや設定の詳細な説明です。

【制限】　コマンドや設定の制限事項を記載しています。
制限事項がない場合には、この項目はありません。

【省略値】　動作環境設定セクションの場合のみ、記載しています。
設定を記入しなかった場合の値を記載しています。

【記入例】　定義ファイルに記入する際の例です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 動作環境設定セクション（ENV-SECTION）

この章では、動作環境設定セクションについて説明します。
動作環境設定セクションに記入する設定は、一般設定とバーコード設定に分けられます。

一般設定

ハンディターミナルの動作やリーダの読取モードの設定など、「Dr.Suketto」の動作環境を設定します。「設定名=パラメータ1（,パラメータ2・・・）」という書式で指定します。パラメータは設定によって異なります。

【一般設定一覧】

機　　能	名　称
使用するプリンタを指定する	PRINTER
定義ファイルの名称を設定する	NAME
マスターのサイズを定義する	M1 ～ M6
プリンタとの接続のタイミングを指定する	AUTOCNCT
プリンタのステータスチェックを行う	STATUSCHK
印刷前に確認メッセージを表示する	PRINTMSG
印刷後に再印刷確認メッセージを表示する	RETRYMSG
置き換え･編集開始文字を指定する	VARSTART
置き換え･編集終了文字を指定する	VAREND
印刷コマンドに制御コードを自動付加する	AUTOCTRL
印刷ログを記録する	PRINTLOG
リーダの読取モードを指定する	SCANMODE
リーダの読取照合回数を指定する	VERIFY
リーダの読取タイムアウト時間を設定する	TIMEOUT
コードスキャン時、ENTを付加する	AUTOENT

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

バーコード設定

環境設定定義セクションでは、バーコードの種別ごとに、読取許可／不許可やオプションを設定することができます。「コード名=読取許可(,オプション,オプション・・・)」という書式で、必要なオプションを「,」でつないで指定します。指定できるオプションはバーコードの種別によって異なります。

【バーコード設定一覧】

機　能	名　称
コード39読取設定	CODE39
コード93読取設定	CODE93
コード128読取設定	CODE128
インダストリアル25読取設定	INDUSTRIAL25
インターリーブド25読取設定	INTERLV25
マトリックス25読取設定	MATRIX25
NW7読取設定	NW7
UPCE読取設定	UPCE
UPCEアドオン2読取設定	UPCE-2
UPCEアドオン5読取設定	UPCE-5
EAN8読取設定	EAN8
EAN8アドオン2読取設定	EAN8-2
EAN8アドオン5読取設定	EAN8-5
EAN13＆UPCA読取設定	EAN8
EAN13アドオン2読取設定	EAN13-2
EAN13アドオン5読取設定	EAN13-5
MSI読取設定	MSI
Plessey読取設定	PLESSEY
イタリアンファーマコード読取設定	PHARMA
CIP39読取設定	CIP39
RSS14読取設定	RSS14
RSS14リミテッド読取設定	RSS14LM
RSS14エクスパンド読取設定	RSS14EX
ネガバーコード読取設定	NEGACODE

定義ファイルに、バーコード設定を1つでも記入した場合は、それ以外のバーコードは全て読取不許可となります。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

また、バーコード設定を全く記入しなかった場合は、初期状態（デフォルト状態）となります。
デフォルト状態は以下の通りです。

読取許可コード	オプション
コード39	チェックデジット送信有り
コード93	なし
コード128	なし
インダストリアル25	チェックデジット送信有り、1～64桁指定、 スタート／ストップパターン＝インダストリアル25
インターリーブド25	チェックデジット送信有り、1～64桁指定、 スタート／ストップパターン＝インターリーブド25
NW7（コーダバー）	スタート／ストップパターン＝abcd/abcd
UPCE（アドオンなし）	チェックデジット送信有り
EAN8（アドオンなし）	チェックデジット送信有り
EAN13（アドオンなし）	チェックデジット送信有り、システムナンバー送信有り、 UPCA->EAN13変換有り、UPCA チェックデジット送信有り
ネガバーコード	なし

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11.1　セクション開始宣言（$ENV-SECTION）

【機能】　動作環境設定セクションの開始を宣言します。

【書式】　**$ENV-SECTION**

【説明】　動作環境設定セクションの開始を宣言します。

【省略時】　必須項目です。省略はできません。

【記入例】　$ENV-SECTION

11.2　使用プリンタ情報指定（PRINTER）

【機能】　プリンタ情報を指定します。

【書式】　**PRINTER**=メーカー名,プリンタ名

【引数】　メーカー名

TSC・・・TSCのプリンタを使用する（プリンタ名の指定が必要です）

NONE・・・プリンタを使用しない（プリンタ名は指定しません）

プリンタ名

TTP・・・TTPシリーズのプリンタを使用する

TDP・・・TDPシリーズのプリンタを使用する

【説明】　使用するプリンタを指定します。

インストールしたランタイムとプリンタ情報が一致していない場合は、エラーとなります。

【制限】　PRINTER=NONEを指定した場合、PRINTOUTコマンドおよびPRINTSETコマンドは使用できません。

【省略時】　必須項目です。省略はできません。

【記入例】　PRINTER=TSC,TDP

PRINTER=NONE

11.3　定義ファイル名称設定（NAME）

【機能】　定義ファイル名称を設定します。

【書式】　**NAME**=定義ファイル名

【引数】　定義ファイル名

表示ファイル名（半角英数カナ・記号）

80XXシリーズは16バイトまで、83XXシリーズは20バイトまでです。

ファイル名の桁数を揃えたい場合は、後ろに空白を付加してください。

【説明】　定義ファイルの表示名称を指定します。ファイル選択が必要な場合などに、指定した名前が表示されます。表示は名前の昇順です。

【省略時】　「ﾐﾃｲｷﾞ」と表示されます。

【記入例】　NAME=ｺﾋﾟｰﾗﾍﾞﾙ

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 4　マスタサイズ定義（M1～M6）

【機能】　マスタファイルのサイズを定義します。

【書式】　マスタ=レコード長,キー長

【引数】　マスタ

　　M1～M6・・・マスタ1～マスタ6

レコード長 (250)

　　指定したマスタファイルのレコード長（1～250）

キー長 (40)

　　指定したマスタファイルのキー長（1～レコード長）

【説明】　各マスタファイルのレコード長およびキー長を指定します。サイズを指定すると、マスタにデータを収集する場合に、より多くのレコードを収集することができます。PUTコマンドで、マスタに最初にレコードを書き込む際に使用されます。

既存ファイルのサイズ変更はできません。（存在するファイルのサイズに依存します。）

キーを除いたサイズ（データ部分のサイズ）は、（レコード長）-（キー長）となります。

データ部分のサイズは、各フィールドの区切り文字を含んだ文字数で計算してください。

【制限】　PUTコマンドを使用する際に設定可能ですが、マスタのダウンロードでは無効です。

【省略時】　レコード長は250バイト、キー長は40バイト

【記入例】　M1=100,20

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 5　プリンタ接続・初期化設定（AUTOCNCT）

【機能】　プリンタ接続と初期化のタイミングを設定します。

【書式】　AUTOCNCT=実行

【引数】　実行

0・・・プリンタ設定（PRINTSET）／印刷（PRINTOUT）時に接続し、初期化する

1・・・定義ファイル実行開始時に接続し、初期化する

【説明】　プリンタに接続し、初期化を実行するタイミングを設定します。

初期化時にプリンタに送信されるコマンドは以下のいずれかです。

・PRSET-SECTIONの$START INIT～$END INITの間に記載されている全コマンド

・$STARTの指定が1つも無い場合は、PRSET-SECTIONに記載の全コマンド

【省略時】　1

【記入例】　AUTOCNCT=0

11. 6　プリンタ状態チェック設定（STATUSCHK）

【機能】　プリンタの状態チェック有無を設定します。

【書式】　STATUSCHK=実行

【引数】　実行

0・・・プリンタの状態チェックを行わない。

1・・・プリンタの状態チェックを行う。

【説明】　プリンタ設定や印刷時に、プリンタの状態をチェックするかどうかを設定します。

ステータスチェックを行うと、設定や印刷の処理は遅くなりますが、プリンタの処理の終了を待ってから次の設定や印刷を行いますので、確実に処理することができます。

ステータスチェックを行わない場合は、プリンタの処理終了を待たずに次の処理を行うことができます。

【省略時】　1

【記入例】　STATUSCHK=0

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 7　確認メッセージ表示設定（PRINTMSG）

【機能】　印刷前の確認メッセージの表示有無を設定します。

【書式】　**PRINTMSG**=表示タイミング

【引数】　表示タイミング

0・・・メッセージを表示しない。

1・・・メッセージを表示する。複数枚印刷の場合、1枚ごとに表示します。

2・・・メッセージを表示する。複数枚印刷の場合、1枚目の印刷前に表示します。

【説明】　印刷を行う前に確認メッセージを表示するかどうかを設定します。

メッセージ表示に設定した場合、メッセージの表示後、キー入力待ちとなります。

入力可能なキーは以下の通りです。

　印刷を実行します。

ESC　1つ前の入力項目に戻ります。

複数枚の印刷はシステム定義変数（PRTCNT）で指定します。

【制限】　プリンタコマンドで複数毎を指定した場合、1枚として処理を行いますので、PRINTMSG=1を指定しても、印刷1枚毎にメッセージは表示されません。

【省略時】　1

【記入例】　PRINTMSG=0

11. 8　再印刷メッセージ表示設定（RETRYMSG）

【機能】　印刷後の再印刷メッセージの有無を設定します。

【書式】　**RETRYMSG**=表示タイミング

【引数】　表示タイミング

0・・・メッセージを表示しない。

1・・・メッセージを表示する。複数枚印刷する場合、1枚ごとに表示します。

2・・・メッセージを表示する。複数枚印刷する場合、最後の印刷後に表示します。

【説明】　印刷を行った後に再印刷確認のメッセージを表示するかどうかを設定します。

メッセージ表示に設定した場合、メッセージの表示後、キー入力待ちとなります。

入力可能なキーは以下の通りです。

　再印刷を実行します。

ESC　次の処理に移ります。

複数枚の印刷はシステム定義変数（PRTCNT）で指定します。

【制限】　プリンタコマンドで複数毎を指定した場合、1枚として処理を行いますので、RETRYMSG=1を指定しても、印刷1枚毎にメッセージは表示されません。

再印刷時は、PRINTで指定された枚数が出力されます。

【省略時】　0

【記入例】　RETRYMSG=1

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 9　置き換え・編集開始文字の指定（VARSTART）

【機能】　置き換えと編集の、開始文字を指定します。

【書式】　**VARSTART**=開始文字

【引数】　開始文字

　　指定する文字（半角英数・記号　1バイト）

【説明】　指定された文字を、置き換えと編集の開始文字とします。

【記入例】　VARSTART、VARENDで設定した場合の例を以下に示します。

```
　　:
VARSTART=(
VAREND=)
　　:
(ESC)A
(ESC)V190(ESC)H000(ESC)L0101(ESC)K2Bウェルコムデザイン㈱
(ESC)Q1
(ESC)Z
```

【省略時】　[

11. 10　置き換え・編集終了文字の指定（VAREND）

【機能】　置き換えと編集の、終了文字を指定します。

【書式】　**VAREND**=終了文字

【引数】　終了文字

　　指定する文字（半角英数・記号　1バイト）

【説明】　指定された文字を、置き換えと編集の終了文字とします。

【記入例】　※VARSTART参照

【省略時】　]

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 11　制御コード自動付加（AUTOCTRL）

【機能】　設定・印刷コマンドに制御コードを付加します。

【書式】　AUTOCTRL=付加モード

【引数】　付加モード

0・・・制御コードを付加しない

1・・・制御コードを付加する

【説明】　プリンタに送信する設定・印刷コマンドに制御コードを付加するかどうかを設定します。付加する場合には、コマンドを定義ファイルから1行分読み込む度に、次の処理が行われます。

・最後がCRコード＋LFコードでない場合、CRコードやLFコードを付加します。

【省略時】　0

【記入例】　自動付加なし／あり、各々の場合のラベル定義の例を示します

（1）自動付加なし（AUTOCTRL=0）

```
CLS[CR][LF]
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"[CR][LF]
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"[CR][LF]
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"[CR][LF]
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"[CR][LF]
PRINT 1,1[CR][LF]
```

（2）自動付加あり（AUTOCNTL=1）

```
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 12 印刷ログ設定(PRINTLOG)

【機能】　印刷ログの出力有無と出力項目を設定します。

【書式】　PRINTLOG=ファイル,項目1,項目2,・・・項目10

【引数】　ファイル

D1～D3・・・データファイル１～３

項目1～10

ファイルに出力するデータです。項目1～10まで指定可能です。

以下のいずれかの形式で指定してください。

変数の値を出力する場合・・・変数名を記入

固定の値を出力する場合・・・「″」で囲んで、出力する文字を記入

例)″00001″ ″入庫″

編集結果を出力する場合・・・編集開始文字と終了文字の間に編集方法を記入

編集方法は「16. 編集方法」を参照してください。

【説明】　指定したデータを、印刷時(PRINTOUTコマンド実行時)に出力します。

データはファイルの最後に追加されます。

各項目は「,」(カンマ)でつないで、ファイルに出力されます。

また、各項目のデータの途中にカンマが有る場合は、″で囲まれます。

【省略時】　出力なし

【記入例】　データファイル1に、00001、ユーザ定義変数scancodeの値、現在日時を出力する。

```
PRINTLOG D1,″00001″,scancode,[DATE,YYYY/MM/DD HH:mm]
```

scancodeの値が1234567890、現在日時が2005年9月1日9時30分の場合、データファイル1に以下のデータが追加されます。

00001,1234567890,2005/09/01 09:30

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 13 リーダ設定（SCANMODE）

【機能】　バーコードリーダの読取モードを設定します。

【書式】　SCANMODE=設定

【引数】　設定

下表の「設定」に記載されている値を指定します。

設定	リーダの動作
AUTOOFF	トリガキーでスキャンを開始します。 バーコードをスキャンするか、タイムアウト時間が経過するまで、スキャンを続けます。
CONTINUOUS	常時スキャンします。
AUTOPWOFF	トリガキーでスキャンを開始します。 タイムアウト時間が経過するまで、スキャンを続けます。（バーコードをスキャンした時に、タイムアウトまでの経過時間をリセット）
ALTERNATE	トリガキーでスキャンを開始します。トリガキーが再度押されるまでスキャンを続けます。
MOMENTARY	トリガキーを押している間スキャンを続けます。
REPEAT	常時スキャンします。 バーコード読取後、1秒以内にトリガキーを押すと、同じコードを何回でも再送します。
LASER	トリガキーでスキャンを開始します。 バーコード読取りでスキャンを終了します。
TEST	常時スキャンします。 テスト用の読み取りモードです。通常は使用しないでください。
AIMING	読取に、2回トリガキーを押すモードです。 最初にトリガキーを押したときに、読取るバーコードに照準を合わせます。その後、1秒間スキャンが続きますので、その間に2回目のトリガキーを押して読取ります。押さなかった場合は、照準が解除されます。近くにある他のバーコードを、間違って読取らないようにするモードです。

【説明】　バーコードリーダの動作モードを設定します。

【省略時】　LASER

【記入例】　SCANMODE=AUTOOFF

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 14 読取照合回数設定（VERIFY）

【機能】　リーダの読取照合回数を設定します。

【書式】　**VERIFY**=回数

【引数】　回数

照合回数（0～3）

0を指定した場合は、照合を行いません。

【説明】　リーダの読取時に、指定された回数、照合を行います。回数が多いほど、読取間違いは減りますが、読取時間は遅くなります。

【省略時】　0

【記入例】　VERIFY=1

11. 15 読取タイムアウト設定（TIMEOUT）

【機能】　リーダの読取タイムアウト時間を設定します。

【書式】　**TIMEOUT**=秒数

【引数】　秒数

タイムアウト時間（秒）（0～255）

【説明】　リーダの読取タイムアウト時間を秒数で指定します。タイムアウト時間は、リーダ設定（SCANMODE）がAUTOOFFおよびAUTOPWOFFの場合にだけ有効です。

【省略時】　3

【記入例】　TIMEOUT=10

11. 16 読取時ENT入力設定（AUTOENT）

【機能】　リーダ読取時、ENT付加の有無を設定します。

【書式】　**AUTOENT**=入力モード

【引数】　入力モード

0・・・ENTを付加しない

1・・・ENTを付加する

【説明】　リーダの読取時に、自動的にENTを付加するかどうかを設定します。
ENTを付加するように設定すると、リーダでデータを読取った後に、 を押した場合と同様の処理が行われます。ENTを付加しない場合は、データ読取後に、 を入力する必要があります。読取ったコードの後に続けてキーを入力する必要がある場合には、ENT付加なしに設定します。

【省略時】　1

【記入例】　AUTOENT=0

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 17 コード39読取設定（CODE39）

【機能】　コード39の読取を設定します。

【書式】　**CODE39**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-ST・・・スタート／ストップコードを送信する

VERIFY-CD・・・チェックデジット検査を行う

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

FULLASCII・・・フルアスキーを許可する

【説明】　コード39の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　CODE39=ENABLE,FULLASCII

11. 18 コード93読取設定（CODE93）

【機能】　コード93の読取を設定します。

【書式】　**CODE93**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　コード93の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　CODE93=ENABLE

11. 19 コード128読取設定（CODE128）

【機能】　コード128の読取を設定します。

【書式】　**CODE128**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　コード128の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　CODE128=ENABLE

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 20 インダストリアル25読取設定(INDUSTRIAL25)

【機能】　インダストリアル25の読取を設定します。

【書式】　**INDUSTRIAL25**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

VERIFY-CD・・・チェックデジットを検査する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

[スタート／ストップの指定]

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

INDUSTRL25・・・インダストリアル25

INTERLV25・・・インターリーブド25

MATRIX25・・・マトリックス25

[桁数チェック方法の指定]

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

MAX-MIN・・・最大／最小桁数を使用する

FIX・・・固定桁数を使用する

[桁数の指定]

「数値,数値」という書式で、桁数を指定します。指定可能な数値は0～127です。デフォルト値は「0,0」です。

・桁数チェック方法で最大／最小桁数を指定した場合

最初の数値が最大桁数、次の数値が最小桁数の指定です。

・桁数チェック方法で固定桁数を指定した場合

どちらの数値も桁数の指定です。

桁数チェック方法が固定桁数で、桁数の指定が「0,0」の場合は桁数チェックを行いません。

【説明】　インダストリアル25の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　INDUSTRIAL25=ENABLE,SEND-CD,FIX,20,25

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 21　インターリーブド２５読取設定（INTERLV25）

【機能】　インターリーブド２５（ITF）の読取を設定します。

【書式】　**INTERLV25**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

VERIFY-CD・・・チェックデジットを検査する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

［スタート／ストップの指定］

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

INDUSTRL25・・・インダストリアル２５

INTERLV25・・・インターリーブド２５

MATRIX25・・・マトリックス２５

［桁数チェック方法の指定］

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

MAX-MIN・・・最大／最小桁数を使用する

FIX・・・固定桁数を使用する

［桁数の指定］

「数値,数値」という書式で、桁数を指定します。指定可能な数値は0～127です。デフォルト値は「0,0」です。

・桁数チェック方法で最大／最小桁数を指定した場合

最初の数値が最大桁数、次の数値が最小桁数の指定です。

・桁数チェック方法で固定桁数を指定した場合

どちらの数値も桁数の指定です。

桁数チェック方法が固定桁数で、桁数の指定が「0,0」の場合は桁数チェックを行いません。

【説明】　インターリーブド２５の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　INTERLV25=ENABLE,SEND-CD,INTERLV25,FIX,20,25

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 22 マトリックス25読取設定(MATRIX25)

【機能】　マトリックス25の読取を設定します。

【書式】　**MATRIX25**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

VERIFY-CD・・・チェックデジットを検査する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

[スタート／ストップの指定]

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

INDUSTRL25・・・インダストリアル25

INTERLV25・・・インターリーブド25

MATRIX25・・・マトリックス25

[桁数チェック方法の指定]

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

MAX-MIN・・・最大／最小桁数を使用する

FIX・・・固定桁数を使用する

[桁数の指定]

「数値,数値」という書式で、桁数を指定します。指定可能な数値は0～127です。デフォルト値は「0,0」です。

・桁数チェック方法で最大／最小桁数を指定した場合

最初の数値が最大桁数、次の数値が最小桁数の指定です。

・桁数チェック方法で固定桁数を指定した場合

どちらの数値も桁数の指定です。

桁数チェック方法が固定桁数で、桁数の指定が「0,0」の場合は桁数チェックを行いません。

【説明】　マトリックス25の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　MATRIX25=ENABLE,SEND-CD,MATRIX25,FIX,20,25

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 23 NW7読取設定(NW7)

【機能】　NW7(コーダバー)の読取を設定します。

【書式】　**NW7**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-ST・・・スタート／ストップを送信する

[スタート／ストップの指定]

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

abcd・・・abcd/abcd

tn*e・・・abcd/tn*e

ABCD・・・ABCD/ABCD

TN*E・・・ABCD/TN*E

【説明】　NW7(コーダバー)の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　NW7=ENABLE,abcd

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 24 UPCE読取設定（UPCE）

【機能】　UPCEの読取を設定します。

【書式】　**UPCE**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

CHG-UPCA・・・UPCAに変換する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

SEND-SN・・・システムナンバーを送信する

【説明】　UPCEの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　UPCE=ENABLE,SEND-CD

11. 25 UPCEアドオン2読取設定（UPCE-2）

【機能】　UPCEアドオン2の読取を設定します。

【書式】　**UPCE-2**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　UPCEアドオン2の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　UPCE-2=ENABLE

11. 26 UPCEアドオン5読取設定（UPCE-5）

【機能】　UPCEアドオン5の読取を設定します。

【書式】　**UPCE-5**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　UPCEアドオン5の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　UPCE-5=ENABLE

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 27 EAN8読取設定(EAN8)

【機能】　EAN8の読取を設定します。

【書式】　**EAN8**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

CHG-EAN13・・・EAN13に変換する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

【説明】　EAN8の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　EAN8=ENABLE,SEND-CD

11. 28 EAN8アドオン2読取設定(EAN8-2)

【機能】　EAN8アドオン2の読取を設定します。

【書式】　**EAN8-2**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　EAN8アドオン2の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　EAN8-2=ENABLE

11. 29 EAN8アドオン5読取設定(EAN8-5)

【機能】　EAN8アドオン5の読取を設定します。

【書式】　**EAN8-5**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　EAN8アドオン5の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　EAN8-5=ENABLE

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 30 EAN13＆UPCA読取設定（EAN13）

【機能】　EAN13とUPCAの読取を設定します。

【書式】　**EAN13**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

CHG-ISBN・・・ISBNに変換する

CHG-ISSN・・・ISSNに変換する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

SEND-CD-U・・・UPCAチェックデジットを送信する

SEND-SN-U・・・UPCAシステムナンバーを送信する

CHG-EAN13・・・UPCAをEAN13に変換する

【説明】　EAN13とUPCAの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　EAN13=ENABLE,SEND-CD

11. 31 EAN13アドオン2読取設定（EAN13-2）

【機能】　EAN13アドオン2の読取を設定します。

【書式】　**EAN13-2**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　EAN13アドオン2の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　EAN13-2=ENABLE

11. 32 EAN13アドオン5読取設定（EAN13-5）

【機能】　EAN13アドオン5の読取を設定します。

【書式】　**EAN13-5**=読取許可

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】　EAN13アドオン5の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　EAN13-5=ENABLE

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 33 MSI読取設定(MSI)

【機能】　MSIの読取を設定します。

【書式】　**MSI**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

［チェックデジットの指定］

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

SINGLE10・・・シングルモジュラス10

DOUBLE10・・・ダブルモジュラス10

MOD11&10・・・モジュラス10＆11

［チェックデジットの送信］

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

LAST1CUT・・・ラストチェックデジットを送信しない

SEND-CD・・・チェックデジットを両方両方送信する

SEND-NO・・・チェックデジットを両方送信しない

［桁数チェック方法の指定］

下記のいずれかを指定してください。太字がデフォルト値です。

MAX-MIN・・・最大／最小桁数を使用する

FIX・・・固定桁数を使用する

［桁数の指定］

「数値,数値」という書式で、桁数を指定します。指定可能な数値は0～127です。デフォルト値は「0,0」です。

・桁数チェック方法で最大／最小桁数を指定した場合

最初の数値が最大桁数、次の数値が最小桁数の指定です。

・桁数チェック方法で固定桁数を指定した場合

どちらの数値も桁数の指定です。

桁数チェック方法が固定桁数で、桁数の指定が「0,0」の場合は桁数チェックを行いません。

【説明】　MSIの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　MSI=ENABLE,SEND-CD,FIX,20,25

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 34 Plessey読取設定（PLESSEY）

【機能】　Plesseyの読取を設定します。

【書式】　**PLESSEY**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

CHG-UK・・・UK Plessyに変換する

【説明】　Plesseyの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　PLESSEY=ENABLE,SEND-CD

11. 35 Telepen読取設定（TELEPEN）

【機能】　Telepenの読取を設定します。

【書式】　**TELEPEN**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

AIM・・・Telepen AIM（フルアスキー）

【説明】　Telepenの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　TELEPEN=ENABLE,AIM

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 36 イタリアンファーマコード読取設定（PHARMA）

【機能】　イタリアンファーマコードの読取を設定します。

【書式】　**PHARMA**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

【説明】　イタリアンファーマコードの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　PHARMA=ENABLE,SEND-CD

11. 37 CIP39読取設定（CIP39）

【機能】　CIP39の読取を設定します。

【書式】　**CIP39**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する。

DISABLE・・・読取を許可しない。

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

【説明】　CIP39の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　CIP39=ENABLE,SEND-CD

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 38 RSS14読取設定(RSS14)

【機能】　RSS14の読取を設定します。

【書式】　**RSS14**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-CID・・・コードIDを送信する

SEND-AID・・・アプリケーションIDを送信する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

【説明】　RSS14の読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　RSS14=ENABLE,SEND-CD

11. 39 RSS14リミテッド読取設定(RSS14LM)

【機能】　RSS14リミテッドの読取を設定します。

【書式】　**RSS14LM**=読取許可,オプション

【引数】　読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-CID・・・コードIDを送信する

SEND-AID・・・アプリケーションIDを送信する

SEND-CD・・・チェックデジットを送信する

【説明】　RSS14リミテッドの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】　RSS14LM=ENABLE,SEND-CD

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

11. 40 RSS14エクスパンド読取設定(RSS14EX)

【機能】 RSS14エクスパンドの読取を設定します。

【書式】 **RSS14EX**=読取許可,オプション

【引数】 読取許可

ENABLE・・・読取を許可する。

DISABLE・・・読取を許可しない。

オプション

読取許可の後に、必要なオプションを「,」でつないで指定してください。

指定可能なオプションは以下の通りです。

SEND-CID・・・コードIDを送信する

【説明】 RSS14エクスパンドの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】 RSS14EX=ENABLE,SEND-CD

11. 41 ネガバーコード読取設定(NEGACODE)

【機能】 ネガバーコードの読取を設定します。

【書式】 **NEGACODE**=読取許可

【引数】 読取許可

ENABLE・・・読取を許可する

DISABLE・・・読取を許可しない

【説明】 ネガバーコードの読取を設定します。不許可の場合、読取は行われません。

【記入例】 NEGACODE=ENABLE

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

12. 変数・コード定義セクション（DEF-SECTION）

この章では、変数・コード定義セクションについて説明します。
変数・コード定義セクションでは、定義ファイル中で使用する変数およびコードを定義します。
ここで定義した変数を「ユーザ定義変数」、コードを「ユーザ定義コード」と呼びます。
（システム定義変数およびシステム定義コードの宣言は必要ありません。）

変数について

ユーザ定義変数には、以下の3つの型があります。用途に応じて、型を選択してください。

型	使用可能データ	用　　途
文字型	文字（半角・全角文字など全て）	抽出・結合などの編集 マスタの検索キー
整数型	数値（小数点なし）　-999999999～999999999	整数計算
実数型	数値（小数点あり）	実数計算

コードについて

「Dr.Suketto」でプリンタに制御コードを出力する方法は以下の通りです。

・制御コードの値を10進数または16進数で記入する。

・システム定義コード名または、コード定義を行ったコード名を記入する。

何度も使う制御コードの場合は、コード名で記入するほうが間違いが少なくなりますので、システムで定義されていないコードを使用する場合は、コード定義を行ってください。

ユーザ定義コードおよびシステム定義コードは、プリンタ設定定義セクションとラベル定義セクションでのみ使用できます。

変数名およびコード名の規則

変数名およびコード名の先頭は半角英小文字です。
2文字目以降は半角の英小文字・数字・アンダーバー(_)で、8文字までです。
8文字を超えた文字は切り捨てられます。変数名とコード名は重複しないようにしてください。

注意：上記以外の文字を使用することも可能ですが、動作の保証はできません。
また、英大文字はシステムで使用しますので、「Dr.Suketto」をバージョンアップした後にエラーが発生する場合があります。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

12. 1　セクション開始宣言（$DEF-SECTION）

【機能】　変数・コード設定セクションの開始を宣言します。

【書式】　**$DEF-SECTION**

【説明】　変数・コード設定セクションの開始を宣言します。

【省略時】　変数やコードを宣言する場合には、省略できません。

【記入例】　$DEF-SECTION

12. 2　文字型変数定義（STR）

【機能】　文字型変数を定義します。

【書式】　**STR** 変数名,初期値

【引数】　変数名

　　定義する変数の名前

　　初期値　　省略時の値=なし

　　変数に最初に設定する値（文字列）

【説明】　定義ファイル中で使用する文字型変数を定義します。

　　1つの文字型変数には250バイトまでの文字が格納可能です。

【記入例】　例1）文字型変数「scancode」を宣言する

```
STR scancode
```

　　例2）文字型変数「kaisha」を宣言し、初期値を「ウェルコムデザイン株式会社」にする

```
STR kaisha,ウェルコムデザイン株式会社
```

12. 3　整数型変数定義（INT）

【機能】　整数型変数を定義します。

【書式】　**INT** 変数名,初期値

【引数】　変数名

　　定義する変数の名前

　　初期値　　省略時の値=0

　　変数に最初に設定する値（整数値）

【説明】　定義ファイル中で使用する整数型変数を定義します。

　　整数型変数では小数点以下の数は使用できません。また値の範囲は、-999999999～999999999です。それ以外の場合は実数型にしてください。

【記入例】　例1）整数型変数「suryo」を宣言する

```
INT suryo
```

　　例2）整数型変数「kakaku」を宣言し、初期値を「19800」にする

```
INT kakaku,19800
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

12. 4　実数型変数定義（REAL）

【機能】　実数型変数を定義します。

【書式】　**REAL** 変数名,初期値

【引数】　変数名

　　宣言する変数の名前

　　初期値　　省略時の値=0

　　変数に最初に設定する値（実数値）

【説明】　定義ファイル中で使用する実数型変数を定義します。

　　実数型変数には値の制限はありませんが、計算を行った際に誤差が生じる場合があります。

【記入例】　例1）実数型変数「tanka」を宣言する

```
REAL tanka
```

　　例2）実数型変数「zei」を宣言し、初期値を「1.05」にする

```
REAL zei,1.05
```

12. 5　コード定義（CONST）

【機能】　コード名を定義します。

【書式】　**CONST** コード名,値

【引数】　コード名

　　定義するコードの名前

　　値

　　コード名に対応する値

　　10進数で記入する場合は、0～255

　　16進数で記入する場合は、X00～XFF

【説明】　定義ファイル中で使用するコード名を宣言します。

【記入例】　例1）コード「tab」を宣言する。値は10進数の「9」とする

```
REAL tab
```

　　例2）コード変数「nak」を宣言する。値は16進数の「15」（10進数では「21」）とする

```
REAL nak,X15
```


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 入力画面定義セクション(INPUT-SECTION)

この章では、入力画面定義セクションについて説明します。

入力画面定義セクションで使用可能なコマンドは以下の通りです。

種 別	機 能	名 称
表示	画面をクリアする	CLS
	指定位置以降、行末までをクリアする	CLL
	データを表示する	DISP
入力	データを入力する	INPUT
	リストからデータを選択入力する	LIST
	キー入力または指定秒数の経過を待つ	WAIT
	ブザーを鳴らす	BUZZER
データの操作	変数に値や編集・計算結果を設定する	＝
ファイル	マスタファイルからデータを読み出す	GET
	マスタファイルにレコードを書き込む	PUT
	データファイルにレコードを書き込む	WRITE
	マスタファイルのレコードを削除する	REMOVE
	マスタ／データファイルのレコード数を取得する	COUNT
	マスタ／データファイルを削除する	DELETE
	マスタファイルをダウンロードする	DOWNLOAD
	マスタ／データファイルをアップロードする	UPLOAD
分岐	条件が一致した場合に分岐する	IF
	無条件に分岐する	GOTO
	飛び先ラベルを宣言する	:
印刷	プリンタを設定する	PRINTSET
	印刷する	PRINTOUT

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

ハンディターミナルの入出力画面を定義する際には、表示等に使用する文字のフォント（文字の大きさ）を考慮して、画面レイアウトを作成する必要があります。
各コマンドの詳細説明のまえに、フォントファイルとフォント、および、入出力画面を作成するための画面レイアウトシートの使用方法について説明します。

フォントファイル

日本語はフォントファイルをハンディターミナルにダウンロードすることで表示可能となります。
フォントファイルには以下の2種類があります。

フォントファイル	対応するフォント	ファイル名
16ドットフォントファイル	ラージフォント および スモールフォント	8xxx-J16.shx
12ドットフォントファイル	ミディアムフォント および スモールフォント	8xxx-J12.shx

※83XXシリーズでは、16ドットフォントファイルのみ使用可能です。

※12ドットフォントファイル使用時、スモールフォントで半角カナを表示すると、文字の最下ドットが欠けます。

フォントの種類

ハンディターミナルには、3種類のフォントがあります。

フォント	表示可能文字	ドット/1文字（横×縦）	制 限 事 項
スモールフォント	半角	6× 8	・全角表示不可
ミディアムフォント	半角	6×12	・ラージフォントとの同時使用不可
	全角	12×12	・80XXシリーズのみ可
ラージフォント	半角	8×16	・ミディアムフォントとの同時使用不可
	全角	16×16	

表示可能な文字数

画面に表示できる文字数と行数は機種及び使用するフォントによって異なります。

機種	フォント	文字	1行の文字数	1画面の行数
80XXシリーズ	スモールフォント	半角	16	8
	ミディアムフォント	半角	16	5
		全角	8	5
	ラージフォント	半角	12	4
		全角	6	4
83XXシリーズ	スモールフォント	半角	20	8
	ラージフォント	半角	15	4
		全角	7	4

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

画面レイアウトについて

画面のレイアウトは、添付の画面レイアウトシートを使用して作成してください。

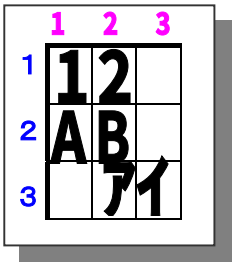
各フォント別に使用方法と例を説明します。　　※記載している画面例は画面の左上部分です。

【スモールフォント】

・画面レイアウトの上の数字がカラム（桁）、左の数字がライン（行）です。

・1つの枠に1つの文字を記入します。全角は使えません。

画面例）



開始位置）

文字列	カラム	ライン
12	1	1
AB	1	2
ｱｲ	2	3

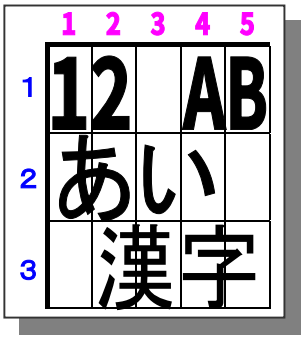
【ミディアムフォント】

・画面レイアウトの上の数字がカラム（桁）、左の数字がライン（行）です。

・半角は1つの枠に1つの文字を、全角は左右に並んだ2つの枠に1つの文字を記入します。

・カラムは2つの枠のうち、左側の枠の数字を使用します。

画面例）



開始位置）

文字列	カラム	ライン
12	1	1
AB	4	1
あい	1	2
漢字	2	3

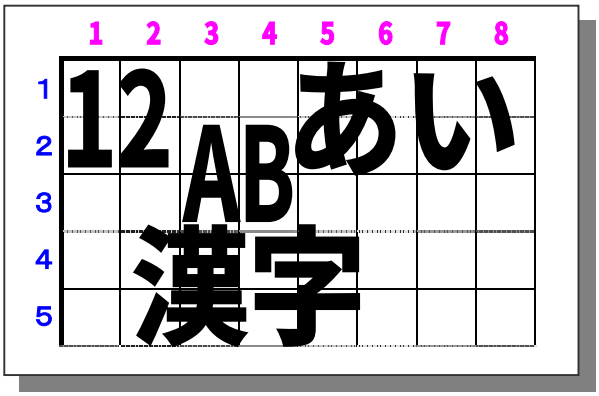
【ラージフォント】

・画面レイアウトの上の数字がカラム（桁）、左の数字がライン（行）です。

・半角は上下に並んだ2つの枠に1つの文字を、全角は上下左右に並んだ4つの枠に1つの文字を記入します。

・カラムは左側の枠、ラインは下側の枠の数字を使用します。

画面例）



開始位置）

文字列	カラム	ライン
12	1	2
AB	3	3
あい	5	2
漢字	2	5

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【ミディアムフォント／スモールフォント混在】

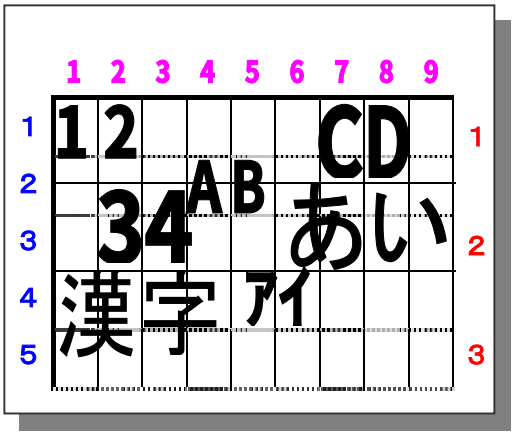
・ミディアムフォントは実線、スモールフォントは点線の枠を使用します。ミディアムフォント2行がスモールフォント3行に相当します。

・画面レイアウトの上の数字がカラム（桁）、左の数字がスモールフォントのライン（行）、右の数字がミディアムフォントのライン（行）です。

・半角は、スモールフォントまたはミディアムフォントの1つの枠に1つの文字を記入します。全角は、ミディアムフォントの左右に並んだ2つの枠に1つの文字を記入します。

・カラムは2つの枠のうち、左側の枠の数字を使用します。

画面例）



開始位置）

	文字列	カラム	ライン
スモール	12	1	1
	AB	4	2
	ｱｲ	5	4
ミディアム	34	2	2
	CD	7	1
	あい	6	2
	漢字	1	3

【ラージフォント／スモールフォント混在】

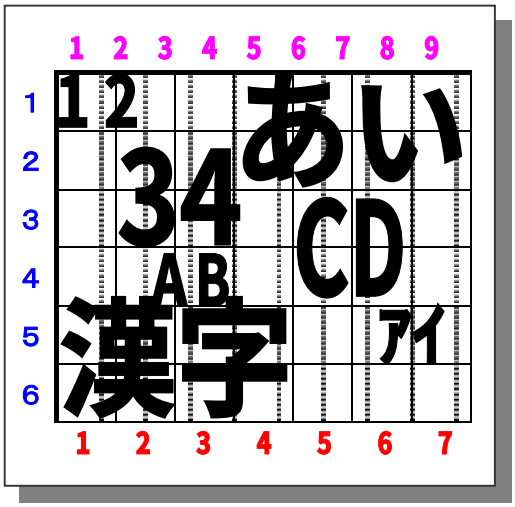
・ラージフォントは実線、スモールフォントは点線の枠を使用します。ラージフォント半角3文字がスモールフォントの4文字、ラージフォント1行がスモールフォント2行に相当します。

・画面レイアウトの上の数字がスモールフォントのカラム（桁）、下の数字がラージフォントのカラム（桁）、左の数字がライン（行）です。

・半角は、スモールフォントの1つの枠またはラージフォントの上下に並んだ2つの枠に1つの文字を記入します。全角は、ラージフォントの上下左右に並んだ4つの枠に1つの文字を記入します。

・ラージフォントのカラムは左側の枠、ラインは下側の枠の数字を使用します。

画面例）



開始位置）

	文字列	カラム	ライン
スモール	12	1	1
	AB	3	4
	ｱｲ	8	5
ラージ	34	2	3
	CD	5	4
	あい	4	2
	漢字	1	6

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 1　セクション開始宣言（$INPUT-SECTION）

【機能】　入力画面定義セクションの開始を宣言します。

【書式】　**$INPUT-SECTION**

【説明】　入力画面定義セクションの開始を宣言します。

【省略時】　必須項目です。省略はできません。

【記入例】　$INPUT-SECTION

13. 2　画面のクリア（CLS）

【機能】　ハンディターミナルの画面をクリアします。

【書式】　**CLS**

【説明】　ハンディターミナルの画面をクリアします。

【記入例】　CLS

13. 3　行のクリア（CLL）

【機能】　指定された行をクリアします。

【書式】　**CLL** フォント,カラム,ライン,行数

【引数】　フォント　（S）

S・・・スモールフォント

M・・・ミディアムフォント

L・・・ラージフォント

カラム（1）

開始カラム番号（1～使用機種・フォントでの最大カラム）

ライン（1）　　（但し、フォントがLの場合は2）

開始ライン番号（使用機種・フォントでの最小ライン番号～最大ライン番号）

行数（1）

クリアする行数（1～使用機種・フォントでの最大行数）

【説明】　カラムとラインで指定された位置から、画面右端までをクリアします。

行数が2以上の場合、2行目以降は1カラムからクリアされます。

【記入例】　ラージフォントの3カラム・1ラインから、1行クリアする

```
CLL L,3,4
```

スモールフォントの1カラム・4ラインから、2行クリアする

```
CLL S,1,4,2
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 4　項目の表示（DISP）

【機能】　指定された項目を表示します。

【書式】　DISP フォント,カラム,ライン,表示項目,書式,表示領域,表示方法

【引数】　フォント（S）

S・・・スモールフォント

M・・・ミディアムフォント

L・・・ラージフォント

カラム（1）

開始カラム番号（1～使用機種・フォントでの最大カラム）

ライン（1）　（但し、フォントがLの場合は2）

開始ライン番号（使用機種・フォントでの最小ライン番号～最大ライン番号）

表示項目

変数の値を表示する場合・・・変数名を記入

固定の値を表示する場合・・・表示する内容を「″」で囲んで記入

書式（なし）　*複数指定可能*

［位置］　以下のいずれかを指定

L・・・左寄せ

R・・・右寄せ

Z・・・前に0を詰めて右寄せ

［大文字・小文字の変換］　以下のいずれかを指定

B・・・半角英小文字を大文字に変換

S・・・半角英大文字を小文字に変換

［カンマ編集］

C・・・カンマ編集（表示項目が整数型または実数型変数の場合のみ有効）

［桁数の指定］　以下のいずれかを指定

数値・・・編集後の桁数

数値.数値・・・「.」の左の数値は、編集後の桁数

「.」の右の数値は、小数点以下の桁数

※表示項目が実数型変数の場合のみ有効

表示領域（指定なし・・・表示データの長さとなります）

画面に表示する桁数（バイト数）を数値で指定。

0を指定すると、指定されたデータを全て表示します。

表示項目のデータが指定した桁数より長い場合、超過部分は表示されません。

（整数型変数・実数型変数の場合は、超過部分も表示されます）

表示方法（指定なし）　*複数指定可能*

R・・・反転表示

K・・・キーが入力されるまで、表示

数値・・・表示秒数。指定された秒数の間、表示

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【説明】　指定されたカラム・ラインの位置から、指定された表示項目を書式に従って右寄せ・カンマ編集などの編集を行ったのち、指定されたフォントで表示します。

固定の値を表示する場合および文字型変数では、表示するデータが領域桁数より長い場合、超過部分は表示されません。整数型変数・実数型変数では、超過部分も表示されます。

表示方法に、Rを指定した場合は反転表示します。

表示方法に、Kを指定した場合は、下記のいずれかのキーが押されるまで表示し、押されたキーに応じて、処理を行います。

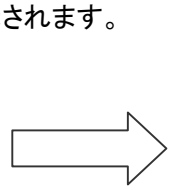
・・・次のコマンドを実行します。

ESC ・・・1つ前の入力項目に戻ります。

また、表示方法に、数値を指定した場合は、指定秒数が経過するまで表示した後、次のコマンドを実行します。

【記入例】　下記の例の場合、右のような画面が表示されます。

```
CLS
DISP S,1,1,"ｺｰﾄﾞ>"
DISP L,1,3,FIELD1_2,,24,R
DISP S,1,6,kakaku,RC10,,K2
```



※各変数の値が下記の場合の表示例です。

FIELD1_2＝「マスタ1の第2フィールドです」　kakaku（整数型変数）＝「19800」

・DISP S,1,1,"ｺｰﾄﾞ>"

「ｺｰﾄﾞ>」という文字が、そのまま表示されます。

・DISP L,1,3,FIELD1_2,,24,R

FIELD1_2の値が表示されます。表示領域に「24」を指定していますので24バイトまでの表示、表示方法にRを指定しているため、反転表示になります。

・DISP S,1,6,kakaku,RC10,,K2

kakakuの値が、右寄せとカンマ編集を行って表示されます。また、表示方法に「K2」を指定していますので、キーが押されるか2秒経過するまで表示します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 5　データの入力(INPUT)

【機能】　データの入力を待ち、入力されたデータを指定された変数に格納します。

【書式】　INPUT フォント,カラム,ライン,入力項目,入力方法,入力制限,入力領域,最小,最大,
初期値,省略値,タイミング,マスタ

【引数】　フォント (S)

S・・・スモールフォント

M・・・ミディアムフォント

L・・・ラージフォント

カラム (1)

開始カラム番号(1～使用機種・フォントでの最大カラム)

ライン (1)　　(但し、フォントがLの場合は2)

開始ライン番号(使用機種・フォントでの最小ライン番号～最大ライン番号)

入力項目

入力されたデータを格納する変数名

入力方法 (K)　*複数指定可能*

K・・・キー入力

S・・・バーコードスキャン

入力制限 (指定なし)　　*複数指定可能*

[入力可能文字制限]　　入力項目が文字型変数の場合のみ有効

N・・・数字

A・・・英字

S・・・記号

[範囲指定]　　入力項目が文字型変数の場合のみ有効

範囲を指定して、マスタからデータを順に取得したい場合に指定します。

INPUTコマンド実行時に、FN＋1を押して範囲指定画面を表示し、範囲を指定することができます。(詳細は【説明】の「範囲指定について」参照)

R・・・次データ自動取得

次の実行時に、次のデータを自動取得します。

G・・・次データ指定取得

次の実行時に、FN ＋2　の入力で、次のデータを取得します。

0・・・データ取得後、自動的に ↵ を入力

・RとGはいずれかを指定してください。

・0はRまたはGに続けて記入してください。(R0またはG0と指定)

・マスタパラメータ(後述)で、検索するマスタを指定してください。

[小数点以下の桁数の指定]　実数型変数の場合のみ有効

数値・・・小数点以下の桁数

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

入力領域

入力領域の桁数（バイト数）を数値で指定。

画面には、入力領域として、指定されたバイト数分の「_」（アンダーバー）が表示されます。入力するデータが、入力領域より長い場合は、指定された入力領域内でスクロールされます。

最小（0）

数値・・・変数の型により、異なります。

文字型変数・・・最小入力バイト数

整数型変数および実数型変数・・・最小値

最大（整数の型により異なる。下記参照）

数値・・・変数の型により、異なります。

文字型変数・・・最大入力バイト数（省略時=50）

整数型変数・・・最大値（省略時=9999）

実数型変数・・・最大値（省略時=99999999.0）

初期値（なし）

INPUTコマンド実行時に入力項目に設定する値を指定。

変数の値を設定する場合・・・変数名を記入

固定の値を設定する場合・・・設定する内容を「″」で囲んで記入

省略値（なし）

入力項目が空の場合に設定する内容を「″」で囲んで記入

タイミング（E）

F・・・1回目のみ入力

1回目の入力が終わると、このコマンドは無視されます。

定義ファイル実行開始時にだけ入力し、その後の入力が必要ない項目に指定します。　例）オペレータ（担当者）番号の入力

C・・・共通入力

1回目の入力は必要ですが、2回目以降は入力不要です。

このコマンドを再度実行したい場合は、次の入力項目で、ESCを押します。

毎回入力する必要がない項目に指定します。　例）在庫管理の棚番の入力

E・・・毎回入力

毎回入力が必要です。

マスタ（なし）

入力されたデータをキーにして、または、範囲指定でマスタを検索する場合に指定します。該当するデータがない場合はエラーメッセージが表示されます。

M1～M6・・・検索対象マスタ

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【説明】　カラム・ラインの位置から、入力領域分の「_」（アンダーバー）が表示され、データの入力を待ちます。初期値が指定されている場合は、データを表示し、データの終了位置にカーソルが移動します。入力方法で指定した方法でデータの入力ができます。

・入力領域を超えるバイト数のデータが入力された場合はスクロールされます。
・入力制限で指定された文字種以外の文字は入力できません。
・入力可能バイト数以上の文字は入力できません。
・入力制限にRまたはGを指定した場合は FN＋1 を押し、マスタデータ取得範囲指定画面を表示することができます。（詳細は次ページ参照）

入力を終了するには、下記のいずれかのキーを押してください。

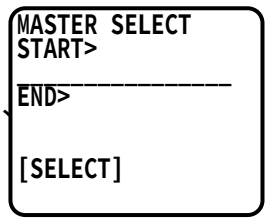
↵・・・入力されたデータを、入力項目に格納し、次の処理に移ります。
ESC ・・・入力されたデータを破棄し、1つ前の入力項目に戻ります。
　　最初の入力項目の場合、定義ファイルの実行を終了します。
FN＋O ・・・定義ファイルの実行を終了します。（強制終了）
　　※自動実行の場合は、動作が異なります。

↵を押した後に、指定された処理やチェックが行われます。
エラーメッセージが表示された場合は、再度入力待ちとなります。

・入力項目が空の場合（何も入力されていない場合）、入力項目に省略値が設定されます。
・入力制限で指定された文字種以外の文字があった場合はエラーメッセージが表示されます。
・最小・最大の範囲外のデータの場合は、エラーメッセージが表示されます。
・マスタが指定されている場合は、入力項目をキーとして、指定されたマスターが検索されます。一致するレコードがあれば、次のコマンドを実行します。ない場合はエラーメッセージが表示されます。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

※範囲指定(R,R0,G,G0)について



＜範囲指定画面の使用方法＞

入力制限にR,R0,G,G0のいずれかを指定した項目の入力時、

FN ＋ 1 を押すと右のような画面が表示されます。

入力／表示される項目は以下の通りです。

・START〉　開始キー(入力しない場合は先頭レコード)

・END〉　終了キー(入力しない場合は最後のレコード)

・[SELECT]　範囲内のデータ件数の表示

各項目とも、決定は ↵ 、前の項目に戻るのは ESC です。

件数表示後、メッセージが表示されますので、↵ を押すと、元の画面に戻り、範囲内の最初のデータが表示されます。

＜↵ キーの入力＞

RまたはGを指定した場合は、表示されたデータを確認して、↵ を押してください。R0、G0の場合は、↵ が自動的に付加されますので、入力は不要です。

＜次データの取得＞

表示されたデータをスキップする(処理を行わない)場合は、 FN ＋ 2 を押してください。次のデータを取得し、表示されます。

＜次入力時の動作＞

R、R0を指定した場合は、範囲指定した項目を次に入力する時に、自動的に次のデータが表示されます。

G、G0の場合は、FN ＋ 2 を押して、次のデータを取得して下さい。

＜その他＞

・指定した範囲内のデータが終了するとメッセージが表示されます。

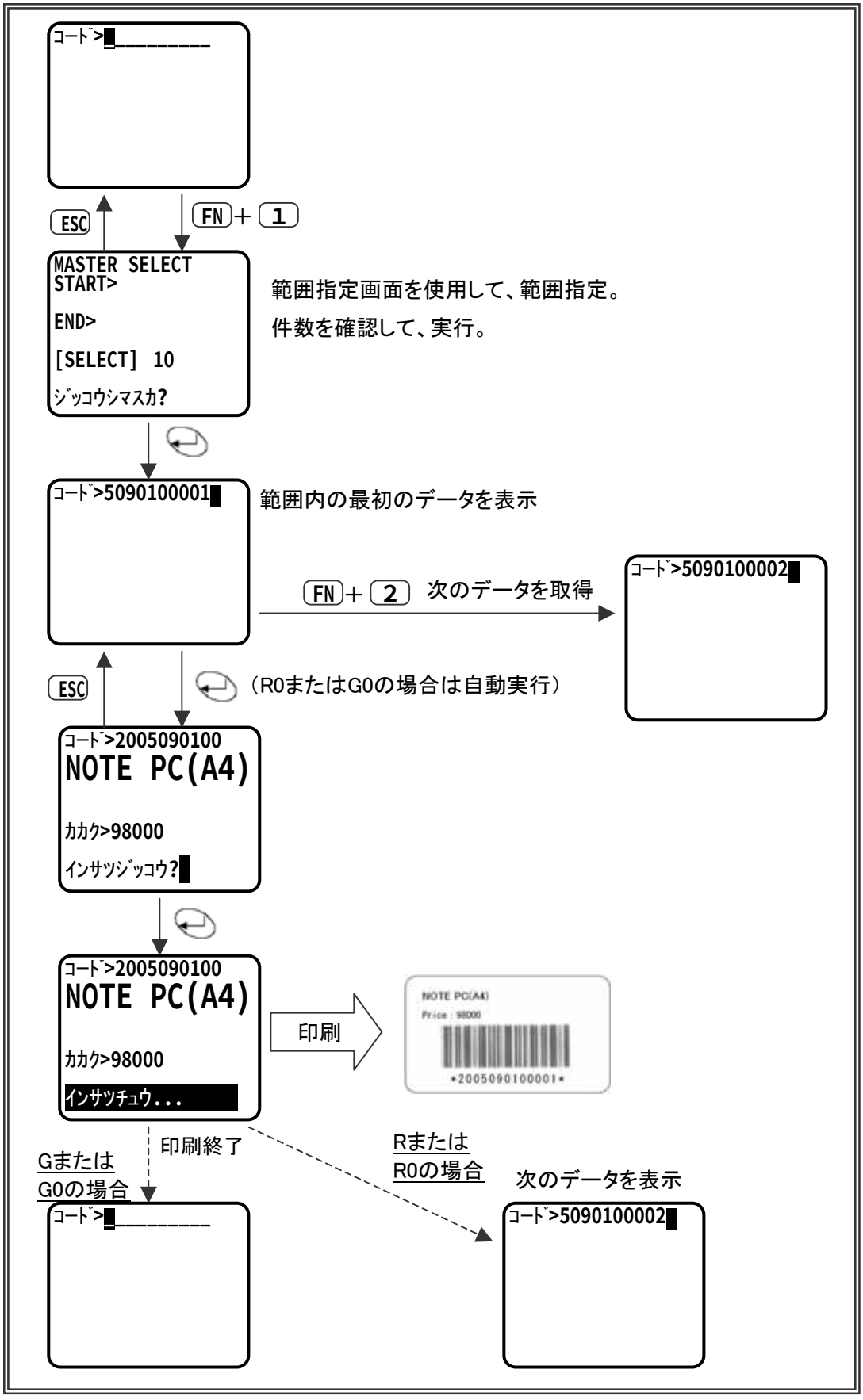
・指定範囲を変更する場合は、再度範囲指定を行ってください。

・範囲指定中に FN ＋ 0 を入力すると、範囲指定の解除となります。

範囲指定を行う時の画面イメージを次ページに示します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

この例は、「ｺｰﾄﾞ」でマスタを検索し、ラベルを印刷します。
「ｺｰﾄﾞ」の入力時に範囲指定を行います。



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【記入例】　例1）キーから数値を入力し、整数型変数maisuに格納する

・入力可能な文字数は1～99バイト、入力領域2バイト、

・入力省略時は1を設定する

```
INPUT S,1,1,maisu,K,,2,1,99,,″1″
```

例2）キーまたはスキャナから商品コードを入力し、マスタ1を検索する（範囲指定可能）。入力されたデータは文字型変数scancodeに格納する。

・入力可能な文字は、英数字で、10～15バイト

入力した商品コードに対応する価格を入力する。入力されたデータは、整数型変数kakakuに格納する。

・価格の初期値はマスタから取得する（マスタ1の第2フィールド＝FIELD1_2）

・入力可能な数値は1～999999

```
INPUT S,1,2,scancode,KS,ANR,10,10,15,,,,M1
INPUT S,1,2,kakaku,K,,1,1,999999,FIELD1_2
```

例3）最初に棚番を入力し、次に商品コードを入力する。

1つの棚番で複数の商品コードを入力する。（tanaban,scacodeは文字型変数）

```
INPUT S,1,1,tanaban, KS,AN,5,5,5,,,C
INPUT S,1,1,scancode,KS,N,10,13,13
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 6　選択入力(LIST)

【機能】　データの選択を待ち、選択されたデータを指定された変数に格納します。

【書式】　LIST フォント,カラム,ライン,入力項目,入力方法,入力領域,初期値,タイミング,マスタ,
　　値1,値2・・・値10

【引数】　フォント (S)

　　S・・・スモールフォント

　　M・・・ミディアムフォント

　　L・・・ラージフォント

　　カラム (1)

　　開始カラム番号(1～使用機種・フォントでの最大カラム)

　　ライン (1)　　(但し、フォントがLの場合は2)

　　開始ライン番号(使用機種・フォントでの最小ライン番号～最大ライン番号)

　　入力項目

　　入力されたデータを格納する変数名

　　入力方法 (K)　*複数指定可能*

　　K・・・キー入力

　　S・・・バーコードスキャン

　　入力領域

　　入力領域のバイト数 (1 ～ 使用機種・フォントで1画面に表示可能な文字数)

　　初期値 (なし)

　　LISTコマンド実行時に最初に表示する値を指定。

　　※値1～10で指定する値のうちのどれかひとつと一致していること。

　　変数の値を設定する場合・・・変数名を記入

　　固定の値を設定する場合・・・設定する内容を「″」で囲んで記入

　　タイミング (E)

　　F・・・1回目のみ入力

　　1回目の入力が終わると、このコマンドは無視されます。

　　定義ファイル実行開始時にだけ入力し、その後の入力が必要ない項目に指定します。　例)オペレータ(担当者)番号の入力

　　C・・・共通入力

　　1回目の入力は必要ですが、2回目以降は不要です。

　　このコマンドを再度実行したい場合は、次の入力項目で、ESCを押します。

　　毎回入力する必要がない項目に指定します。　例)在庫管理の棚番の入力

　　E・・・毎回入力

　　毎回入力が必要です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

マスタ （なし）

入力されたデータをキーにして、または、範囲指定でマスタを検索する場合に指定します。該当するデータがない場合はエラーメッセージが表示されます。

M1～M6・・・検索対象マスタ

値1～10

値を「″」で囲んで記入

選択できる値を列挙してください。最低でも1つ以上の値が必要です。

【説明】　カラム・ラインの位置から、選択可能な値を反転表示します。

最初に表示される値は、初期値または値1の値となります。

↓ ↑ キーを押して、値1～10のいずれかを選択します。

入力を終了するには、下記のいずれかのキーを押してください。

↵・・・選択されたデータを、入力項目に格納し、次の処理に移ります。

ESC ・・・1つ前の入力項目に戻ります。

最初の入力項目の場合、定義ファイルの実行を終了します。

FN ＋ O ・・・定義ファイルの実行を終了します。（強制終了）

※自動実行の場合は、動作が異なります。

マスタが指定されている場合は、↵を押した後に、選択されたデータをキーとして、指定されたマスターが検索されます。一致するレコードがあれば、次のコマンドを実行します。ない場合はエラーメッセージが表示され、再度選択待ちとなります。

【制限】　このコマンドは、1つの定義ファイルにつき、3つまで記入可能です。

【記入例】　例1）端末番号を選択し、文字型変数tanmatuに格納する。

```
LIST S,1,1,tanmatu,K,2,,,,″01″,″02″,″03″,″04″,″05″,″06″,″07″,″08″
```

例2）担当者番号のバーコードをスキャンし、マスタ1を検索する。

最初は″99999″を表示する

データは文字型変数tantoに格納する。

```
LIST S,1,2,tanto,KS,5,″99999″,F,M1,″A0001″,″A0002″,″B0001″,″99999″
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 7　待機(WAIT)

【機能】　指定された秒数の間、またはキー入力まで待ちます。

【書式】　WAIT 待機方法

【引数】　待機方法 (K)　*複数指定可能*

K・・・キー入力まで待機

数値・・・待機秒数を記入(1～60)

指定された秒数が経過するまで待機します。

【説明】　キーが入力されるか指定された秒数が経過するまで待機します。

キー入力を指定した場合は、押されたキーに応じて、処理を行います。

・・・次のコマンドを実行します。

ESC ・・・1つ前の入力項目に戻ります。

【記入例】　キー入力まで、または2秒間経過するまで待機します

```
WAIT K2
```

13. 8　ブザー(BUZZER)

【機能】　指定されたブザーを鳴らします。

【書式】　BUZZER パターン

【引数】　パターン (OK)

OK・・・正常終了ブザー鳴動

ERR・・・エラー終了ブザー鳴動

【説明】　指定されたブザーを鳴らします。

ブザー音は「ｾｯﾃｲ」メニューの「3.ﾌﾞｻﾞｰｾｯﾃｲ」で変更可能です。

正常終了ブザーは「5.ｾｲｼﾞｮｳｼｭｳﾘｮｳ」、エラー終了ブザーは「6.ｴﾗｰｼｭｳﾘｮｳ」です。

【記入例】　正常終了ブザーを鳴らします。

```
BUZZER OK
```


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 9　値の設定(=)

【機能】　指定された変数に値を設定します。

【書式】　変数=データ

【引数】　変数

値を設定する変数名

データ

変数の値を設定する場合・・・変数名を記入

固定の値を設定する場合・・・設定する内容を「″」で囲んで記入

編集結果を設定する場合・・・編集方法を記入

【説明】　指定された変数にデータで指定された変数の値や編集結果などを設定します。

【記入例】　変数maisuに1を設定する

```
maisu=″1″
```

13. 10　マスタ検索(GET)

【機能】　指定されたマスタを検索し、レコードを読込みます。

【書式】　GET マスタ,キー,飛び先

【引数】　マスタ

M1～M6・・・検索対象マスタ

キー

検索キーとして使用する変数名。文字型変数のみ有効です。

飛び先

検索対象マスタにキーと一致するデータがなかった場合に実行する、飛び先ラベル名

【説明】　指定されたキーのデータを使用して、指定されたマスタを検索します。

一致するレコードがあった場合は、FIELD変数に値を設定し、次のコマンドを実行します。

同一キーのデータが複数ある場合は、最初に検索できたデータを読み出します。

一致するレコードがなかった場合は、飛び先で指定されたコマンドの実行に移ります。

【記入例】　入力されたscancodeをキーにしてマスタ1を検索する。

```
:MSTGET
INPUT S,1,1,scancode,KS,ANS,10,1,40
GET M1,scancode,M1ERR
DISP S,1,2,FIELD1_2
GOTO NEXT
:M1ERR
DISP S,1,2,″ﾐﾄｳﾛｸ″
GOTO MSTGET
:NEXT
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 11　マスタ出力（PUT）

【機能】　指定されたマスタに、レコードを出力します。

【書式】　**PUT** マスタ,項目1,項目2,・・・項目10

【引数】　マスタ

M1～M6・・・出力するマスタ

項目1～10

マスタに出力するデータです。項目1～10まで指定可能です。項目1はキーとなります。変更しないフィールドは、対応するFIELD変数を記入してください。

以下のいずれかの形式で指定してください。

変数の値を出力する場合・・・変数名を記入

固定の値を出力する場合・・・「″」で囲んで、出力する文字を記入

例）″00001″　″入庫″

編集結果を出力する場合・・・編集開始文字と終了文字の間に編集方法を記入

編集方法は「16. 編集方法」を参照してください。

【説明】　項目1～10で指定されたデータを1レコードとして、マスタに出力します。

項目1と一致するレコードが登録済みの場合、該当するレコードが上書きされます。

一致するレコードがない場合は、追加されます。

【制限】　このコマンドは、1つの定義ファイルにつき、3つまで記入可能です。

【記入例】　例1）マスタ1に、scancode（キー）、suryo、現在日時を出力する。

```
PUT M1,scancode,suryo,[DATE,YYYY/MM/DD HH:mm]
```

例2）マスタ2の数量を加算して、更新する

マスタ2のフィールドは、商品コード、商品名、数量、の順とする。

商品名は変更しない。

```
INPUT S,1,1,scancode,KS,ANS,10,1,40,,,,M2
INPUT S,1,2,suryo,K,,5,1,100
PUT M2,scancode,FIELD2_2,[FIELD2_3+suryo]
```


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 12 データ出力(WRITE)

【機能】　指定されたデータファイルに、レコードを出力します。

【書式】　**WRITE** ファイル,項目1,項目2,・・・項目10

【引数】　ファイル

D1～D3・・・出力するデータファイル

項目1～10

データファイル出力するデータです。項目1～10まで指定可能です。

以下のいずれかの形式で指定してください。

変数の値を出力する場合・・・変数名を記入

固定の値を出力する場合・・・「″」で囲んで、出力する文字を記入

例)″00001″ ″入庫″

編集結果を出力する場合・・・編集開始文字と終了文字の間に編集方法を記入

編集方法は「16. 編集方法」を参照してください。

【説明】　項目1～10で指定されたデータを1レコードとして、ファイルに出力します。

データはファイルの最後に追加されます。

【制限】　このコマンドは、1つの定義ファイルにつき、3つまで記入可能です。

【記入例】　データファイル1に、scancode(キー)、suryo、現在日時を出力する。

```
WRITE D1,scancode,suryo,[DATE,YYYY/MM/DD HH:mm]
```

データファイル2に、商品コードと数量(マスタ2の数量を加算)を出力する

マスタ2のフィールドは、商品コード、商品名、数量、の順とする。

```
INPUT S,1,1,scancode,KS,ANS,10,1,40,,,,M2
INPUT S,1,2,suryo,K,,5,1,100
WRITE D2,scancode,[FIELD2_3+suryo]
```

13. 13 レコードの削除(REMOVE)

【機能】　指定されたマスタのレコードを削除します。

【書式】　**REMOVE** ファイル,キー

【引数】　ファイル

M1～M6・・・マスタファイル

キー

削除するデータの検索キーとして使用する変数名を記入。文字型変数のみ有効。

【説明】　指定されたキーのデータを使用して、指定されたマスタを検索します。

一致するレコードがあった場合は、削除します。

【記入例】　入力されたscancodeをキーにしてマスタ1のデータを削除する。

```
INPUT S,1,1,scancode,KS,ANS,10,1,40
REMOVE M1,scancode
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 14 レコード件数の取得（COUNT）

【機能】　指定されたファイルのレコード件数を取得します。

【書式】　**COUNT** ファイル,変数

【引数】　ファイル

M1～M6・・・マスタファイル

D1～D3・・・データファイル

変数

取得した件数を格納する変数名。整数型変数のみ有効。

【説明】　指定されたファイルに登録されているレコード件数を取得します。取得した件数は、指定した変数に格納されます。

データファイルを指定した場合、件数の取得に数秒かかる場合があります。

【記入例】　データファイル1の件数を取得する。

```
COUNT D1,kensu
```

13. 15 ファイルの削除（DELETE）

【機能】　指定されたファイルを削除します。

【書式】　**DELETE** ファイル

【引数】　ファイル

M1～M6・・・マスタファイル

D1～D3・・・データファイル

【説明】　指定されたファイルを削除します。

【記入例】　データファイル1を削除する。

```
DELETE D1
```


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 16 ファイルのアップロード(UPLOAD)

【機能】　指定されたファイルをアップロードします。

【書式】　UPLOAD ファイル

【引数】　ファイル

M1～M6・・・マスタファイル

D1～D3・・・データファイル

【説明】　ファイル送信画面を表示し、指定されたファイルのデータをPCに送信します。

アップロードの手順は「8. 1　データのアップロード」を参照してください。

【記入例】　データファイル1をPCにアップロードする。

```
UPLOAD D1
```

13. 17 マスタのダウンロード(DOWNLOAD)

【機能】　マスタデータをダウンロードし、指定されたマスタに書き込みます。

【書式】　DOWNLOAD マスタ

【引数】　マスタ

M1～M6・・・書き込み先のマスタファイル

【説明】　ファイル受信画面を表示し、PCから受信したデータを、指定されたマスタに書き込みます。データを書き込む前に、既存のデータを破棄します。追加書き込みはできません。

ダウンロードの手順は「5. 2　マスタデータのダウンロード」を参照してください。

【記入例】　受信データをマスタファイル1に書き込む。

```
DOWNLOAD M1
```

13. 18 飛び先名の宣言(:)

【機能】　飛び先名を宣言します。

【書式】　:飛び先名

【引数】　飛び先名

宣言する飛び先名を記入

【説明】　飛び先名を宣言します。

飛び先名は、GOTO、IF、GETなどで使用され、この宣言の次の行に記入されたコマンドから実行されます。

【制限】　飛び先名は、1つの定義ファイルにつき、20個まで記入可能です。

【記入例】　NEXT以降のコマンドを実行する

```
GOTO NEXT
DISP S,1,1,"ｺｰﾄﾞ>"
:NEXT
INPUT S,1,2,code,KS,ANS,10,1,40
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 19 条件分岐(IF)

【機能】　指定された条件を判定し、分岐します。

【書式】　IF データ1 条件 データ2 GOTO 飛び先名

【引数】　データ1

変数の値を設定する場合・・・変数名を記入

固定の値を設定する場合・・・設定する内容を「″」で囲んで記入

条件

= ・・・ データ1とデータ2が同じ

> ・・・ データ1がデータ2よりも大きい

< ・・・ データ1がデータ2よりも小さい

データ2

変数の値を設定する場合・・・変数名を記入

固定の値を設定する場合・・・設定する内容を「″」で囲んで記入

飛び先名

条件判断に合致した場合に実行するコマンドの飛び先名を記入

【説明】　データ1とデータ2の値を比較し、指定した条件にあっていれば、飛び先名の次行のコマンドから実行します。条件に合わない場合は、IFの次のコマンドを実行します。

【記入例】　maisuが0の場合は、1を設定する。

```
IF maisu=″0″ GOTO MAISU0
GOTO NEXT
:MAISU0
maisu=″1″
:NEXT
```

13. 20 無条件分岐(GOTO)

【機能】　指定された飛び先名の次行のコマンドから実行します。

【書式】　GOTO 飛び先名

【引数】　飛び先名

次に実行する飛び先名を記入

【説明】　指定された飛び先名の次行のコマンドから実行します。

【記入例】　NEXT以降のコマンドを実行する

```
GOTO NEXT
DISP S,1,1,″ｺｰﾄﾞ>″
:NEXT
INPUT S,1,2,code,KS,ANS,10,1,40
```


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 21 プリンタ設定の実行(PRINTSET)

【機能】　プリンタ設定を行います。

【書式】　PRINTSET 設定名

【引数】　設定名 (INIT)

実行するプリンタ設定名($PRSET-SECTIONで定義)を記入

【説明】　プリンタが未接続の場合は、プリンタとの接続が行われます。

その後、$PRSET-SECTIONで定義した設定名に対応するプリンタコマンドを、プリンタに送信します。設定名を記入しなかった場合、以下のいずれかの処理が行われます。

設定名が何も定義されていない場合・・・$PRSET-SECTIONの全てのプリンタコマンドを送信

設定名INITが定義されている場合・・・設定名INITのプリンタコマンドを送信

INIT以外の設定名が定義されている場合・・・送信は行われません。

【記入例】　例1)$PRSET-SECTIONの全てのプリンタコマンドを実行する

```
PRINTSET
$PRSET-SECTION
DIRECTION 0
SIZE 59 mm,30 mm
GAP 4 mm,0.00
```

例2)設定名SET1のプリンタコマンドを実行する

```
PRINTSET  SET1
$PRSET-SECTION
$START SET1
DIRECTION 0
SIZE 59 mm,30 mm
GAP 4 mm,0.00
$END SET1
```

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

13. 22 印刷の実行(PRINTOUT)

【機能】　印刷を実行します。

【書式】　PRINTOUT ラベル名

【引数】　ラベル名 (なし)

印刷するラベル名($LABEL-SECTIONで定義)を記入

【説明】　プリンタが未接続の場合は、プリンタとの接続が行われます。

その後、$LABEL-SECTIONで定義したラベル名に対応するプリンタコマンドを、プリンタに送信します。ラベル名を記入しなかった場合、$LABEL-SECTIONの全てのプリンタコマンドを送信します。

システム定義変数PRTCNTを2以上に設定した場合、[FN] + [0] を押すと、印刷を途中で終了できます。

【記入例】　例1)$LABEL-SECTIONの全てのプリンタコマンドを実行する

```
PRINTOUT
$LABEL-SECTION
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
```

例2)ラベル名FORM1のプリンタコマンドを実行する

```
PRINTOUT  FORM1
$LABEL-SECTION
$START FORM1
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
$END FORM1
```


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

14. プリンタ設定定義セクション（PRSET-SECTION）

この章では、プリンタ設定定義セクションについて説明します。

プリンタ設定定義セクションは、印刷とは別に行う、プリンタの設定を定義するためのセクションです。ラベルサイズ・印字速度など、印刷の度に送信する必要がないプリンタコマンドがある場合は、このセクションで定義します。設定と印刷を別に行うことで、1回の印刷にかかる時間が短くなります。
設定と印刷を分ける必要がない場合や印刷を行わない場合は、このセクションは不要です。

プリンタ設定定義セクションでは、プリンタを設定するためのTSPL（またはTSPL2）コマンドと、「Dr.Suketto」のコマンドを組み合わせて定義します。

TSPL（またはTSPL2）コマンドは、TSCのバーコードラベルプリンタを制御する共通コマンドです。コマンドの詳細はプリンタ付属の取扱説明書をご参照ください。

このセクションで使用可能な「Dr.Suketto」のコマンドは以下の通りです。

名　称	設 定 名	説　明
設定の開始宣言	$START	設定名をつけて、設定の定義開始を宣言します。
設定の終了宣言	$END	定義終了を宣言します。
ステータス受信	$RECEIVE	プリンタステータスを受信します。

$START,$ENDは、複数の設定を登録する場合に宣言します。印刷するラベルごとに設定を使い分けたい場合などです。各々の設定を区別するために設定名をつけます。
$RECEIVEは、プリンタステータスを受信しなければならないプリンタコマンドを使用する場合に、そのコマンドの次の行に記入します。要／不要はコマンドにより異なりますので、プリンタ付属の取扱説明書をご参照ください。

プリンタコマンドの途中に、変数やコードを出力することができます。それを「置き換え」と呼びます。
置き換えの指定方法については「10. 8　置き換え」をご参照ください。

プリンタコマンドを記入する際には下記の制限があります。

・1度に送信できるバイト数は250バイトまでです。超える場合は、制御コードを自動付加しないように設定（AUTOCNTL=0）し、複数の行に分けてください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

14. 1　セクション開始宣言（$PRSET-SECTION）

【機能】　プリンタ設定定義セクションの開始を宣言します。

【書式】　$PRSET-SECTION

【説明】　プリンタ設定定義セクションの開始を宣言します。

【省略時】　プリンタの設定を行う場合には、省略できません。

【記入例】　$PRSET-SECTION

14. 2　設定の開始宣言（$START）

【機能】　設定の開始を宣言します。

【書式】　**$START** 設定名

【引数】　設定名

定義を開始する設定の名称（8バイトまで）を記入

宣言した設定名はPRINTSETコマンドで使用します。

【説明】　複数の設定を定義する場合に、各々の設定に名前（設定名）をつけます。設定名を指定してPRINTSETコマンドを実行すると$START～$ENDの間に記入したコマンドがプリンタに送信されます。

設定名は8文字までで自由につけることができますが、「INIT」という設定名には特別な意味があります。これは、環境設定セクションで、プリンタ接続・初期化（AUTOCNCT）を1（作業開始時、自動接続）に設定した場合に、定義ファイルの実行開始時に自動的に実行される設定名です。また、PRINTSETコマンドで設定名を指定しなかった場合にも実行されます。$PRSET-SECTIONで$STARTを1つも宣言しない場合は、$PRSET-SECTION全体が「INIT」という名前の設定として扱われます。

$PRSET-SECTIONでの$START～$ENDの使い方としては以下の2つがあります。

1．1つの設定だけを使用する。

$START～$ENDを宣言する必要はありません。

設定は定義ファイルの実行開始時、または、「PRINTSET」「PRINTSET INIT」コマンド実行時に行われます。

2．複数の設定を使用する。

$START～$ENDの間に、各設定に必要なプリンタコマンドを記入してください。

このとき、設定名「INIT」を定義しておけば、その設定は定義ファイルの実行開始時に行われます。定義ファイルの実行開始時に行う設定がない場合は、設定名に「INIT」以外の名前をつけてください。

【制限】　設定名とラベル名は、1つの定義ファイルにつき、合計して20個まで記入可能です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【記入例】　例1）$PRSET-SECTIONの全てのプリンタコマンドを実行する

```
PRINTSET
$PRSET-SECTION
DIRECTION 0
SIZE 59 mm,30 mm
GAP 4 mm,0.00
```

例2）設定名SET1のプリンタコマンドを実行する

```
PRINTSET  SET1
$PRSET-SECTION
$START SET1
DIRECTION 0
SIZE 59 mm,30 mm
GAP 4 mm,0.00
$END SET1
```

14. 3　設定の終了宣言（$END）

【機能】　設定の終了を宣言します。

【書式】　**$END** 設定名

【引数】　設定名

定義を終了する設定の名称を記入（$STARTで宣言済みのもの）

【説明】　$STARTで開始した設定の終了を宣言します。

【記入例】　※$START参照

14. 4　ステータス受信（$RECEIVE）

【説明】　プリンタステータスを受信します。

※ステータスポーリングコマンド（<ESC>!?）に対する返送ステータスのみに対応

【書式】　**$RECEIVE**

【説明】　プリンタステータスを受信します。

ステータス受信が必要なプリンタコマンドを記入した場合、次の行に記入してください。

記入しなかった場合は、次のプリンタコマンドを送信した際に、プリンタでエラーが発生する場合があります

受信したステータスが正常の場合は、次の処理（プリンタコマンドの送信など）を実行します。また、タイムアウトやプリンタエラーの場合は、エラーメッセージを表示します。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

15. ラベル定義セクション（LABEL-SECTION）

この章では、ラベル定義セクションについて説明します。

ラベル定義セクションは、印刷するラベル（帳票）のレイアウトを定義するためのセクションです。印刷を行わない場合は、このセクションは不要です。

ラベル定義セクションでは、ラベルを印刷するためのTSPL（またはTSPL2)コマンドと、「Dr.Suketto」のコマンドを組み合わせて定義します。

TSPL（またはTSPL2)コマンドは、TSCのバーコードラベルプリンタを制御する共通コマンドです。コマンドの詳細はプリンタ付属の取扱説明書をご参照ください。

このセクションで使用可能な「Dr.Suketto」のコマンドは以下の通りです。

名　称	設 定 名	説　明
ラベルの開始宣言	$START	ラベル名をつけて、ラベルの定義開始を宣言します。
ラベルの終了宣言	$END	定義終了を宣言します。
ステータス受信	$RECEIVE	プリンタステータスを受信します。

$START,$ENDは、複数のレイアウトを登録する場合に宣言します。印刷するレイアウトが複数ある場合などです。各々のレイアウトを区別するためにラベル名をつけます。
$RECEIVEは、プリンタステータスを受信しなければならないプリンタコマンドを使用する場合に、そのコマンドの次の行に記入します。要／不要はコマンドにより異なりますので、プリンタ付属の取扱説明書をご参照ください。

プリンタコマンドの途中に、変数やコードを出力することができます。それを「置き換え」と呼びます。
置き換えの指定方法については「10. 8　置き換え」をご参照ください。

プリンタコマンドを記入する際には下記の制限があります。

・1度に送信できるバイト数は250バイトまでです。超える場合は、制御コードを自動付加しないように設定（AUTOCNTL=0)し、複数の行に分けてください。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

15. 1　セクション開始宣言（$LABEL-SECTION）

【機能】　プリンタ設定定義セクションの開始を宣言します。

【書式】　$LABEL-SECTION

【説明】　プリンタ設定定義セクションの開始を宣言します。
定義ファイルの5番目のセクションです。

【省略時】　印刷を行う場合には、省略できません。

【記入例】　$LABEL-SECTION

15. 2　ラベルの開始宣言（$START）

【機能】　ラベルの開始を宣言します。

【書式】　**$START** ラベル名

【引数】　ラベル名

定義を開始するレイアウトの名称（8バイトまで）を記入

宣言したラベル名はPRINTOUTコマンドで使用します。

【説明】　複数のレイアウトを定義する場合に、各々のレイアウトに名前（ラベル名）をつけます。
ラベル名を指定してPRINTOUTコマンドを実行すると$START～$ENDの間に記入したコマンドがプリンタに送信されます。
$LABEL-SECTIONでの$START～$ENDの使い方としては以下の2つがあります。

1．1つのラベルだけを使用する。

$START～$ENDを宣言する必要はありません。

引数を指定せずにPRINTOUコマンドを記入することで、印刷が行われます。

2．複数の設定を使用する。

$START～$ENDの間に、各ラベルに必要なプリンタコマンドを記入してください。

【制限】　設定名とラベル名は、1つの定義ファイルにつき、合計して20個まで記入可能です。

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【記入例】　例1）$LABEL-SECTIONの全てのプリンタコマンドを実行する

```
PRINTOUT
$LABEL-SECTION
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
```

例2）ラベル名FORM1のプリンタコマンドを実行する

```
PRINTOUT  FORM1
$LABEL-SECTION
$START FORM1
CLS
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2]"
TEXT 20,60,"2",0,1,1,"Price:[FIELD1_3]"
BARCODE 40,100,"39",96,0,0,2,4,"[scancode]"
TEXT 100,200,"2",0,1,1,"*[scancode]*"
PRINT 1,1
$END FORM1
```

15. 3　ラベルの終了宣言（$END）

【機能】　ラベルの終了を宣言します。

【書式】　**$END** ラベル名

【引数】　ラベル名

終了するラベルの名称を記入（$STARTで宣言済みのもの）

【説明】　$STARTで開始したラベルの終了を宣言します。

【記入例】　※$START参照

15. 4　ステータス受信（$RECEIVE）

【機能】　プリンタステータスを受信します。

※ステータスポーリングコマンド（<ESC>!?）に対する返送ステータスのみに対応

【書式】　**$RECEIVE**

【説明】　プリンタステータスを受信します。

ステータス受信が必要なプリンタコマンドを記入した場合、次の行に記入してください。

記入しなかった場合は、次のプリンタコマンドを送信した際に、プリンタでエラーが発生する場合があります

受信したステータスが正常の場合は、次の処理（プリンタコマンドの送信など）を実行します。また、タイムアウトやプリンタエラーの場合は、エラーメッセージを表示します。

【記入例】　$RECEIVE

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

16. 編集方法

「Dr.Suketto」には、データを操作するための編集方法が用意されています。
編集方法を指定できるのは、以下の場合です。

ENV-SECTION ・・・ PRINTLOGの項目1～項目10
INPUT-SECTION ・・・ 値の設定(=)のデータ
PUTの項目1～項目10
WRITEの項目1～項目10
PRSET-SECTION ・・・ 置き換え
LABEL-SECTION ・・・ 置き換え

編集方法は、値の設定(=)のデータを除き、置き換え・編集開始文字と置き換え・編集終了文字で囲んで記入します。開始文字と終了文字は、動作環境設定で変更することができます。デフォルトは、開始文字が [、終了文字が] です。

編集方法は以下の通りです。変数の型によって使用できないものがあります。

○・・・使用可能　×・・・不可　△・・・数字の場合は可能

	文字型	整数型	実数型	固定文字	DATE
書式指定	○	○	○	○	×
抽出	○	×	×	○	×
結合	○	×	×	○	×
計算	△	○	○	△	×
日時の編集	×	×	×	×	○

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

16. 1　書式指定

【機能】　書式と処理に従って、データを編集します。

【書式】　データ,書式,処理

【引数】　データ

変数の値を編集する場合・・・変数名を記入（DATE以外）

固定の値を編集する場合・・・編集する内容を「″」で囲んで記入

書式（なし）　*複数指定可能*

［位置］　以下のいずれかを指定

L・・・左寄せ

R・・・右寄せ

Z・・・前に0を詰めて右寄せ

［大文字・小文字の変換］　以下のいずれかを指定

B・・・半角英小文字を大文字に変換

S・・・半角英大文字を小文字に変換

［カンマ編集］　整数型または実数型変数の場合のみ有効

C・・・カンマ編集

［桁数の指定］　以下のいずれかを指定

数値・・・編集後の桁数

数値.数値・・・「.」の左の数値は、編集後の桁数

「.」の右の数値は、小数点以下の桁数

※実数型変数の場合のみ有効

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

処理（なし）

［丸め処理］ 以下のいずれかを指定、整数型または実数型変数の場合のみ有効

D・・・切り捨て

U・・・切り上げ

R・・・四捨五入

［位置］ 丸め処理を行う場合に指定

数値・・・丸め処理を行う位置を指定

+の数（1～5）・・・小数点以下の位置（1は小数点以下第1位を処理）

例）R2指定の場合、0.53->0.5 0.56->0.6

-の数（-1～-9）・・・整数部の位置（-2は10の位を処理）

例） R-2の場合、1234->1200 19880->19900

［バイト数取得］ 文字型変数の場合のみ有効

C・・・変数に格納されているデータのバイト数の取得

※プリンタコマンドでバイト数が必要な場合などに使用（例4参照）

【説明】 指定された変数の値を、書式と処理に従って、編集します。

【記入例】 例1）整数型変数inputの値を、10の位で切り捨て、10桁の0詰めで編集して、文字型変数codeに設定する

```
code=input,Z10,D-2
```

（編集結果） inputの値が198の場合、「0000000100」

inputの値が12345の場合、「0000012300」

例2）整数型変数inputの値をカンマ編集して出力する

```
WRITE M1,"01",[input,C],DATE
```

（編集結果） inputの値が198の場合、「198」

inputの値が12345の場合、「12,345」

例3）整数型変数inputの値を10桁の右寄せで印刷する

```
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[input,R10]"
```

（編集結果） inputの値が198の場合、「 198」

inputの値が12345の場合、「 12345」

例4）文字型変数bcrの文字数を、前に0を補った4桁の数字で出力する。

```
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[bcr,Z4,C]"
```

（編集結果） bcrの値が198の場合

[bcr,Z4,C] ・・・ 「0003」

bcrの値が12345の場合

[bcr,Z4,C] ・・・ 「0005」

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

16.2　抽出(: -)

【機能】　文字型変数から値を抽出します。

【書式】　変数:開始位置-終了位置,書式

【引数】　変数

　　変数名を記入。文字型変数のみ有効。

開始位置 (1)

　　数値・・・抽出開始位置(1～)

終了位置　(最後)

　　数値・・・抽出終了位置(開始位置～)

書式 (なし)　　*複数指定可能*

　［位置］　以下のいずれかを指定

　　L・・・左寄せ

　　R・・・右寄せ

　　Z・・・前に0を詰めて右寄せ

　［大文字・小文字の変換］　以下のいずれかを指定

　　B・・・半角英小文字を大文字に変換

　　S・・・半角英大文字を小文字に変換

　［桁数の指定］

　　数値・・・編集後の桁数

【説明】　指定された変数に格納されている文字から、指定された開始位置から終了位置までの文字を取り出し、書式に従って編集します。全角が含まれている場合、開始位置が全角の2バイト目の場合は次の文字から、終了位置が全角1バイト目の場合は前の文字までを抽出します。

【記入例】　例1）文字型変数scancodeの先頭から10桁を文字型変数codeに設定する

```
code=scancode:-10
```

（編集結果）　scancodeが「123456789012345」の場合、「1234567890」

例2）文字型変数scancodeの2から5桁を出力する

```
WRITE M1,"01",[scancode:2-5],DATE
```

（編集結果）　scancodeが「123456789012345」の場合、「2345」

例3）文字型変数scancodeの8桁目から最後までを印刷する

```
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[scancode:8-]"
```

（編集結果）　scancodeが「123456789012345」の場合、「89012345」

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

16. 3　結合(&)

【機能】　2つのデータを結合します。

【書式】　データ1&データ2,書式

【引数】　データ1

変数の値を指定する場合・・・変数名を記入。文字型変数のみ有効。

固定の値を指定する場合・・・表示する内容を「″」で囲んで記入

データ2

変数の値を指定する場合・・・変数名を記入。文字型変数のみ有効。

固定の値を指定する場合・・・表示する内容を「″」で囲んで記入

書式（なし）　*複数指定可能*

［位置］　以下のいずれかを指定

L・・・左寄せ

R・・・右寄せ

Z・・・前に0を詰めて右寄せ

［大文字・小文字の変換］　以下のいずれかを指定

B・・・半角英小文字を大文字に変換

S・・・半角英大文字を小文字に変換

［桁数の指定］

数値・・・編集後の桁数

【説明】　データ1とデータ2の文字を結合し、書式に従って、編集します。

【記入例】　例1）文字型変数scancodeに「ZZ」を付加して、文字型変数codeに設定する

```
code=scancode&″ZZ″
```

（編集結果）　scancodeが「1234567890」の場合、「1234567890ZZ」

例2）文字型変数scancodeの前に「CODE」を不可して出力する

```
WRITE M1,″01″,[″CODE″&scancode],DATE
```

（編集結果）　scancodeが「1234567890」の場合、「CODE1234567890」

例3）文字型変数scancodeとnameを結合して印刷する

```
TEXT 20,20,″3″,0,1,1,″[scancode&name]″
```

（編集結果）　scancodeが「12345」、nameが「AAAA」の場合、「12345AAAA」

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

16. 4　計算

【機能】　計算を行います。

【書式】　データ1 計算方法 データ2,書式,処理

【引数】　データ1

変数の値を指定する場合・・・変数名を記入。(DATE以外)

固定の値を指定する場合・・・表示する内容を「″」で囲んで記入

計算方法

+ ・・・加算(足し算)

− ・・・減算(引き算)

＊・・・乗算(掛け算)

／・・・除算(割り算)

データ2

変数の値を指定する場合・・・変数名を記入。(DATE以外)

固定の値を指定する場合・・・表示する内容を「″」で囲んで記入

書式 (なし)　*複数指定可能*

［位置］　以下のいずれかを指定

L・・・左寄せ

R・・・右寄せ

Z・・・前に0を詰めて右寄せ

［カンマ編集］

C・・・カンマ編集

［桁数の指定］　以下のいずれかを指定

数値・・・編集後の桁数

数値.数値・・・「.」の左の数値は、編集後の桁数

「.」の右の数値は、小数点以下の桁数

※実数型変数の場合のみ有効

処理 (なし)

［丸め処理］ 以下のいずれかを指定

D・・・切り捨て

U・・・切り上げ

R・・・四捨五入

［位置］　丸め処理を行う場合に指定

数値・・・丸め処理を行う位置を指定

+の数(1～5)・・・小数点以下の位置(1は小数点以下第1位を処理)

例)R2指定の場合、0.53->0.5　0.56->0.6

−の数(−1～−9)・・・整数部の位置(−2は10の位を処理)

例)　R−2の場合、1234->1200　19880->19900

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

【説明】　データ1とデータ2の値を、計算方法を使って計算し、書式と処理に従って編集します。
データ1、データ2に文字型変数または固定値の場合、数値以外の値を使用することはできません。

【記入例】　例1）マスタ1のフィールド2の値に0.93をかけ、小数点以下第2位で四捨五入して、整数型変数kakakuに設定する。

```
kakaku=FIELD1_2*0.93,,R2
```

（編集結果） FIELD1_2が「123456」の場合、「114814.1」

例2）整数型変数suryo1とsuryou2を加算し、10桁の0詰めで出力する。

```
WRITE M1,"01",[suryo1+suryo2,Z10],DATE
```

（編集結果） suryo1が128、suryo2が12345の場合、「0000012473」

例3）マスタ1のフィールド2に1.05をかけ、小数点以下第1位で四捨五入して、10桁に編集し、印刷する

```
TEXT 20,20,"3",0,1,1,"[FIELD1_2*1.05,10,R1]"
```

（編集結果） scancodeが「150」の場合、「　　158」

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

16. 5　日時編集(DATE)

【機能】　計算を行います。

【書式】　DATE,書式,計算式

【引数】　書式 (YYYY/MM/DD)

［自由書式］

出力パターンと一致しない文字はそのまま出力されますので、出力パターンと出力する文字を記入してください。書式の途中に「,」を記入したい場合は書式を「″」で囲んでください。

使用できる出力パターンは以下の通りです。文字種(半角／全角)および数字が1桁の場合の処理方法によってパターンが異なりますのでご注意ください。「ゼロ」は前に0を補って、「空白」は前に空白を補って2文字にします。 例えば3の場合、「ゼロ」は「03」、「空白」は「 3」、「1文字」は「3」となります。

文字種	半角			全角		
1桁の処理	ゼロ	空白	1文字	ゼロ	空白	1文字
年(4桁)	YYYY			YYYYK		
年(2桁)	YY	YB	Y1	YYK	YBK	Y1K
年(和暦)	WYY	WYB	WY1	WYYK	WYBK	WY1K
月	MM	MB	M1	MMK	MBK	M1K
日	DD	DB	D1	DDK	DBK	D1K
時(24時間)	HH	HB	H1	HHK	HBK	H1K
時(12時間)	hh	hB	h1	hhK	hBK	h1K
分	mm	mB	m1	mmK	mBK	m1K
秒	ss	sB	s1	ssK	sBK	s1K
元号	GEN			GENK		
月名	MON					
曜日	DAY			DAYK		
AM/PM	AMPM			AMPMK		

［標準書式］　以下のいずれかを指定

0 ・・・YYYY/MM/DD　例) 2005/09/01

1 ・・・GENWYY/MM/DD　例) H17/09/01

2 ・・・GENKWYY年MB月DB日　例) 平成17年 9月 1日

3 ・・・HH:mm　例) 13:30

4 ・・・AMPM h1:mm　例) PM 1:30

5 ・・・HH時mm分　例) 13時30分

6 ・・・AMPMKh1時mm分　例) 午後1時30分

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

計算式

現在の日時をもとにして、計算を行います。加算する場合は「+」、減算する場合は「−」を指定します。複数指定の場合は「&」でつないでください。

年を計算する場合・・・Y+数値　または　Y-数値　（-15～+99）
月を計算する場合・・・M+数値　または　M-数値　（-11～+11）
日を計算する場合・・・D+数値　または　D-数値　（-999～+999）
時を計算する場合・・・h+数値　または　h-数値　（-23～+23）
分を計算する場合・・・m+数値　または　m-数値　（-59～+59）
秒を計算する場合・・・s+数値　または　s-数値　（-59～+59）

例） 60日後　D+60

1ヵ月後の1日前　M+1&D−1

【説明】　現在日時（ハンディターミナルに設定されている日時）をもとに、計算式で指定された加算・減算を行い、書式に従って編集します。

【記入例】　例1）現在日時を指定の書式で編集し、文字型変数nitijiに設定する。

```
nitiji=DATE,″YYYY/MM/DD,HH:mm″
```

（編集結果）「2005/09/01,09:45」など

例2）現在時刻を標準書式3（HH:mm）で編集し、出力する。

```
WRITE M1,″01″,scancode,[DATE,3]
```

（編集結果）「09:45」など

例3）現在の6時間後の日時を、指定の書式で編集し、印刷する

```
TEXT 20,20,″3″,0,1,1,″[DATE,M1/D1  HH,h+6]″
```

（編集結果）「9/1 15」など

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

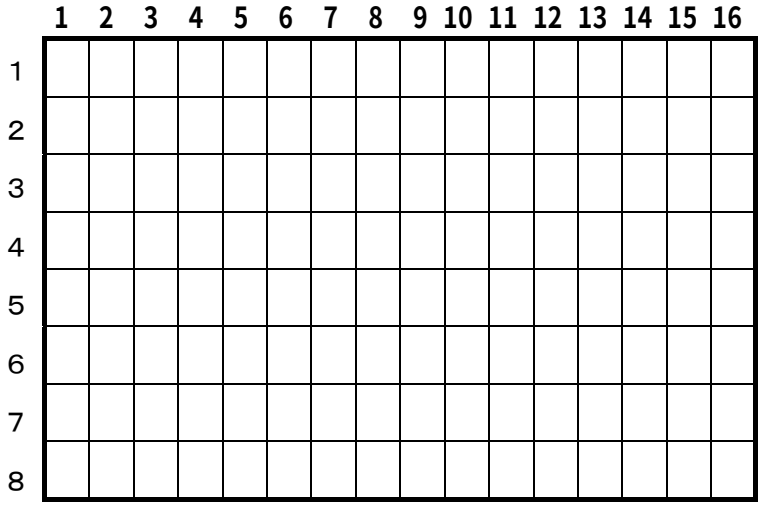
Blank page

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

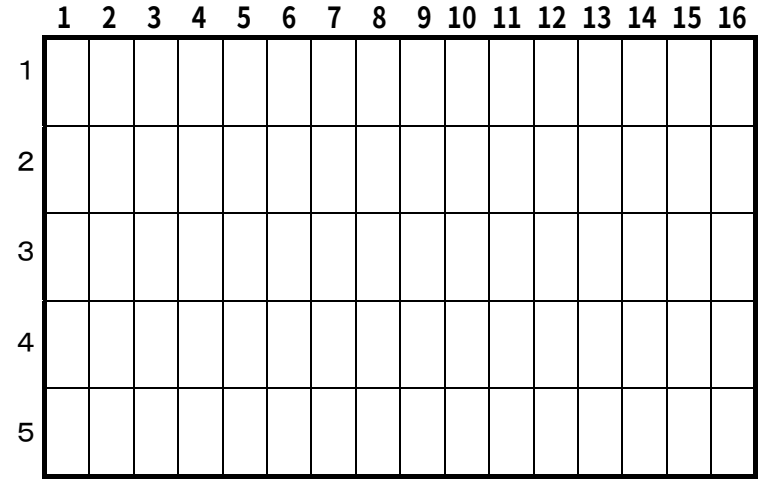
17. 画面レイアウトシート

17. 1　Model80XXシリーズ

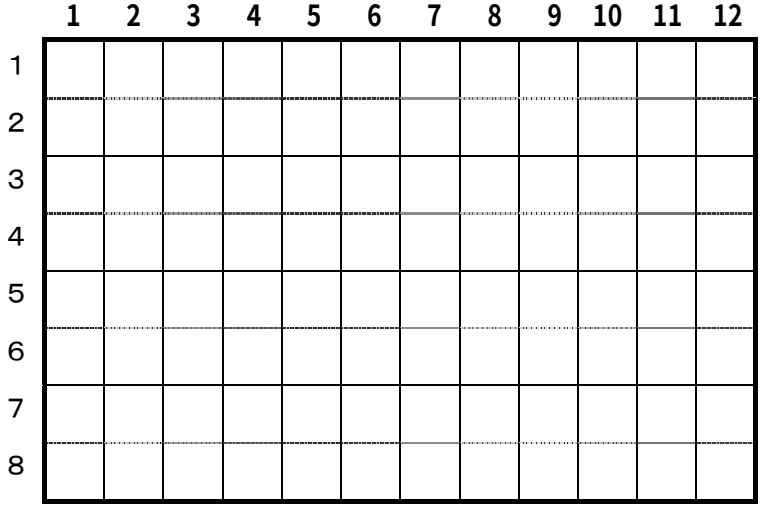
スモールフォント　　（半角）6×8ドット



ミディアムフォント　　（半角）6×12ドット （全角）12×12ドット



ラージフォント　　（半角）8×16ドット （全角）16×16ドット

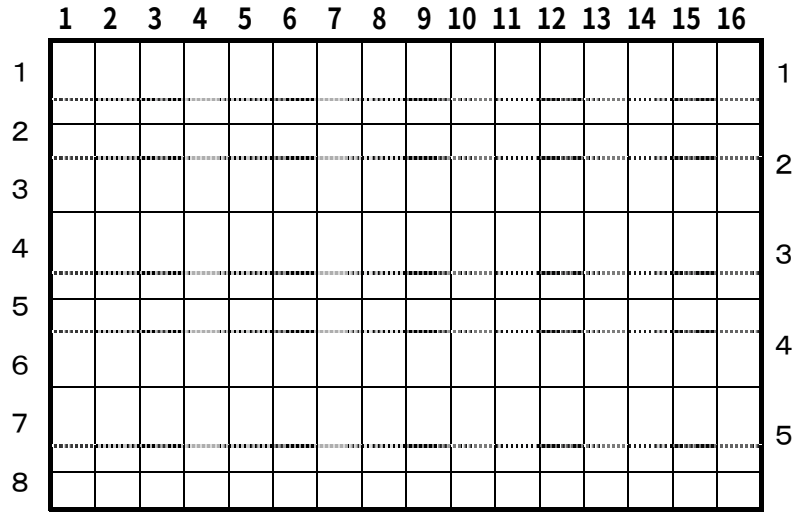


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

ミディアムフォント／スモールフォント混在

・ミディアムフォントは実線、スモールフォントは点線を使用してください。

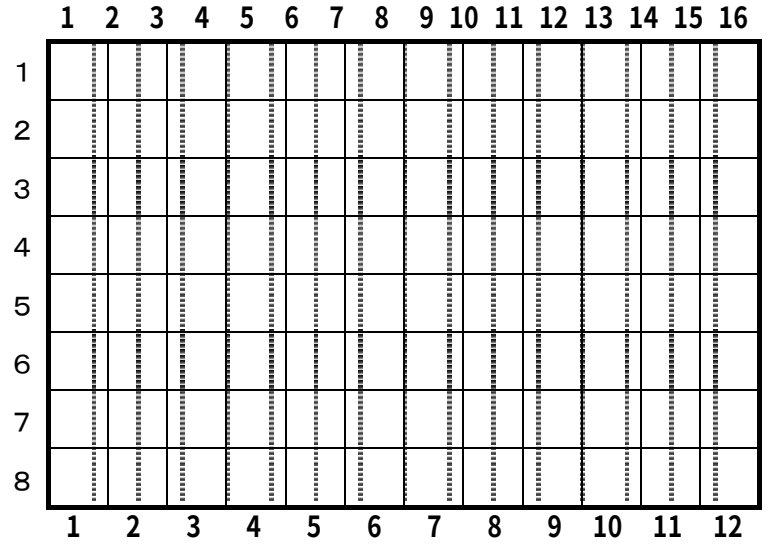
・画面レイアウトの左側がスモールフォント、右側がミディアムフォントのライン（行）です。



ラージフォント／スモールフォント混在

・ラージフォントは実線、スモールフォントは点線を使用してください。

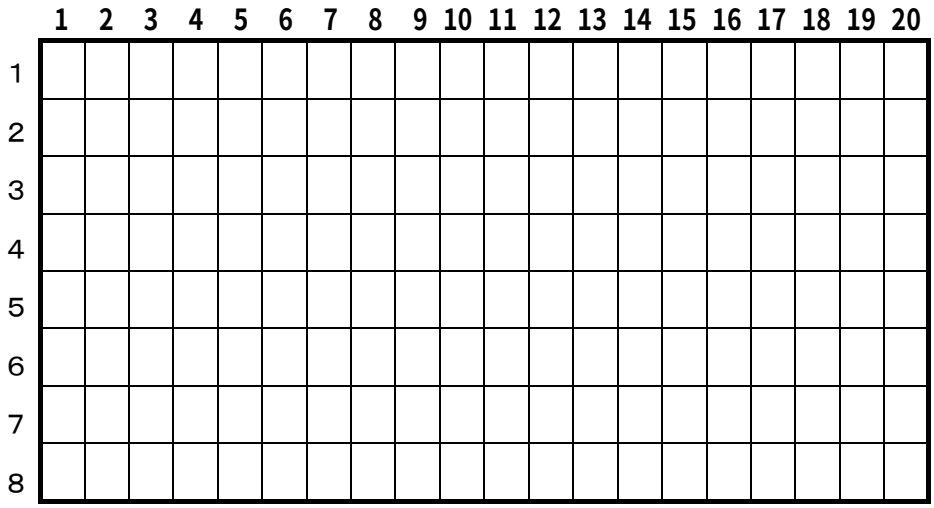
・画面レイアウトの上側がスモールフォント、右側がラージフォントのカラム（桁）です。



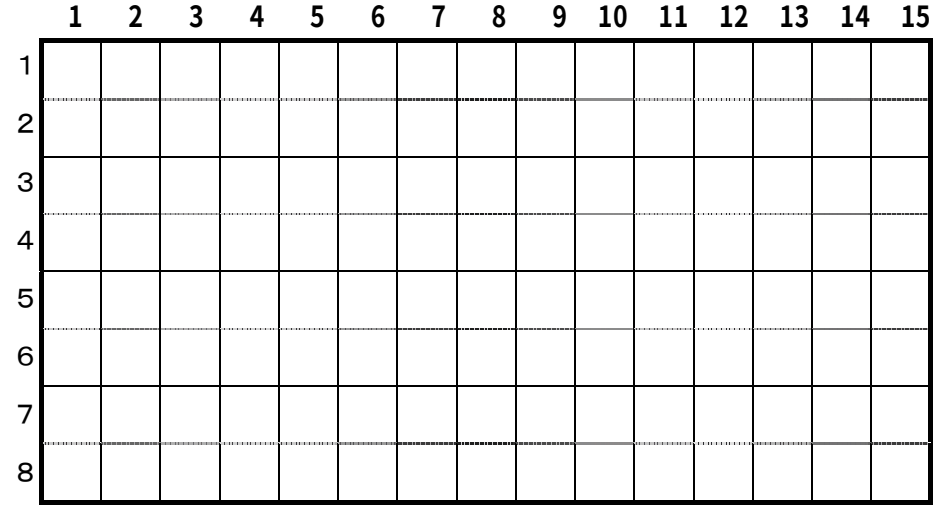
Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

17. 2　Model83XXシリーズ

スモールフォント　　（半角）6×8ドット



ラージフォント　　（半角）8×16ドット （全角）16×16ドット

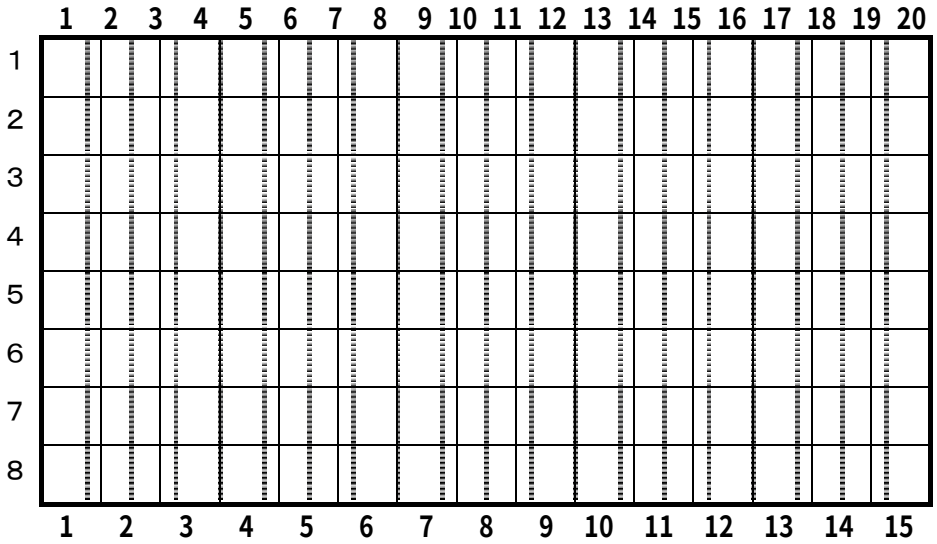


Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

ラージフォント／スモールフォント混在

・ラージフォントは実線、スモールフォントは点線を使用してください。

・画面レイアウトの上側がスモールフォント、下側がラージフォントのカラム（桁）です。



Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

18. システム制限

項目			制限
対応機種	HT	Model80XXシリーズ	
		Model83XXシリーズ	
	プリンタ	TTP／TDPシリーズプリンタ	
	PC	OS	Windows98～XP
ファイル	マスターファイル	ファイル数	最大　6
		1ファイル当たりのフィールド数	最大　10
		キー長	最大　40バイト
		データ長（キーを除く）	最大　210バイト
	データファイル	ファイル数	最大　3
		レコード長	最大　250バイト
	定義ファイル	ファイル数	最大　15
		ファイル名称の長さ	（80XX）最大　16バイト
			（83XX）最大　20バイト
		レコード長	最大　250バイト
環境設定	PRINTLOG	項目数	最大　10
変数・コード定義	変数	宣言可能な変数の数	最大　50
		宣言可能な文字型変数の数	最大　20（変数の数に含まれる）
		変数名の長さ	最大　8バイト
		文字型変数に格納できるバイト数	最大　256バイト
		整数型変数の値	最小値　－999999999
			最大値　999999999
	コード	宣言可能なコードの数	最大　20
		コード名の長さ	最大　8バイト
画面定義	全般	コマンド数	最大　100
	デフォルト書式	実数	小数点以下2桁まで表示
		日時	年月日（YYYY/MM/DD）
	LISTコマンド	使用可能数	最大　3
		表示できる値の数	最大　10
	PUTコマンド	使用可能数	最大　3
		項目数	最大　10
	WRITEコマンド	使用可能数	最大　3
		項目数	最大　10
	飛び先名	宣言可能数	最大　20
		飛び先名の長さ	最大　8バイト
プリンタ設定・ラベル定義	設定名・ラベル名	設定名・ラベル名の最大数	合計して、最大　20
		設定名・ラベル名の長さ	最大　8バイト

Copyright ©2005 WELCOM DESIGN K.K.

ウェルコムデザイン株式会社　行き

Dr. Suketto　ユーザー登録シート

日付　　年　　月　　日

必要事項をご記入の上、FAXにてご送信ください。

※ご記入いただいた個人情報は、製品に関する情報をお客様に提供するために利用致します。
弊社で適正に管理し、お客様に無断で第三者に提供することはございません。

製　品　名	Dr. Suketto for TSC
貴　社　名	
ご　住　所	〒　　－
部　署　名	
ご担当者名	(フリガナ)
E－Mail	
電話番号	(　　)　　－
FAX番号	(　　)　　－

通信欄	Dr.Suketto をご購入いただいたきっかけ、Dr.Suketto に関するご意見・ご要望など、よろしければご記入ください。　※いただいたご意見への返答はできかねます。あらかじめご了承ください。

FAX番号　：　078－993－6020

ウェルコムデザイン株式会社

本社　　〒651－2242
神戸市西区井吹台東町1丁目1番1　西神南センタービル5F
Phone. 078－993－6010（代）　Fax. 078－993－6020

東京営業所　〒110－0005
東京都台東区上野1－2－5　黒門町ビル2F
Phone. 03－3836－8411（代）　Fax. 03－3836－9412